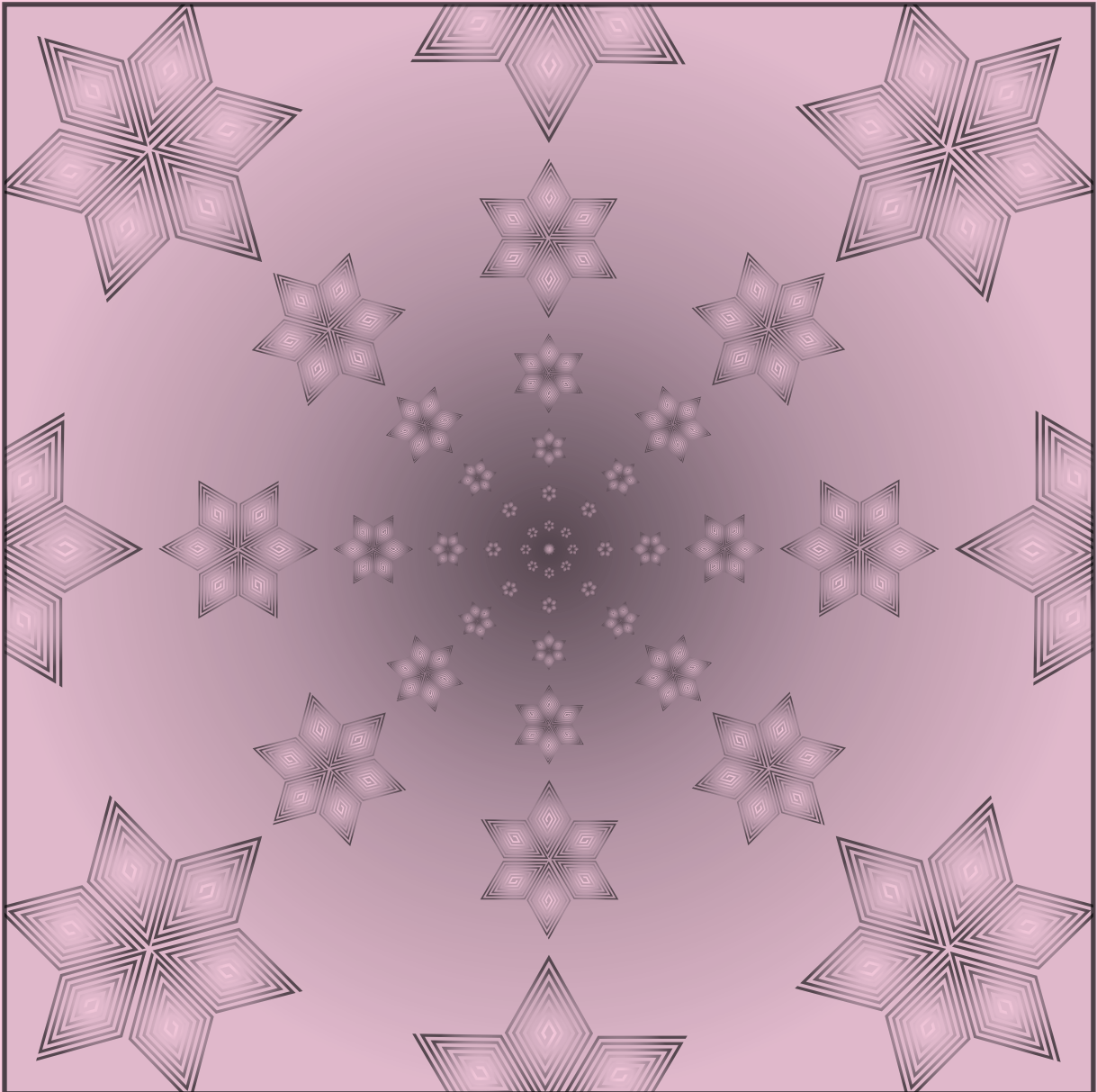


---

2013年度

---

# シラバス ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

---

獨協大学

# — 目 次 —

シラバスの見方	-----	2
ドイツ語学科授業科目（2009年度以降入学者用）		
外国語科目、演習科目	-----	3
概論・専門講義・テキスト研究科目、交流文化論	-----	4
ドイツ語学科授業科目（2005年度以降入学者用）		
学科基礎科目、学科共通科目	-----	6
学科専門科目 「Ⅰ類部門」、「Ⅱ類部門」	-----	7
学科専門科目 「Ⅲ類部門」、卒業論文	-----	8
外国語学部共通科目	-----	9
担当者別シラバス	-----	11

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

## 【シラバスの見方】

### 1. ドイツ語学科授業科目表について

#### ①シラバスページの検索方法

ページ両端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

科目は、学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

#### ②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

全：ドイツ語学科以外の全学部学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

### 2. シラバスページの見方(右図参照)

#### ①入学年度

09年度以降……2009年度以降入学者

08年度以前……2008年度以前入学者

05年度以降……2005年度以降入学者

#### ②入学年度に対応した科目名

#### ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

#### ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

#### ⑤授業で使用するテキスト、参考文献

#### ⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>春学期</b>		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>秋学期</b>		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

### 3. 注意事項

#### ①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

#### ②定員

定員を設けている科目もあります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

# ドイツ語学科授業科目(2009~2012年度入学者用)

## 外国語科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全		11
総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全		11
総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全		12
総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全		12
基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全		13
基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全		13
応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	2	全		14
応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	2	全		14
中級ドイツ語リーディング a	P. ハインリヒ	春	火3	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング b	P. ハインリヒ	秋	火3	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング a	K. O. バイスヴェンガー	春	火4	1	2		B 25	16
中級ドイツ語リーディング b	K. O. バイスヴェンガー	秋	火4	1	2		B 25	16
中級ドイツ語ライティング a	H. W. ラーデケ	春	火2	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング b	H. W. ラーデケ	秋	火2	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング a	T. マイヤー	春	木3	1	2		B 25	18
中級ドイツ語ライティング b	T. マイヤー	秋	木3	1	2		B 25	18
中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング a	H. J. トロル	春	金1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語スピーキング b	H. J. トロル	秋	金1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語リスニング(CAL) a	H. W. ラーデケ	春	火4	1	2		A 25	21
中級ドイツ語リスニング(CAL) b	H. W. ラーデケ	秋	火4	1	2		A 25	21
中級ドイツ語リスニング(CAL) a	D. オルランド	春	木2	1	2		B 25	22
中級ドイツ語リスニング(CAL) b	D. オルランド	秋	木2	1	2		B 25	22
英語	M. J. クロフォード	春	金2	1	2			23
英語	M. J. クロフォード	秋	金2	1	2			23
総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春	木3	2	3		既・A・B 35	24
総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋	火3	2	3		既・A・B 35	24
総合ドイツ語Ⅶ	各担当教員	春	木2	2	4		既・A・B 35	25
総合ドイツ語Ⅷ	各担当教員	秋	月2	2	4		既・A・B 35	25
上級ドイツ語リーディング a	K. O. バイスヴェンガー	春	水2	2	3		35	26
上級ドイツ語リーディング b	K. O. バイスヴェンガー	秋	水2	2	3		35	26
上級ドイツ語リーディング a	R. メッツィング	春	金2	2	3		35	27
上級ドイツ語リーディング b	R. メッツィング	秋	金2	2	3		35	27
上級ドイツ語ライティング a	R. ザンドロック	春	月2	2	3		35	28
上級ドイツ語ライティング b	R. ザンドロック	秋	月2	2	3		35	28
上級ドイツ語ライティング a	T. マイヤー	春	火2	2	3		35	29
上級ドイツ語ライティング b	T. マイヤー	秋	火2	2	3		35	29
上級ドイツ語ライティング a	A. ヴェルナー	春	金2	2	3		35	30
上級ドイツ語ライティング b	A. ヴェルナー	秋	金2	2	3		35	30
上級ドイツ語スピーキング a	H. W. ラーデケ	春	木3	2	3		35	31
上級ドイツ語スピーキング b	H. W. ラーデケ	秋	木3	2	3		35	31
上級ドイツ語スピーキング a	P. ハインリヒ	春	木4	2	3		35	32
上級ドイツ語スピーキング b	P. ハインリヒ	秋	木4	2	3		35	32
上級ドイツ語スピーキング a	R. ヘニング	春	金2	2	3		35	33
上級ドイツ語スピーキング b	R. ヘニング	秋	金2	2	3		35	33
上級ドイツ語リスニング(CAL) a	R. ヘニング	春	月2	2	3		35	34
上級ドイツ語リスニング(CAL) b	R. ヘニング	秋	月2	2	3		35	34
上級ドイツ語リスニング(CAL) a	T. マイヤー	春	木1	2	3		35	35
上級ドイツ語リスニング(CAL) b	T. マイヤー	秋	木1	2	3		35	35
中世ドイツ語 a	木内 基実	春	水1	2	3			36
中世ドイツ語 b	木内 基実	秋	水1	2	3			36
ビジネスドイツ語 a	A. ヴェルナー	春	水2	2	3			37
ビジネスドイツ語 b	A. ヴェルナー	秋	水2	2	3			37
上級ドイツ語特殊演習	C. デーリヒス	秋	金1	2	3			38
上級英語	辻田 麻里	春	金2	2	3		25	39
上級英語	辻田 麻里	秋	金2	2	3		25	39

## 演習科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
ドイツ語圏入門Ⅰ	柿沼 義孝	春	水3	2	1	全		40
ドイツ語圏入門Ⅱ	柿沼 義孝	秋	水3	2	1	全		40
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春		2	2	全		41
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋		2	2	全		41
通訳特殊演習	中山 純	春	金4	2	3		20	42
通訳特殊演習	中山 純	秋	金4	2	3		20	42
翻訳特殊演習	上田 浩二	春	金2	2	3		20	43
インターンシップ特殊演習	A. ヴェルナー	秋	木2	2	3		35	44
留学準備特殊演習	柿沼 義孝	春	金2	2	3		35	45
外国語教育特殊演習	上田 浩二	秋	金2	2	3		35	46

## 概論・専門講義・テキスト研究科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
ドイツ語概論 a	柿沼 義孝	春	金4	2	1	交		47
ドイツ語概論 b	柿沼 義孝	秋	金4	2	1	交		47
ドイツ語圏文学・思想概論 a	矢羽々 崇	春	火1	2	1	交		48
ドイツ語圏文学・思想概論 b	矢羽々 崇	秋	火1	2	1	交		48
ドイツ語圏の言語 a	木内 基実	春	金2	2	2			49
ドイツ語圏の言語 b	木内 基実	秋	金2	2	2			49
ドイツ語圏の文学 a	高橋 輝暁	春	火3	2	2			50
ドイツ語圏の文学 b	高橋 輝暁	秋	火3	2	2			50
ドイツ語圏の思想 a	工藤 達也	春	月3	2	2			51
ドイツ語圏の思想 b	工藤 達也	秋	月3	2	2			51
テキスト研究(語学・文学・思想) a	能登 慶和	春	月2	2	3		35	52
テキスト研究(語学・文学・思想) b	能登 慶和	秋	月2	2	3		35	52
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	火2	2	3		35	53
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	火2	2	3		35	53
テキスト研究(語学・文学・思想) a	P. ハインリヒ	春	水2	2	3		35	54
テキスト研究(語学・文学・思想) b	P. ハインリヒ	秋	水2	2	3		35	54
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	水2	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	水2	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) a	上田 浩二	春	水4	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) b	上田 浩二	秋	水4	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) a	本橋 右京	春	木1	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) b	本橋 右京	秋	木1	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) a	渡部 重美	春	木3	2	3		35	58
テキスト研究(語学・文学・思想) b	渡部 重美	秋	木3	2	3		35	58
テキスト研究(語学・文学・思想) a	中山 純	春	金3	2	3		35	59
テキスト研究(語学・文学・思想) b	中山 純	秋	金3	2	3		35	59
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木1	2	1	交		60
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木1	2	1	交		60
ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金2	2	2			61
ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金2	2	2			61
ドイツ語圏の演劇 a	上田 浩二	春	金3	2	2			62
ドイツ語圏の演劇 b	上田 浩二	秋	金3	2	2			62
ドイツ語圏のメディア文化 a	秋野 有紀	春	木3	2	2		35	63
ドイツ語圏のメディア文化 b	秋野 有紀	秋	木3	2	2		35	63
テキスト研究(芸術・文化) a	山本 淳	春	火3	2	3		35	64
テキスト研究(芸術・文化) b	山本 淳	秋	火3	2	3		35	64
テキスト研究(芸術・文化) a	K. O. バイスヴェンガー	春	水1	2	3		35	65
テキスト研究(芸術・文化) b	K. O. バイスヴェンガー	秋	水1	2	3		35	65
テキスト研究(芸術・文化) a	高橋 輝暁	春	水4	2	3		35	66
テキスト研究(芸術・文化) b	高橋 輝暁	秋	水4	2	3		35	66
テキスト研究(芸術・文化) a	上田 浩二	春	水5	2	3		35	67
テキスト研究(芸術・文化) b	上田 浩二	秋	水5	2	3		35	67
テキスト研究(芸術・文化) a	前田 智	春	木1	2	3		35	68
テキスト研究(芸術・文化) b	前田 智	秋	木1	2	3		35	68
テキスト研究(芸術・文化) a	飯沼 隆一	春	木3	2	3		35	69
テキスト研究(芸術・文化) b	飯沼 隆一	秋	木3	2	3		35	69

概論・専門講義・テキスト研究科目

科目名	担当者	開講期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
テキスト研究(芸術・文化) a	辻本 勝好	春	金2	2	3		35	70
テキスト研究(芸術・文化) b	辻本 勝好	秋	金2	2	3		35	70
ドイツ語圏現代社会概論 a	岡村 りら	春	火4	2	1			71
ドイツ語圏現代社会概論 b	岡村 りら	秋	火4	2	1			71
ドイツ語圏歴史概論 a	古田 善文	春	木5	2	1	交		72
ドイツ語圏歴史概論 b	古田 善文	秋	木5	2	1	交		72
ドイツ語圏の政治・経済 a	大重 光太郎	春	火2	2	2			73
ドイツ語圏の政治・経済 b	大重 光太郎	秋	火2	2	2			73
ドイツ語圏の歴史 a	増谷 英樹	春	水5	2	2			75
ドイツ語圏の歴史 b	増谷 英樹	秋	水5	2	2			75
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	飯嶋 曜子	春	金4	2	2			76
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	岡村 りら	秋	火3	2	2			76
ドイツ語圏とEU a	飯嶋 曜子	春	木3	2	2	全	200	77
ドイツ語圏とEU b	飯嶋 曜子	秋	木3	2	2	全	200	77
ドイツ語圏現代社会・歴史特殊講義	C. デーリヒス	秋	水3	2	2			78
テキスト研究(現代社会・歴史) a	黒田 多美子	春	火2	2	3		35	79
テキスト研究(現代社会・歴史) b	黒田 多美子	秋	火2	2	3		35	79
テキスト研究(現代社会・歴史) a	永岡 敦	春	火3	2	3		35	80
テキスト研究(現代社会・歴史) b	永岡 敦	秋	火3	2	3		35	80
テキスト研究(現代社会・歴史) a	上村 敏郎	春	火3	2	3		35	81
テキスト研究(現代社会・歴史) b	上村 敏郎	秋	火3	2	3		35	81
テキスト研究(現代社会・歴史) a	下川 浩	春	火4	2	3		35	82
テキスト研究(現代社会・歴史) b	下川 浩	秋	火4	2	3		35	82
テキスト研究(現代社会・歴史) a	岡村 りら	春	水2	2	3		35	83
テキスト研究(現代社会・歴史) b	飯嶋 曜子	秋	水2	2	3		35	83
テキスト研究(現代社会・歴史) a	増谷 英樹	春	水4	2	3		35	84
テキスト研究(現代社会・歴史) b	増谷 英樹	秋	水4	2	3		35	84
テキスト特殊研究(現代社会・歴史) b	C. デーリヒス	秋	水4	2	3			85

交流文化論

科目名	担当者	開講期	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化論(サステイナブル・ツーリズム論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	87
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	春	水3	2	2	交・養・経・法	88
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	水4	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(メディア・ライティング論)	横村 出	春	水4	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	木3	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(表象文化論)	2013年度 不開講						
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	金2	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	井上 泰日子	秋	水1	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	水4	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(ツーリズム文化論)	遠藤 充信	秋	木3	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(パフォーマンス研究)	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(ツーリズム・メディア論)	倉澤 治雄	秋	金1	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金2	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養・経・法	101
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	102

# ドイツ語学科授業科目(2005～2008年度入学者用)

## 学科基礎科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	11
総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	11
基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	13
基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	13
ドイツ語LLⅠ	D. オルランド	春	木2	1	1		21
ドイツ語LLⅡ	D. オルランド	秋	木2	1	1		21
ドイツ語LLⅠ	H. W. ラーデケ	春	火4	1	1		22
ドイツ語LLⅡ	H. W. ラーデケ	秋	火4	1	1		22
総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	12
総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	12
基礎ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	14
基礎ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	14
ドイツ語圏入門Ⅰ	柿沼 義孝	春	水3	2	1	全	40
ドイツ語圏入門Ⅱ	柿沼 義孝	秋	水3	2	1	全	40
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春		2	2	全	41
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋		2	2	全	41

## 学科共通科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春		1	3	全	24
総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋		1	3	全	24
上級ドイツ語(時事)	K. O. バイスヴェンガー	春	水2	2	3		26
上級ドイツ語(時事)	K. O. バイスヴェンガー	秋	水2	2	3		26
上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	春	金2	2	3		27
上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	秋	金2	2	3		27
上級ドイツ語(会話)	H. W. ラーデケ	春	木3	2	3		31
上級ドイツ語(会話)	H. W. ラーデケ	秋	木3	2	3		31
上級ドイツ語(会話)	P. ハインリヒ	春	木4	2	3		32
上級ドイツ語(会話)	P. ハインリヒ	秋	木4	2	3		32
上級ドイツ語(会話)	R. ヘニング	春	金2	2	3		33
上級ドイツ語(会話)	R. ヘニング	秋	金2	2	3		33
上級ドイツ語(作文)	A. ヴェルナー	春	金2	2	3		30
上級ドイツ語(作文)	A. ヴェルナー	秋	金2	2	3		30
上級ドイツ語(作文)	R. ザンドロック	春	月2	2	3		28
上級ドイツ語(作文)	R. ザンドロック	秋	月2	2	3		28
上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	秋	火2	2	3		29
上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	春	火2	2	3		29
中世ドイツ語Ⅰ	木内 基実	春	水1	2	3		36
中世ドイツ語Ⅱ	木内 基実	秋	水1	2	3		36
通訳特殊演習Ⅰ	中山 純	春	金4	2	3		42
通訳特殊演習Ⅱ	中山 純	秋	金4	2	3		42

## 学科専門科目

### 「Ⅰ類」部門

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語学概論Ⅰ	柿沼 義孝	春	金4	2	1		47
ドイツ語学概論Ⅱ	柿沼 義孝	秋	金4	2	1		47
ドイツ文学概論Ⅰ	矢羽々 崇	春	火1	2	1		48
ドイツ文学概論Ⅱ	矢羽々 崇	秋	火1	2	1		48
ドイツ語学各論Ⅰ	木内 基実	春	金2	2	2		49
ドイツ語学各論Ⅱ	木内 基実	秋	金2	2	2		49
ドイツ文学各論Ⅰ	高橋 輝暁	春	火3	2	2		50
ドイツ文学各論Ⅱ	高橋 輝暁	秋	火3	2	2		50
ドイツ語講読(語学)	P. ハイน์リヒ	秋	水2	2	3		54
ドイツ語講読(語学)	P. ハイน์リヒ	春	水2	2	3		54
ドイツ語講読(語学)	中山 純	春	金3	2	3		59
ドイツ語講読(語学)	中山 純	秋	金3	2	3		59
ドイツ語講読(語学)	能登 慶和	秋	月2	2	3		52
ドイツ語講読(語学)	能登 慶和	春	月2	2	3		52
ドイツ語講読(文学)	上田 浩二	秋	水4	2	3		56
ドイツ語講読(文学)	上田 浩二	春	水4	2	3		56
ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	春	木1	2	3		57
ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	秋	木1	2	3		57
ドイツ語講読(文学)	高橋 輝暁	春	水2	2	3		53
ドイツ語講読(文学)	高橋 輝暁	秋	水2	2	3		53

### 「Ⅱ類」部門

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ文化史概論Ⅰ	山本 淳	春	木1	2	1		60
ドイツ文化史概論Ⅱ	山本 淳	秋	木1	2	1		60
ドイツの思想Ⅰ	工藤 達也	春	月3	2	2		51
ドイツの思想Ⅱ	工藤 達也	秋	月3	2	2		51
ドイツの音楽Ⅰ	木村 佐千子	春	金2	2	2		61
ドイツの音楽Ⅱ	木村 佐千子	秋	金2	2	2		61
ドイツの演劇Ⅰ	上田 浩二	春	金3	2	2		62
ドイツの演劇Ⅱ	上田 浩二	秋	金3	2	2		62
ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	秋野 有紀	春	木3	2	2		63
ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	秋野 有紀	秋	木3	2	2		63
ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	春	木3	2	3		58
ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	秋	木3	2	3		58
ドイツ語講読(思想)	高橋 輝暁	春	火2	2	3		55
ドイツ語講読(思想)	高橋 輝暁	秋	火2	2	3		55
ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	秋	水1	2	3		65
ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	春	水1	2	3		65
ドイツ語講読(芸術)	山本 淳	春	火3	2	3		64
ドイツ語講読(芸術)	山本 淳	秋	火3	2	3		64



科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語講読(芸術)	上田 浩二	秋	水5	2	3		67
ドイツ語講読(芸術)	上田 浩二	春	水5	2	3		67
ドイツ語講読(芸術)	前田 智	秋	木1	2	3		68
ドイツ語講読(芸術)	前田 智	春	木1	2	3		68
ドイツ語講読(芸術)	辻本 勝好	春	金2	2	3		70
ドイツ語講読(芸術)	辻本 勝好	秋	金2	2	3		70
ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	秋	木3	2	3		69
ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	春	木3	2	3		69
ドイツ語講読(芸術)	高橋 輝暁	春	水4	2	3		66
ドイツ語講読(芸術)	高橋 輝暁	秋	水4	2	3		66

### 「Ⅲ類」部門

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ史概論Ⅰ	古田 善文	春	木5	2	1		72
ドイツ史概論Ⅱ	古田 善文	秋	木5	2	1		72
ドイツの歴史Ⅰ	増谷 英樹	春	水5	2	2		75
ドイツの歴史Ⅱ	増谷 英樹	秋	水5	2	2		75
ドイツの地誌・民俗Ⅰ	飯嶋 曜子	春	金4	2	2		76
ドイツの地誌・民俗Ⅱ	岡村 りら	秋	火3	2	2		76
ドイツの政治・対外関係Ⅰ	飯嶋 曜子	春	木3	2	2	全	77
ドイツの政治・対外関係Ⅱ	飯嶋 曜子	秋	木3	2	2	全	77
ドイツの経済Ⅰ	大重 光太郎	春	火2	2	2		73
ドイツの経済Ⅱ	大重 光太郎	秋	火2	2	2		73
ドイツの法律Ⅰ	市川 須美子	春	木3	2	2	法	74
ドイツの法律Ⅱ	宗田 貴行	秋	木3	2	2	法	74
ドイツ語講読(歴史)	下川 浩	春	火4	2	3		82
ドイツ語講読(歴史)	下川 浩	秋	火4	2	3		82
ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	秋	火2	2	3		79
ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	春	火2	2	3		79
ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	春	水4	2	3		84
ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	秋	水4	2	3		84
ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	春	火3	2	3		80
ドイツ語講読(社会)	永岡 敦	秋	火3	2	3		80
ドイツ語講読(社会)	岡村 りら	春	水2	2	3		83
ドイツ語講読(社会)	飯嶋 曜子	秋	水2	2	3		83
ドイツ語講読(社会)	上村 敏郎	春	火3	2	3		81
ドイツ語講読(社会)	上村 敏郎	秋	火3	2	3		81

## 外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	片山 亜紀	春	水3	2	1	養・経・法	103
総合講座	佐野 康子	秋	水3	2	1	養・経・法	103
総合講座	廣田 愛理	春	水1	2	1	養・経・法	104
総合講座	廣田 愛理	秋	水1	2	1	養・経・法	104
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	105
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	107
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	107
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	108
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	109
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	109
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	109
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	109
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	110
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	110
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	111
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	111
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	111
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	111
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	111
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	112
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	112
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	113
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	水4	2	2	英・養・経・法	114
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	113
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	水4	2	2	英・養・経・法	114
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	115
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	115
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	115
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	115
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	116
経済原論a	野村 容康	春	木2	2	2	養・経・法	117
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2	2	養・経・法	117
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

# ドイツ語学科科目シラバス

05年度以降	総合ドイツ語 I	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt; ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、1年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれていますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt; 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol> <p>&lt;未習クラス&gt; テキストの1～7課</p> <p>&lt;既習クラス&gt; 初回授業時に指示</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt; 『Schritte international 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) &gt; 初回授業時までに購入 &lt;既習クラス&gt; 初回授業時に指示</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。</p>	

05年度以降	総合ドイツ語 II	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt; ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、1年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれていますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt; 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol> <p>&lt;未習クラス&gt; テキストの8～14課</p> <p>&lt;既習クラス&gt; 初回授業時に指示</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt; 『Schritte international 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) &gt; 初回授業時までに購入 &lt;既習クラス&gt; 初回授業時に指示</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。</p>	

05年度以降	総合ドイツ語 III	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;  ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれていますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt;  別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの1～7課 7. } <既習クラス> 8. } 初回授業時に指示 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<未習クラス> 『Schritte international 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時までに購入 <既習クラス> 初回授業時に指示		平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。	

05年度以降	総合ドイツ語 IV	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;  ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれていますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt;  別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの8～14課 7. } <既習クラス> 8. } 初回授業時に指示 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<未習クラス> 『Schritte international 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時までに購入 <既習クラス> 初回授業時に指示		平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 V へ進めません。	

05年度以降	基礎ドイツ語 I	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス (2~7組) &gt;  春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。  この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。  具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。  詳細 (授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等) については、初回授業時に説明します。</p> <p>&lt;既習クラス (1組) &gt;  ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの1~10課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<未習クラス> 矢羽々(他) : 『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス> 初回授業時に指示		<未習クラス> 学期末統一試験の結果によって評価 <既習クラス> 初回授業時に指示	

05年度以降	基礎ドイツ語 II	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス (2~7組) &gt;  春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。  この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。  具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。  詳細 (授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等) については、初回授業時に説明します。</p> <p>&lt;既習クラス (1組) &gt;  ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの11~20課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<未習クラス> 矢羽々(他) : 『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス> 初回授業時に指示		<未習クラス> 学期末統一試験の結果によって評価 <既習クラス> 初回授業時に指示	

09年度以降 08年度以前	応用ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;目的&gt;「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-InstitutのZD (Zertifikat Deutsch)および独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p>&lt;概要&gt;テキストに従って、とりわけ読解と作文に重点を置いた応用的なトレーニングを行います。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p>&lt;注意事項&gt;効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。</p> <p>*既習クラス： ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>		<p>第1週 授業の概要説明／テキスト：Lektion 1 第2週 Lektion 1 第3週 Lektion 2 第4週 Lektion 2／小テスト 第5週 Lektion 3 第6週 Lektion 3／Lektion 4 第7週 Lektion 4 第8週 小テスト／Lektion 5 第9週 Lektion 5 第10週 Lektion 6 第11週 Lektion 6／小テスト 第12週 Lektion 7 第13週 Lektion 7／Lektion 8 第14週 Lektion 8 第15週 小テスト／授業のまとめ 備考：1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p> <p>*既習クラス： 授業計画が別立てとなります。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;テキスト&gt; 大谷弘道『ドイツ人を知る9章+1』（三修社）2011年 *既習クラス：別のテキストを使用します。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。</p>		<p>小テストおよび学期末試験（出席状況にもとづく受験制限がありますので、注意してください）により評価します。 *既習クラス：評価方法が異なります。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>	

09年度以降 08年度以前	応用ドイツ語Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅳ	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;目的&gt;「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-InstitutのZD (Zertifikat Deutsch)および独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p>&lt;概要&gt;テキストに従って、とりわけ読解と作文に重点を置いた応用的なトレーニングを行います。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p>&lt;注意事項&gt;効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。</p> <p>*既習クラス： ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>		<p>第1週 授業の概要説明／テキスト：Kapitel 1 第2週 Kapitel 1 第3週 Kapitel 2 第4週 Kapitel 2／小テスト 第5週 Kapitel 3 第6週 Kapitel 3／Kapitel 4 第7週 Kapitel 4 第8週 小テスト／Kapitel 5 第9週 Kapitel 5 第10週 Kapitel 6 第11週 Kapitel 6／小テスト 第12週 Kapitel 7 第13週 Kapitel 7／Kapitel 8 第14週 Kapitel 8 第15週 小テスト／授業のまとめ 備考：1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p> <p>*既習クラス： 授業計画が別立てとなります。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;テキスト&gt;Schmidt/Duppel-Takayama/三ツ石/和泉『現代ドイツを学ぶための10章 (Kennzeichen.de junior)』（三修社）2009年 *既習クラス：別のテキストを使用します。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。</p>		<p>小テストおよび学期末試験（出席状況にもとづく受験制限がありますので、注意してください）により評価します。 *既習クラス：評価方法が異なります。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p>	

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir Texte, die sich mit Universität und Studium in Deutschland beschäftigen. Dabei sollen bestimmte Vokabeln aber auch soziale Regeln gelernt werden. Auch Studentensprache und gegenwärtige Trends, Zukunftsaussichten und Zukunftsängste werden in dem Kurs behandelt. Im Kurs werden Texte auf Mittelstufenniveau behandelt und diskutiert. Besonders für Studierende, die einmal in Deutschland studieren möchten, wird dieser Kurs empfohlen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Studentenaustausch I</li> <li>2. Studentenaustausch II</li> <li>3. Studentenparty I</li> <li>4. Studentenparty II</li> <li>5. Erstis I</li> <li>6. Erstis II</li> <li>7. Praktika I</li> <li>8. Praktika II</li> <li>9. Studiengebühren I</li> <li>10. Studiengebühren II</li> <li>11. WG und Wohnheim I</li> <li>12. WG und Wohnheim II</li> <li>13. Bafög I</li> <li>14. Bafög II</li> <li>15. Wiederholung</li> </ol>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以上でも受講可。)</p> </div>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden in der Veranstaltung verteilt.		Mitarbeit in der Veranstaltung & Test	

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	P. ハインリッヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir Texte, die sich mit Universität und Studium in Deutschland beschäftigen. Dabei sollen bestimmte Vokabeln aber auch soziale Regeln gelernt werden. Auch Studentensprache und gegenwärtige Trends, Zukunftsaussichten und Zukunftsängste werden in dem Kurs behandelt. Im Kurs werden Texte auf Mittelstufenniveau behandelt und diskutiert. Besonders für Studierende, die einmal in Deutschland studieren möchten, wird dieser Kurs empfohlen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Vorlesung und Seminar</li> <li>2. Vorlesung und Seminar</li> <li>3. Referat</li> <li>4. Referat</li> <li>5. Hausarbeit</li> <li>6. Hausarbeit</li> <li>7. Professoren</li> <li>8. Professoren</li> <li>9. Akademisches Auslandsamt</li> <li>10. Akademisches Auslandsamt</li> <li>11. Mensa</li> <li>12. Mensa</li> <li>13. Studentenjob</li> <li>14. Studentenjob</li> <li>15. Wiederholung</li> </ol>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以上でも受講可。)</p> </div>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden in der Veranstaltungen verteilt.		Mitarbeit in der Veranstaltung & Test	



09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	K. O. バイスヴェンガー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für weiterführende Arbeiten. Die Texte sind einfach und haben verschiedene Themen zum Inhalt. Jedes Thema wird mit einer Wortschatzarbeit eingeleitet.</p> <p>Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<p>1 Einführung 2-4: Freizeit und Hobby 5-7: Wohnen und Leben 8-10: Reisen 11-13: Berufe 14-15: Feste</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	K. O. バイスヴェンガー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für weiterführende Arbeiten. Die Texte sind einfach und haben verschiedene Themen zum Inhalt. Jedes Thema wird mit einer Wortschatzarbeit eingeleitet.</p> <p>Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<p>1: Einführung 2-4: Essen und Trinken 5-7: Mode und Einkaufen 8-10: Sport 11-13: Deutsche Lebensläufe 14-15: Familiäre Beziehungen</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien		Aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Kursinhalt</b></p> <p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Wir behandeln typische Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Daneben können auch einfache literarische Textsorten einbezogen werden.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Anlässen schriftlich sorgfältig und korrekt auszudrücken. Dabei werden neben dem Inhalt vor allem auch Aspekte wie Satzbau, Formen und Stil berücksichtigt.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg</li> <li>2. Übung 1</li> <li>3. Übung 2</li> <li>4. Übung 3</li> <li>5. Übung 4</li> <li>6. Übung 5</li> <li>7. Übung 6</li> <li>8. Übung 7</li> <li>9. Übung 8</li> <li>10. Übung 9</li> <li>11. Übung 10</li> <li>12. Übung 11</li> <li>13. Übung 12</li> <li>14. Übung 13</li> <li>15. Übung 14</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以上でも受講可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Kursinhalt</b></p> <p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des schriftlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten und Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, die schriftlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg</li> <li>2. Übung 1</li> <li>3. Übung 2</li> <li>4. Übung 3</li> <li>5. Übung 4</li> <li>6. Übung 5</li> <li>7. Übung 6</li> <li>8. Übung 7</li> <li>9. Übung 8</li> <li>10. Übung 9</li> <li>11. Übung 10</li> <li>12. Übung 11</li> <li>13. Übung 12</li> <li>14. Übung 13</li> <li>15. Übung 14</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以上でも受講可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 2. Studienjahrs. Das Unterrichtsmaterial wird im Wesentlichen auf dem „Schreiben Intensivtrainer A1/A2“ von Langenscheidt beruhen. Diverse Schreibaufgaben werden nach entsprechender Vorbereitung im Unterricht zu erledigen und ggf. zu Hause zu komplettieren sein. Besprechungen und Fehleranalysen sollen zu einem bewussteren Schreiben und zu groesserer Sicherheit bei Textaufbau und Textgliederung fuehren. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant sowie einige kreative Schreibaufgaben.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<p>第1回目の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmaessigen Teilnahme, Unterrichtsbeitraegen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen.	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 2. Studienjahrs. Das Unterrichtsmaterial wird im Wesentlichen auf dem „Schreiben Intensivtrainer A1/A2“ von Langenscheidt beruhen. Diverse Schreibaufgaben werden nach entsprechender Vorbereitung im Unterricht zu erledigen und ggf. zu Hause zu komplettieren sein. Besprechungen und Fehleranalysen sollen zu einem bewussteren Schreiben und zu groesserer Sicherheit bei Textaufbau und Textgliederung fuehren. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant sowie einige kreative Schreibaufgaben.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<p>第1回目の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmaessigen Teilnahme, Unterrichtsbeitraegen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel dieses Kurses ist das fundierte Äußern zu aktuellen Themen, die von den Teilnehmern ausgewählt bzw. vom Lehrer vorgegeben werden. Auf die Probe gestellt wird die Fähigkeit, die Gesprächspartner für sein Thema zu interessieren und sie in ein Gespräch zu verwickeln. Voraussetzung ist die Bereitwilligkeit, Inhalte über die gewöhnlichen Alltagsthemen hinaus zu erarbeiten und zur Diskussion zu stellen. Auch das Wissen aus anderen Erfahrungsbereichen soll ins Deutschlernen einfließen.</p> <p>Reguläre Paar- und Gruppenarbeit wird ergänzt durch Plenarsitzungen, in denen es Gelegenheit gibt, erprobte Inhalte vor einem größeren Publikum zu präsentieren. Um das Verständnis zu fördern, werden, je nach Bedarf, im Vorfeld übersetzte Stichwörter, visuelle Hilfsmittel und kompakte Zusammenfassungen eingesetzt.</p> <p>Als Alternative besteht die Möglichkeit, von Anfang an Arbeitsgruppen um bestimmte Themenkreise zu bilden, die sich abwechselnd beispielsweise mit Reiseberichten, Studentendarbeit, deutschen und japanischen Bräuchen, Festen und Feiertagen u.s.w. beschäftigen.</p>		<p>1. Auswahl von Gesprächsthemen und -situationen für das Sommersemester unter Berücksichtigung der Wünsche der Kursteilnehmer.</p> <p>2.-15. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern und Vorführungen vor der Klasse.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder kurze Texte ausgehändigt oder visuelle Materialien bereitgestellt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Anschluss an die Dialog- und Präsentationsarbeit des 1. Semesters orientieren sich die Gesprächsthemen noch stärker an individuellen Präferenzen. Dabei üben wir vor allem Initiieren und rasches verbales Reagieren bei ernstesten Diskussionen und im lockeren Gespräch, um erwartete wie auch unerwartete Aussagen und Fragen beantworten zu können. Von größter Wichtigkeit ist ein aktives Interesse an der laufenden Erweiterung des eigenen Wortschatzes, wozu gerade das Format dieses Kurses viel Gelegenheit bietet.</p> <p>Neben einem bereicherten Wortschatz gehören auch Strategien zum Themawechsel und zum Beenden des Gesprächs auf höfliche Weise zum Erfolgsrezept.</p> <p>„Musterbeispiele“, die besonders den Einstieg für alle neuen TeilnehmerInnen erleichtern, werden in Form von Fotokopien oder audio-visuellen Materialien zur Verfügung gestellt.</p>		<p>1. Auswahl der Themen für das Wintersemester unter Berücksichtigung der Wünsche und Vorschläge der Kursteilnehmer.</p> <p>2.-15. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder kurze Texte ausgehändigt oder visuelle Materialien bereitgestellt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Wir beginnen einfach, mit langsamen Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich fuer einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage fuer Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einleitung</li> <li>2. Wiederholungen aller Art</li> <li>3. Deutschlandkunde</li> <li>4. Lektion 1</li> <li>5. Lektion 2 a</li> <li>6. Lektion 2b</li> <li>7. Kleiner Test und Video</li> <li>8. Lektion 3a</li> <li>9. Lektion 3b</li> <li>10. Lektion 4a</li> <li>11. Lektion 4b</li> <li>12. Kleiner Test und Video</li> <li>13. Lektion 5a</li> <li>14. Lektion 5b</li> <li>15. Zusammenfassung</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Szenen 2 (ISBN978-4-384-13083-6) Sanshusha		Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. J. トロル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Das Gleiche wie oben wird angewandt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einleitung</li> <li>2. Wiederholungen aus dem ersten Semester</li> <li>3. Lektion 6a</li> <li>4. Lektion 6b</li> <li>5. Lektion 7a</li> <li>6. Lektion 7b</li> <li>7. Lektion 8a</li> <li>8. Lektion 8b</li> <li>9. Kleiner Test und Video</li> <li>10. Lektion 9a</li> <li>11. Lektion 9b</li> <li>12. Lektion 10a</li> <li>13. Lektion 10b</li> <li>14. Kleiner Test und Video</li> <li>15. Zusammenfassung/Abschluss</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Lehrbuch wie oben: Szenen 2 (ISBN978-4-384-13083-6) Sanshusha		Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Kursinhalt</b></p> <p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand praktischer Beispiele. Dabei verwenden wir Hörtexte aus typischen Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Daneben können auch einfache Hörspiele eingesetzt werden.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, diese Hörtexte zu verstehen, sowie damit verbundene Aufgaben lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren.</p> <hr/> <p><b>Weitere Informationen</b></p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können in relevantem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg</li> <li>2. Übung 1</li> <li>3. Übung 2</li> <li>4. Übung 3</li> <li>5. Übung 4</li> <li>6. Übung 5</li> <li>7. Übung 6</li> <li>8. Übung 7</li> <li>9. Übung 8</li> <li>10. Übung 9</li> <li>11. Übung 10</li> <li>12. Übung 11</li> <li>13. Übung 12</li> <li>14. Übung 13</li> <li>15. Übung 14</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以上でも受講可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Kursinhalt</b></p> <p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Hörverstehens. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <hr/> <p><b>Weitere Informationen</b></p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können in relevantem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg</li> <li>2. Übung 1</li> <li>3. Übung 2</li> <li>4. Übung 3</li> <li>5. Übung 4</li> <li>6. Übung 5</li> <li>7. Übung 6</li> <li>8. Übung 7</li> <li>9. Übung 8</li> <li>10. Übung 9</li> <li>11. Übung 10</li> <li>12. Übung 11</li> <li>13. Übung 12</li> <li>14. Übung 13</li> <li>15. Übung 14</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以上でも受講可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	D. オルランド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Im Frühlingsemester werden wir kurze, deutschsprachige Film- und Podcastausschnitte sehen und/oder hören. Es wird sich dabei um beliebte Fotonovelas oder Sprachsendungen zum Deutschlernen handeln.</p> <p>Da die Folgen auch Informationen zur Landeskunde oder verschiedene Grammatikaspekte beinhalten, werden wir diese Punkte ebenfalls im Unterricht aufgreifen und vertiefen.</p> <p>Auch werden wir Hörtexte selbst schreiben und aufnehmen, damit wir diese als Unterrichtsmaterial benutzen können.</p> <p>Bei dem Semesterplan handelt es sich um eine vorläufige Planung, da sich der Kurs nach dem Niveau der StudentInnen richtet. Vorschläge werden natürlich angenommen und können zu einer Änderung des Programms führen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einführung. Fotonovelas und Podcast</li> <li>2. Wohngemeinschaft.</li> <li>3. Einkaufen.</li> <li>4. Kleidung und Mode (1).</li> <li>5. Kleidung und Mode (2).</li> <li>6. Sprache.</li> <li>7. Jugend und Liebe.</li> <li>8. Träume.</li> <li>9. Jobs und Arbeit.</li> <li>10. Ferienzeit.</li> <li>11. Sport in Deutschland.</li> <li>12. Fußball in Deutschland.</li> <li>13. Produktion eines Hörtextes.</li> <li>14. Produktion eines Hörtextes.</li> <li>15. Ausarbeitung der erstellten Hörtexte.</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Texte werden ausgehändigt		Regelmäßige Teilnahme. Aktive Teilnahme. Erstellung eines Hörtextes. Hören der Beiträge als Hausaufgabe	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	D. オルランド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Im Herbstsemester werden wir hauptsächlich Podcastbeiträge hören und Sprachsendungen sehen, die über Deutschland handeln.</p> <p>Wir werden nicht nur das Hörverständnis trainieren, sondern auch über die Informationen zu Deutschland oder über die erwähnten Grammatikpunkte sprechen.</p> <p>Die Teilnehmer sollen zudem selbst Texte verfassen und im Unterricht aufnehmen. Diese Texte werden wir uns anhören und als Unterrichtsmaterial benutzen.</p> <p>Dieser Kurs richtet sich nach dem Niveau der Teilnehmer. Die Themen werden deshalb in der Anfangswoche mit den Studenten besprochen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einführung. Themenbesprechung.</li> <li>2. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>3. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>4. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>5. Produktion eines Hörtextes.</li> <li>6. Produktion eines Hörtextes.</li> <li>7. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>8. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>9. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>10. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>11. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>12. Podcast/Filmbeitrag</li> <li>13. Produktion eines Hörtextes.</li> <li>14. Produktion eines Hörtextes.</li> <li>15. Ausarbeitung der erstellten Hörtexte</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Texte werden ausgehändigt.		Regelmäßige Teilnahme. Aktive Teilnahme. Erstellung eines Hörtextes. Hören der Beiträge als Hausaufgabe	

09年度以降	英語	担当者	M. クロフォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p>Minimum TOEIC score required: 450</p>		<p>Week 1: Introduction to the course  Week 2: Reading passage 1  Week 3: Listening passage 1, planning session 1  Week 4: Reading passage 2, planning session 2  Week 5: Listening passage 2, planning session 3  Week 6: Group presentations, reading passage 3  Week 7: Group presentations, listening passage 3  Week 8: Reading passage 4  Week 9: Listening passage 4  Week 10: Reading passage 5  Week 11: Listening passage 5  Week 12: Listening passage 6  Week 13: Individual presentations  Week 14: Individual presentations  Week 15: Individual presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (20%), presentations (60%)	

09年度以降	英語	担当者	M. クロフォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p>Minimum TOEIC score required: 450</p>		<p>Week 1: Introduction to the course  Week 2: Reading passage 1  Week 3: Listening passage 1, planning session 1  Week 4: Reading passage 2, planning session 2  Week 5: Listening passage 2, planning session 3  Week 6: Group presentations, reading passage 3  Week 7: Group presentations, listening passage 3  Week 8: Reading passage 4  Week 9: Listening passage 4  Week 10: Reading passage 5  Week 11: Listening passage 5  Week 12: Listening passage 6  Week 13: Individual presentations  Week 14: Individual presentations  Week 15: Individual presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (20%), presentations (60%)	



05 年度以降	総合ドイツ語 V	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;ネイティブ教員のための授業（週 2 コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt;別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p> <p><b>*注意！</b>          &gt;09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語 V」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回=4 単位）となります。          &gt;未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語 IV の成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。          &gt;ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語 V」（既習クラス用）を受講してください。          &gt;詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol> <p>&lt;未習クラス&gt; テキストの 1～7 課</p> <p>&lt;既習クラス&gt; 初回授業時に指示</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;『Schritte international 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）&gt;初回授業時までに購入          &lt;既習クラス&gt;初回授業時に指示</p>		<p>平常点や試験の結果等を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 V の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 VI へ進めません。</p>	

05 年度以降	総合ドイツ語 VI	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;ネイティブ教員のための授業（週 2 コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt;別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p> <p><b>*注意！</b>          &gt;09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語 VI」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回=4 単位）となります。          &gt;未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語 V の成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。          &gt;ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語 VI」（既習クラス用）を必ず受講してください。          &gt;詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol> <p>&lt;未習クラス&gt; テキストの 8～14 課</p> <p>&lt;既習クラス&gt; 初回授業時に指示</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;『Schritte international 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）&gt;初回授業時までに購入          &lt;既習クラス&gt;初回授業時に指示</p>		<p>平常点や試験の結果等を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 VI の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 VII へ進めません。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt;別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p> <p><b>*注意！</b>          &gt;09年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅶ」は選択必修（1学期に2単位×週2回=4単位）となります。          &gt;未習の学生用には、Aクラス（総合ドイツ語Ⅵの成績がA以上の学生用）とBクラス（同、B以下の学生用）の2クラスが開設されます。          &gt;ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅶ」（既習クラス用）を受講してください。          &gt;詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol>	
<p>&lt;未習クラス&gt;          テキストの1～4課          各教員が追加教材を適宜準備する</p> <p>&lt;既習クラス&gt;          初回授業時に指示</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch) 』(Hueber)          &gt;初回授業時まで購入。（総合ドイツ語Ⅷも同テキストを使用）          &lt;既習クラス&gt;初回授業時に指示</p>		<p>平常点や試験の結果等を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅶの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅷへ進めません。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>&lt;既習クラス&gt;別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。</p> <p><b>*注意！</b>          &gt;09年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅷ」は選択必修（1学期に2単位×週2回=4単位）となります。          &gt;未習の学生用には、Aクラス（総合ドイツ語Ⅶの成績がA以上の学生用）とBクラス（同、B以下の学生用）の2クラスが開設されます。          &gt;ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅷ」（既習クラス用）を必ず受講してください。          &gt;詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol>	
<p>&lt;未習クラス&gt;          テキストの5～8課          各教員が追加教材を適宜準備する</p> <p>&lt;既習クラス&gt;          初回授業時に指示</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>&lt;未習クラス&gt;『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch) 』(Hueber)          &gt;総合ドイツ語ⅦⅧでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。&lt;既習クラス&gt;初回授業時に指示</p>		<p>平常点や試験の結果等を総合して評価します</p>	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語リーディング a 上級ドイツ語 (時事)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Es gibt unterschiedliche Formen des Leseverstehens: globales, selektives und detailliertes Leseverstehen. Im Kurs sollen nach vorbereitenden Wortschatzarbeiten die verschiedenen Formen anhand von verschiedenen Themenfeldern geübt werden. Die Übungen zielen darauf, dass Aufgaben zum Leseverstehen in Testformen wie Start 2 oder Zertifikat Deutsch gelöst werden können. Testbeispiele werden im Unterricht vorgestellt und erarbeitet.</p> <p>Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.</p>		<p>1: Einführung 2-4: Essen und Trinken 5-7: Deutschland mit anderen Augen 8-10: Deutsche Städte: Köln und Berlin 11-13: Alltagsprobleme 14-15: Deutsche Geschichte im Film</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語リーディング b 上級ドイツ語 (時事)	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Es gibt unterschiedliche Formen des Leseverstehens: globales, selektives und detailliertes Leseverstehen. Im Kurs sollen nach vorbereitenden Wortschatzarbeiten die verschiedenen Formen anhand von verschiedenen Themenfeldern geübt werden. Die Übungen zielen darauf, dass Aufgaben zum Leseverstehen in Testformen wie Start 2 oder Zertifikat Deutsch gelöst werden können. Testbeispiele werden im Unterricht vorgestellt und erarbeitet.</p> <p>Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.</p>		<p>1: Einführung: 2-4: Sprache und Ausbildung 5-7: Feste und Bräuche 8-10: Tiere 11-13: Miteinander umgehen, oder: die Kunst, keine Fehler zu machen 14-15: Studium in Deutschland</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語リーディング a 上級ドイツ語 (時事)	担当者	R. メッツィング
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Im Sommersemester 2012</p> <p>In diesem Kurs soll das Leseverstehen geschult werden. Das Buch „Lesetraining“ konzentriert sich auf systematische Übungen zur Fertigkeit „Leseverstehen“. Erster Teil: Heranführung der Lerner an den Umgang von Texten und Lesestrategien (Niveau A1/A2). Zweiter Teil: Wortschatzerweiterung und etwas längere Texte mit Übungsaufgaben (Niveau A2). Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.</p>		<p>1.-15. Unterrichtseinheit</p> <p>Es wird jeweils ein Kurztext gelesen und Aufgaben dazu bearbeitet. Danach werden Fragen beantwortet. Ein Diktat des Textes rundet den Unterricht ab.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Es gibt kein Buch, sondern Kopien.		Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語リーディング b 上級ドイツ語 (時事)	担当者	R. メッツィング
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Im Wintersemester 2012/13</p> <p>In diesem Kurs soll das Leseverstehen geschult werden. Aus dem Internet, eine Sage, aus Magazinen z.B. „Deutsch perfekt“ werden aktuelle Kurzbeiträge genommen und gelesen. Außerdem gibt es zu dem Text Fragen. Die Bearbeitung der Texte wird variieren. Mal werden Textteile zusammengefügt, mal Lücken mit Worten gefüllt oder Überschriften zu den Artikeln gefunden werden. Danach soll über das Thema diskutiert werden. Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben. Anwesenheit wird als sehr positiv gewertet.</p>		<p>1.-15. Unterrichtseinheit</p> <p>Es wird jeweils ein Kurztext gelesen bez. nach Aufgabenstellung bearbeitet. Danach werden Fragen beantwortet und selbst Fragen erstellt. Es folgt eine Diskussion über das Thema.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Es gibt kein Buch, sondern Kopien.		Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語 (作文)	担当者	R. ザンドロック
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Für fortgeschrittene Studenten des 3. und 4. Studienjahres: Das Ziel dieses Kurses ist, besser, leichter und schneller schreiben zu lernen.</p> <p>Wir werden verschiedene Übungen machen: Satzschreibübungen mit vorgegebenen Texten, Briefschreibübungen, kreatives Schreiben (Imagination ist wichtig!) ohne und mit Bild- und Zeichnungsvorgabe.</p> <p>Wenn gewünscht, Übungen zum Aufgabenteil "Schriftlicher Ausdruck" der ZD-Prüfung. Bearbeitung von Musterprüfungen.</p> <p>Regelmäßige Hausaufgaben werden erwartet.</p>		<p>Progressiver Aufbau abhängig von der Zahl der Studenten und ihren Vorkenntnissen.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Fotokopien werden gestellt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben, kleine Zwischentests und ein Abschlusstest.	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語 (作文)	担当者	R. ザンドロック
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Für fortgeschrittene Studenten des 3. und 4. Studienjahres: Das Ziel dieses Kurses ist, besser, leichter und schneller schreiben zu lernen.</p> <p>Wir werden verschiedene Übungen machen: Satzschreibübungen mit vorgegebenen Texten, Briefschreibübungen, kreatives Schreiben (Imagination ist wichtig!) ohne und mit Bild- und Zeichnungsvorgabe.</p> <p>Wenn gewünscht, Übungen zum Aufgabenteil "Schriftlicher Ausdruck" der ZD-Prüfung. Bearbeitung von Musterprüfungen.</p> <p>Regelmäßige Hausaufgaben werden erwartet.</p>		<p>Progressiver Aufbau abhängig von der Zahl der Studenten und ihren Vorkenntnissen.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Fotokopien werden gestellt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Schreiben der Hausaufgaben, kleine Zwischentests und ein Abschlusstest.	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語 (作文)	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Dabei stehen besonders Textaufbau und Textgliederung im Vordergrund. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant sowie kreative Schreibaufgaben.		第 1 回目の授業で説明します。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmaessigen Teilnahme, Unterrichtsbeitraegen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen.	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語 (作文)	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Dabei stehen besonders Textaufbau und Textgliederung im Vordergrund. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant sowie kreative Schreibaufgaben.		第 1 回目の授業で説明します。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmaessigen Teilnahme, Unterrichtsbeitraegen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語 (作文)	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schreiben auf Deutsch soll an verschiedenen Textsorten geübt werden. Wir machen Bildbeschreibungen, narrative Texte, Zusammenfassungen, aktuelle Berichte und Filme nacherzählen und zusammenfassen, Protokolle, kurze wissenschaftliche Texte, u.a. Je nach Teilnehmern kann auch kreatives Schreiben, alleine oder in einer kleinen Gruppe angeboten werden.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Teilnahme sind nötig.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Semesterplan und –inhalt besprechen</li> <li>2. Bildbeschreibungen 1. Übung</li> <li>3. 2. Übung</li> <li>4. 3. Übung</li> <li>5. Besprechung der Ergebnisse</li> <li>6. Einen Vorgang beschreiben 1. Übung</li> <li>7. 2. Übung</li> <li>8. 3. Übung</li> <li>9. Besprechung der Ergebnisse</li> <li>10. Eine Geschichte erzählen 1. Übung</li> <li>11. 2. Übung</li> <li>12. 3. Übung</li> <li>13. 4. Übung</li> <li>14. Besprechung der Ergebnisse</li> <li>15. Zusammenfassung, Evaluation des Semesters</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt.		Aktive Mitarbeit, Schriftliche Arbeiten, Test.	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語 (作文)	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schreiben auf Deutsch soll an verschiedenen Textsorten geübt werden. Wir machen schreiben narrative Texte, Zusammenfassungen, aktuelle Berichte und Filme nacherzählen, zusammenfassen und bewerten, für andere Personen Unbekanntes (z.B. kulturelle japanische Charakteristika) erklären, Protokolle, kurze wissenschaftliche Texte, u.a. Je nach Teilnehmern kann auch kreatives Schreiben, alleine oder in einer kleinen Gruppe angeboten werden.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Teilnahme.und Bereitschaft zur Gruppenarbeit sind nötig Eigene Vorschläge für Übungen sind willkommen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Semesterplan und –inhalt besprechen</li> <li>2. Zusammenfassungen 1. Übung</li> <li>3. 2. Übung</li> <li>4. 3. Übung</li> <li>5. Besprechung der Ergebnisse</li> <li>6. Über Filme und Videos schreiben 1. Übung</li> <li>7. 2. Übung</li> <li>8. 3. Übung</li> <li>9. Besprechung der Ergebnisse</li> <li>10. Protokolle, wissenschaftliche Texte 1. Übung</li> <li>11. 2. Übung</li> <li>12. 3. Übung</li> <li>13. 4. Übung</li> <li>14. Besprechung der Ergebnisse</li> <li>15. Zusammenfassung, Evaluation des Semesters</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt.		Aktive Mitarbeit, Schriftliche Arbeiten, Test.	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語 (会話)	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des mündlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Wir behandeln typische Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Sprechansätzen korrekt und klar verständlich zu äußern. Dabei werden neben grammatischen Aspekten auch Intonation (Betonung/Satzmelodie) und Phonetik (Aussprache) trainiert.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des mündlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Lesen, Hören oder Schreiben einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg</li> <li>2. Übung 1</li> <li>3. Übung 2</li> <li>4. Übung 3</li> <li>5. Übung 4</li> <li>6. Übung 5</li> <li>7. Übung 6</li> <li>8. Übung 7</li> <li>9. Übung 8</li> <li>10. Übung 9</li> <li>11. Übung 10</li> <li>12. Übung 11</li> <li>13. Übung 12</li> <li>14. Übung 13</li> <li>15. Übung 14</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des mündlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden neue Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, die mündlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Anforderungen bewältigen können.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg</li> <li>2. Übung 1</li> <li>3. Übung 2</li> <li>4. Übung 3</li> <li>5. Übung 4</li> <li>6. Übung 5</li> <li>7. Übung 6</li> <li>8. Übung 7</li> <li>9. Übung 8</li> <li>10. Übung 9</li> <li>11. Übung 10</li> <li>12. Übung 11</li> <li>13. Übung 12</li> <li>14. Übung 13</li> <li>15. Übung 14</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	



09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語 (会話)	担当者	P. ハイน์リヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs besprechen wir gemeinsam Aspekte des deutschen Alltagslebens. Wir beginnen dabei mit einem kurzen Film, Artikel oder Bild. Anschließend üben wir wichtige Vokabeln und Redewendungen ein, bevor sich Studierende zunächst miteinander unterhalten. Am Ende jeder Stunde geben dann Studierende Ihre Meinung zum besprochenen Thema kurz wieder.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Leben auf dem Land</li> <li>2. Leben in der Stadt</li> <li>3. Ausgehen</li> <li>4. Freunde</li> <li>5. Wochenende</li> <li>6. Hausarbeit</li> <li>7. Hobbies</li> <li>8. Kinder</li> <li>9. Übergänge</li> <li>10. Einkaufen</li> <li>11. Ferien</li> <li>12. Montag ist Schontag</li> <li>13. Kirmes</li> <li>14. Verkehr</li> <li>15. Wiederholung</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Keine		Beteiligung am Unterricht & Test	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語 (会話)	担当者	P. ハイน์リヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs besprechen wir gemeinsam Aspekte des deutschen Alltagslebens. Wir beginnen dabei mit einem kurzen Film, Artikel oder Bild. Anschließend üben wir wichtige Vokabeln und Redewendungen ein, bevor sich Studierende zunächst miteinander unterhalten. Am Ende jeder Stunde geben dann Studierende Ihre Meinung zum besprochenen Thema kurz wieder.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Freitag Abend</li> <li>2. Haustiere</li> <li>3. Sportverein</li> <li>4. Konzert</li> <li>5. Clique</li> <li>6. Beliebte Fernsehsendungen</li> <li>7. Wahlen</li> <li>8. Speed-Dating</li> <li>9. Berufsausbildung</li> <li>10. Ausgleichssport</li> <li>11. Integration</li> <li>12. Feiertage</li> <li>13. Großstädte</li> <li>14. Immermannstraße</li> <li>15. Wiederholung</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Keine		Beteiligung am Unterricht & Test	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話）	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs.</p> <p>Anhand verschiedener Kontexte bzw. Redeanlässe sollen unterschiedliche spezifische Redemittel und Gesprächsstrategien eingeübt werden. Nach einer -lexikalische und pragmatische Aspekte berücksichtigenden -Einführung werden die Themen in kleineren Gruppen erarbeitet und abschließend im Plenum in Form von kleinen Vorträgen, offenen Diskussionen oder Rollenspielen vorgetragen.</p> <p>Ein Themenschwerpunkt sollen Aspekte deutscher und japanischer Kultur sein.</p> <p>Auf Wunsch können auch Übungen einfließen, die auf den mündlichen Teil der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung vorbereiten.</p>		<p>1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen</p> <p>2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します</p> <p>15. Woche: Abschlusstest</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme (45%), den Präsentationen (45%) und dem Abschlusstest (10%) zusammen	

09年度以降 08年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話）	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs.</p> <p>Anhand verschiedener Kontexte bzw. Redeanlässe sollen unterschiedliche spezifische Redemittel und Gesprächsstrategien eingeübt werden. Nach einer -lexikalische und pragmatische Aspekte berücksichtigenden -Einführung werden die Themen in kleineren Gruppen erarbeitet und abschließend im Plenum in Form von kleinen Vorträgen, offenen Diskussionen oder Rollenspielen vorgetragen.</p> <p>Ein Themenschwerpunkt sollen Aspekte deutscher und japanischer Kultur sein.</p> <p>Auf Wunsch können auch Übungen einfließen, die auf den mündlichen Teil der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung vorbereiten.</p>		<p>1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen</p> <p>2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します</p> <p>15. Woche: Abschlusstest</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme (45%), den Präsentationen (45%) und dem Abschlusstest (10%) zusammen	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs.</p> <p>Anhand von didaktisierten Vorträgen, Sketchen und Musikvideos sollen das Hörverstehen auf der Makro- wie auf der Mikroebene trainiert werden. Die Texte werde allein oder in Kleingruppen erarbeitet.</p> <p>Das Textverständnis auf beiden Ebenen wird durch Lückentexte, Verständnisfragen wie auch durch kleine mündliche Vorträge überprüft.</p>		<p>1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen</p> <p>2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します</p> <p>15. Woche: Abschlusstest</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme, den Kurzbeiträgen und dem Diktat zusammen	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs.</p> <p>Anhand von didaktisierten Vorträgen, Sketchen und Musikvideos sollen das Hörverstehen auf der Makro- wie auf der Mikroebene trainiert werden. Die Texte werde allein oder in Kleingruppen erarbeitet.</p> <p>Das Textverständnis auf beiden Ebenen wird durch Lückentexte, Verständnisfragen wie auch durch kleine mündliche Vorträge überprüft.</p>		<p>1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen</p> <p>2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します</p> <p>15. Woche: Abschlusstest</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme, den Kurzbeiträgen und dem Diktat zusammen	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des dritten und vierten Studienjahres. Anhand von Videoausschnitten sowie Radiobeitraegen sollen Aufnahme- und Verstaendnisfaehigkeit gezielt trainiert werden, was sowohl das Verstaendnis groesserer Zusammenhaenge als auch praeziser Details betrifft. Hoeruebungen in Partnerarbeit oder Kleingruppen, Shadowing sowie Diktat-Training gehoeren ebenfalls zum Kursprogramm. Nach Moeglichkeit wird versucht, aktuelle gesellschaftliche Themen aus dem deutschsprachigen Raum zu behandeln.</p>		<p>第1回目の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Aufgabenblaetter und Kopien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.</p>		<p>Die Note wird sich aus der regelmaessigen Teilnahme am Unterricht und den Unterrichtsbeitraegen zusammensetzen . Ausserdem ein Test geplant, der dem Teil ‚Hoerverstehen‘ der ZD-Pruefung entspricht.</p>	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	T. マイヤー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des dritten und vierten Studienjahres. Anhand von Videoausschnitten sowie Radiobeitraegen sollen Aufnahme- und Verstaendnisfaehigkeit gezielt trainiert werden, was sowohl das Verstaendnis groesserer Zusammenhaenge als auch praeziser Details betrifft. Hoeruebungen in Partnerarbeit oder Kleingruppen, Shadowing sowie Diktat-Training gehoeren ebenfalls zum Kursprogramm. Nach Moeglichkeit wird versucht, aktuelle gesellschaftliche Themen aus dem deutschsprachigen Raum zu behandeln.</p>		<p>第1回目の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Unterrichtsmaterialien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.</p>		<p>Die Note wird sich aus der regelmaessigen Teilnahme am Unterricht und den Unterrichtsbeitraegen zusammensetzen . Ausserdem ein Test geplant, der dem Teil ‚Hoerverstehen‘ der ZD-Pruefung entspricht.</p>	

09年度以降 08年度以前	中世ドイツ語 a 中世ドイツ語 I	担当者	木内 基実
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
中高ドイツ語の入門講座です。 発音から基礎文法、例文の解説と講読などの練習をします。		1. 導入 2. 文法 1 とその練習 3. 文法 2 とその練習 4. 文法 3 その練習 5. 文法 4 とその練習 6. 文法 5 とその練習 7. 文法 6 とその練習 8. 文法 7 とその練習 9. 文法 8 とその練習 10. 文法 9 その練習 11. 文法 10 とその練習 12. 文法 11 とその練習 13. 文法 12 とその練習 14. 文法 13 とその練習 15. 講義のまとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料をコピーし、配布します。		小テストと授業参加度を加味して学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09年度以降 08年度以前	中世ドイツ語 b 中世ドイツ語 II	担当者	木内 基実
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期の内容を復習し、詩歌 (Hartmann von Aue、Wolfram von Eschenbach usw.)、叙事詩的作品 (Nibelungenlied usw.) 等の講読をします。		1. 導入 2. 文例 1 とその練習 3. 文例 2 とその練習 4. 文例 3 とその練習 5. 文例 4 とその練習 6. 文例 5 とその練習 7. 文例 6 とその練習 8. 文例 7 とその練習 9. 文例 8 とその練習 10. 文例 9 とその練習 11. 文例 10 とその練習 12. 文例 11 とその練習 13. 文例 12 とその練習 14. 文例 13 とその練習 15. 講義のまとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料をコピーし、配布します。		小テストと授業参加度を加味して学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Ziel des Unterrichts ist es, sich auf Deutsch in einer Firma o.ä. bewegen zu können. Dazu werden beispielsweise folgende Kompetenzen und Fähigkeiten benötigt:</p> <p>Fachwortschatz, Ausschreibungen und Bewerbungen (Lebenslauf, andere Dokumente) Statistiken und Umfragen lesen und interpretieren Gespräche mit Kunden, Kollegen, Chefs, Umgang mit dem Computer, Telefongespräche E-Mails, Geschäftsbriefe (Angebote, Bestellungen, Ablehnungen, Personalbriefe, usw.)</p> <p>Die Aufgaben werden in Gruppen- und Team-Arbeit mündlich und schriftlich bearbeitet. Die Sprache ist im Prinzip Deutsch.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einführung, Semesterplan besprechen</li> <li>2. / 3.: Sich vorstellen: die Ausbildung, den beruflichen Werdegang, die Berufstätigkeit, die Zuständigkeits- und Aufgabenbereiche im Unternehmen erläutern</li> <li>4. / 5.: Ein Vorstellungsgespräch vorbereiten und führen</li> <li>6. / 7.: Schriftlich: ein Unternehmen präsentieren</li> <li>8. / 9.: Messe: Messeziele für Besucher beschreiben und gewichten, über einen Messebesuch berichten</li> <li>10. / 11.: Eine Produkt-Anfrage auswerten, ein Angebot erstellen</li> <li>12. bis 14.: Schriftlich: einen Kurzbericht verfassen, ein Besprechungsprotokoll schreiben</li> <li>15. Zusammenfassung und Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material wird zur Verfügung gestellt.		Aktive Mitarbeit, Gruppenarbeit, 1 schriftliche Aufgabe im Semester	

09年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Ziel des Unterrichts ist es, sich auf Deutsch in einer Firma o.ä. bewegen zu können. Dazu werden beispielsweise folgende Kompetenzen und Fähigkeiten benötigt:</p> <p>Fachwortschatz, Ausschreibungen und Bewerbungen (Lebenslauf, andere Dokumente) Statistiken und Umfragen lesen und interpretieren Gespräche mit Kunden, Kollegen, Chefs, Umgang mit dem Computer, Telefongespräche E-Mails, Geschäftsbriefe (Angebote, Bestellungen, Ablehnungen, Personalbriefe, usw.)</p> <p>Die Aufgaben werden in Gruppen- und Team-Arbeit mündlich und schriftlich bearbeitet. Die Sprache ist im Prinzip Deutsch.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Besprechung des Semesterplans</li> <li>2. / 3.: Über Verkaufs-, Liefer- und Zahlungsbedingungen verhandeln</li> <li>4. / 5.: Schriftlich: Anfrage und Angebote verfassen</li> <li>6. / 7.: Ein Gespräch mit einem Partner vorbereiten und führen, Fristen und Termine absprechen</li> <li>8./ 9.: Schriftlich: Gesprächsergebnisse festhalten</li> <li>10. bis 12.: Charakteristika von Produkten beschreiben, eine Marktstudie auswerten: Marktpositionen beschreiben, Marktdaten erläutern</li> <li>13. / 14.: Eine Projektpräsentation vorbereiten und durchführen</li> <li>15. Zusammenfassung und Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material wird zur Verfügung gestellt		Aktive Mitarbeit, Gruppenarbeit, 1 schriftliche Aufgabe im Semester	

09年度以降	上級ドイツ語特殊演習	担当者	客員教授 C. デーリヒス (マールブルク大学教授)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Seminar „Islam und Gesellschaft im Nahen Osten und in Suedostasien“ (Deutsch)</p> <p>Dieses Seminar konzentriert sich auf Gesellschaften, in denen die Religion des Islam eine entscheidende Rolle im Alltagsleben der Menschen spielt. Die Religion ist ein Teil des Lebens, sie bestimmt das menschliche Miteinander, den Tagesablauf, den Kalender, die Beziehungen zwischen Mann und Frau und nicht zuletzt auch die Politik. In den vergangenen Jahrzehnten ist die Rolle der Religion für den Frieden in der Welt immer wichtiger geworden. Viele Attentate werden unter Berufung auf religioese Prinzipien veruebt und Gewalt gegen Menschen (insbesondere gegen Frauen) wird religioes begruendet. Der „Arabische Fruehling“ hat neue islamistische Regierungen hervorgebracht. Wir lernen anhand vieler Beispiele, wie muslimisches Alltagsleben in verschiedenen Laendern aussieht. Dabei lesen wir nicht nur Texte, sondern sehen Filme und Bilder aus dem Alltag in Asien und Nahost an.</p>		<p>&lt;2013年度 秋学期&gt;</p> <p>*詳細については、初回授業時に説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><u>Basislektuere</u>: Andre Miquel/Henry Laurens (2004): Der Islam. Eine Kulturgeschichte. Religion, Gesellschaft und Politik. Palmyra-Verlag.</p>		<p>初回授業時に説明します。</p>	

09年度以降	上級英語／(German Studies in English II)	担当者	辻田 麻里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語学科の3年生以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。</p> <p>セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー(1000-2000語)を書き、最終授業で発表します。春学期は、環境問題をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修者はTOEIC 500点を目安とする。</li> <li>German Studies in English I または Academic Writing I, II を履修していることが望ましい。</li> <li>リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。</li> </ul>		<p>1回目 コースガイダンス (シラバス配布)</p> <p>※履修希望者は必ず出席すること。</p> <p>2～14回目 詳細は初回に配布するクラスシラバス参照。</p> <p>15回目 授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>初回の授業で指示する。 春学期のテーマは、「環境問題」。</p>		<p>平常点 20% 課題 10%</p> <p>発表 30% リサーチペーパー 40%</p> <p>※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。</p>	

09年度以降	上級英語／(German Studies in English II)	担当者	辻田 麻里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語学科の3年生以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。</p> <p>セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー(1000-2000語)を書き、最終授業で発表します。秋学期は、ドイツ映画をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修者はTOEIC 500点を目安とする。</li> <li>German Studies in English I または Academic Writing I, II を履修していることが望ましい。</li> <li>リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。</li> </ul>		<p>1回目 コースガイダンス (シラバス配布)</p> <p>※履修希望者は必ず出席すること。</p> <p>2～14回目 詳細は初回に配布するクラスシラバス参照。</p> <p>15回目 授業のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>初回の授業で指示する。 秋学期のテーマは、「ドイツ映画」。</p>		<p>平常点 20% 課題 10%</p> <p>発表 30% リサーチペーパー 40%</p> <p>※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。</p>	



05年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	柿沼 義孝 (コーディネータ)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義の目的)</p> <p>ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから学科で専門的に学ぶための基礎を学びます。またこの講義を中心として自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究していくために必要とされる知的技術、批判的思考力の基礎を築きます。</p> <p>(重点項目)</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として必要不可欠な、ドイツ語圏に関する基礎的知識の修得。</p> <p>2) この講義と同様に第1学期から履修可能な「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野、テーマ選択の手がかりをつかむ。</p> <p>3) 文献の検索方法、論文の一般的な形式や構造、読み方を学び、それに基づいたレポートの作成についての基本的な知識と技術を習得する。</p>		<p>毎回、異なる担当教員が、それぞれのドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義を中心とします。また論文の読み方やレポートの書き方自分のテーマに関連する文献、新聞記事、雑誌記事をどのように検索するかについて学びます。</p> <p>第1回目の授業時に春学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、試験方法などについて説明をします。(必修授業ですから第1回目から出席をとります。)</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせをすることがありますので、毎日必ず確認してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布する。		毎回の講義内容についての「授業レポート」の提出。レポートおよび学期末試験による。	

05年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	柿沼 義孝 (コーディネータ)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義の目的)</p> <p>ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから学科で専門的に学ぶための基礎を学びます。またこの講義を中心として自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究していくために必要とされる知的技術、批判的思考力の基礎を築きます。</p> <p>(重点項目)</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として必要不可欠な、ドイツ語圏に関する基礎的知識の修得。</p> <p>2) この講義と同様に第1学期から履修可能な「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野、テーマ選択の手がかりをつかむ。</p> <p>3) 文献の検索方法、論文の一般的な形式や構造、読み方を学び、それに基づいたレポートの作成についての基本的な知識と技術を習得する。</p>		<p>毎回、異なる担当教員が、それぞれのドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義を中心とします。また論文の読み方やレポートの書き方自分のテーマに関連する文献、新聞記事、雑誌記事をどのように検索するかについて学びます。</p> <p>第1回目の授業時に秋学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、試験方法などについて説明をします。(必修授業ですから第1回目から出席をとります。)</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせをすることがありますので、毎日必ず確認してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布する。		毎回の講義内容についての「授業レポート」の提出。レポートおよび学期末試験による。	

05年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の習得を目標にしました。2年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3年次以降の専門研究に向けて準備することを目標にします。「知のスキル」とは、具体的には以下のとおりです。</p> <p>① テキストを正確に理解する力          ② 論理的に思考する力          ③ 発表する力（プレゼンテーション）          ④ 議論する力（ディスカッションやディベート）          ⑤ 書く力（レポート執筆）          ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術）          ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成）</p> <p>春学期は、共通テキストの輪読をもとにディスカッションやディベートを行います。また、テキストのテーマに基づき、2回レポートを提出してもらいます。</p> <p>なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、08年度までの入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ、および基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、09年度以降入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ、および基礎演習ⅠまたはⅡ」履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>テーマⅠ：テキスト輪読とディスカッション①</li> <li>同②</li> <li>同③</li> <li>同④、中間レポート課題提示</li> <li>同⑤</li> <li>同⑥</li> <li>テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション① 中間レポート提出</li> <li>同②</li> <li>同③</li> <li>中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示</li> <li>テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション④</li> <li>同⑤</li> <li>同⑥</li> <li>秋学期の準備（グループ分け、テーマ決定等） *さらに詳しい授業計画は、第1回オリエンテーションで配布・説明します。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当教員による指示。		授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを1回でも出さなかったり、欠席回数が全授業回数の1/3を超えると単位は認めません。	

05年度以降	基礎演習 II	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期前半は4～5人ひと組でのグループ発表、後半は各個人による個人発表を行い、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。</p> <p>前半は、教員と学生が相談の上で決めたドイツ語圏に係るテーマについて、グループごとに調査し発表します。後半は、できればグループ発表で扱ったテーマを、各個人がさらに深めるような形で、個人発表をします。また、グループ発表、個人発表をまとめるような形でのレポートを2回提出してもらいます。3年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。</p> <p>なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、08年度までの入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ、および基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、09年度以降入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ、および基礎演習ⅠまたはⅡ」履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション、春学期末レポート返却・講評</li> <li>グループ発表①</li> <li>同②</li> <li>同③、中間レポート課題提示</li> <li>同④</li> <li>個人発表①</li> <li>同②</li> <li>同③、中間レポート提出</li> <li>同④</li> <li>同⑤</li> <li>同⑥</li> <li>同⑦、中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示</li> <li>同⑧</li> <li>同⑨</li> <li>同⑩、まとめ</li> </ol> <p>*さらに詳しい授業計画は、第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当教員による指示。		授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを1回でも出さなかったり、欠席回数が全授業回数の1/3を超えると単位は認めません。	

09年度以降 08年度以前	通訳特殊演習 通訳特殊演習 I	担当者	中山 純
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語通訳者とはどのような職業なのか、どのような語学力と一般的な知識が必要とされるのかを体験する授業です。日本語と外国語の橋渡しをするような職業は、翻訳であれ通訳であれ、大学を卒業してすぐに就けることはありません。目標を実現するためには、短期・中期・長期の学習計画とキャリアデザインが必要です。</p> <p>授業では通訳トレーニングで用いる基礎的な練習を通して、通訳者に求められる言葉の運用能力の実際と、自らの学習計画の立案方法について紹介していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進度計画と目標について</li> <li>2. 通訳を体験してみようー通訳者という仕事</li> <li>3. 通訳者に求められる能力とその強化方法</li> <li>4. 通訳スキルとは何かー練習の意味と方法</li> <li>5. 自分の語学能力を把握する</li> <li>6. 聴解力強化と音読速度の向上</li> <li>7. プロソディ分析とシャドウイング</li> <li>8. メモリー・レッスンー日本語から日本語へ</li> <li>9. メモリー・レッスンードイツ語からドイツ語へ</li> <li>10. 語彙力の強化ーどのように語彙力を増強するか</li> <li>11. リスpons(反応能力)の改善</li> <li>12. 内容理解力の強化ー要約(サマライズ)</li> <li>13. 内容理解力の強化 - パラフレイズ</li> <li>14. デリバリーとは</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材はプリントで配布します。		授業への参加度と授業の中で指示する課題の成果をもとに総合的に判断します。	

09年度以降 08年度以前	通訳特殊演習 通訳特殊演習 II	担当者	中山 純
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同じく、将来、ドイツ語通訳者などの外国語を使う職に就くことを考えている学生を対象に、通訳者に求められる語学力と一般知識の習得法や学習計画の立案、キャリアデザインの方法などを扱っていきます。</p> <p>秋学期は主にデリバリーの改善と記憶力の強化、要約とラフレイズの練習を中心にした授業を行っていきます。春学期の授業を受講していなくても、通訳訓練の概要が理解できるように、練習の下敷きになっている理論なども取り上げていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進度計画と目標について</li> <li>2. メモリー・レッスンー日本語からドイツ語へ</li> <li>3. 逐次リピートー日本語から日本語へ</li> <li>4. 逐次リピートードイツ語からドイツ語へ</li> <li>5. 要約練習ー日本語からドイツ語へ</li> <li>6. 要約練習ー日本語からドイツ語へ</li> <li>7. 要約練習ードイツ語から日本語へ</li> <li>8. 要約練習ードイツ語から日本語へ</li> <li>9. 要約練習ー日独双方向へ</li> <li>10. 逐次通訳練習ー日本語からドイツ語へ</li> <li>11. 逐次通訳練習ー日本語からドイツ語へ</li> <li>12. 逐次通訳練習ー日独の切り替え時に基軸になる言語</li> <li>13. 逐次通訳練習ードイツ語から日本語へ</li> <li>14. 逐次通訳練習ードイツ語から日本語へ</li> <li>15. 秋学期のまとめと目標の達成度について</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材はプリントで配布します。		授業への参加度と授業の中で指示する課題の成果をもとに総合的に判断します。	

09年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ともかく辞書を引いて日本語にしたけれど、それを読むひとはもちろん、訳した本人も何のことか分からないということが少なくありません。中学・高校で習った「訳読」と翻訳は違うので、これから抜け出さなければいけません。訳すということは、テキストをモザイクのようにバラして、それぞれの部分を日本語に訳すことではありません。書かれたテキストを読み取って、生き生きとしたイメージに転換し、それを適切な日本語で表現することです。翻訳の課題を毎週出しますから、それを月曜の夕方までにメールで提出してください。授業では、皆さんの訳を一覧にまとめたものを、映し出してお互いに問題点をチェックしあう形式で進めます。</p> <p>この授業形式できちんと課題をやってくることが、この授業に参加する条件です。これをやれば、誰でも一定程度まで、テキストをいろいろな角度から理解し、「言っていること」が分かるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 翻訳をするとはどういうこと</li> <li>2. 内容の分かりやすい日本に関するテーマ（1）</li> <li>3. 内容の分かりやすい日本に関するテーマ（2）</li> <li>4. 内容の分かりやすい日本に関するテーマ（3）</li> <li>5. ドイツの社会に関するテーマ（1）</li> <li>6. ドイツの社会に関するテーマ（2）</li> <li>7. ドイツの社会に関するテーマ（3）</li> <li>8. ドイツの社会に関するテーマ（4）</li> <li>9. 国際的なテーマ（1）</li> <li>10. 国際的なテーマ（2）</li> <li>11. 国際的なテーマ（3）</li> <li>12. 国際的なテーマ（4）</li> <li>13. アクチュアルなテーマ（1）</li> <li>14. アクチュアルなテーマ（2）</li> <li>15. アクチュアルなテーマ（3）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		<p>課題を毎週提出してもらうので、それで評価をします。試験やレポートは課しません。</p>	

09年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	A. ヴェルナー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Das Ziel des Unterrichts ist zu verstehen, was es heißt ein Firmenpraktikum in Deutschland zu machen und sich darauf vorzubereiten. Dazu sind Hintergrundwissen über Deutschland, die Gesellschaft, deutsche Firmen oder andere Praktikumsstellen nötig. Wir üben Gespräche mit Kollegen und Chefs, Telefongespräche, E-Mails und Geschäftsbriefe schreiben, mit deutschen Computern umzugehen, besonders auch Wirtschafts-Deutsch und andere Anforderungen.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Team-Arbeit wird verlangt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Einführung, Unterrichtsplan besprechen</li> <li>2. Was ist eigentlich ein Praktikum?</li> <li>3. Lebenslauf</li> <li>4. Bewerbungs-, Motivation-Schreiben</li> <li>5. Selbstvorstellung</li> <li>6. Hintergrund-Wissen: über Deutschland</li> <li>7. Gesellschaft</li> <li>8. Gesellschaft</li> <li>9. Firmen andere Praktikumstellen</li> <li>10. Leben in Deutschland</li> <li>11. Kontakt mit Kollegen, Chefs</li> <li>12. Verhalten in der Praktikumsstelle</li> <li>13. Wirtschaftsdeutsch</li> <li>14. Wirtschaftsdeutsch</li> <li>15. Zusammenfassung</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
原則としてコピーを参加者に配布する。		Aktive Teilnahme, Vortrag oder Report (je nach Absprache mit den Teilnehmern)	

09年度以降	留学準備特殊演習	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏の大学で学ぶにはどのような準備が必要でしょうか。またドイツ語力はどの程度必要とされるのでしょうか。また、住居はどうしたら見つけられるか。</p> <p>そんな具体的なことから、留学で何が変わるか、何を学ぶかまで、ドイツ語圏への長期留学を目指している皆さんを対象に、その意義、心構え、事前準備、留学先の町や大学での生活等について、演習形式でインターネット（ DAAD:Studieren in Deutschland:<a href="http://www.study-in.de/de/leben/student-life-videos/">http://www.study-in.de/de/leben/student-life-videos/</a>）を通じて実践的に学びます。</p> <p>また、できればドイツ語圏から獨協に留学している皆さんのお話も聞く機会を設けたいと思います。</p> <p>また、留学生活で必ず聞かれるのは日本のこと、日本の文化です。いろいろな面から質問に答えることができるよう、知識を深めておきましょう。</p> <p>皆さんの積極的な参加を楽しみにしています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツで何を、どう学ぶか</li> <li>2. テーマ別発表</li> <li>3. テーマ別発表</li> <li>4. テーマ別発表</li> <li>5. テーマ別発表</li> <li>6. DAAD Studieren in Deutschland</li> <li>7. ドイツの学生生活</li> <li>8. ドイツの住まい</li> <li>9. ドイツで困ったら</li> <li>10. ドイツ諸事情</li> <li>11. ドイツからの留学生はどうしてる？</li> <li>12. 日本を知らない私（1）日本事情</li> <li>13. 日本を知らない私（2）日本文化</li> <li>14. さあ、ドイツ行き（寸劇版『仮想留学体験』）</li> <li>15. ドイツ留学総まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>犬養道子『ラインの河辺』中公文庫 1973          築島謙三『「日本人論」の中の日本人（上・下）』講談社学術文庫 1449 講談社 2000年          阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ドイツ的とは何か』 他</p>		<p>平常点（出欠・遅刻）、授業参加、レポート。また、5回以上欠席の場合は履修中止とみなします。</p>	

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語を学ぶことの意味や目的、実際の教育/学習法などを、いろいろな面から取り上げます。ただ理論や方法論を知るのではなく、この演習に参加する学生の外国語学習のプロセスを振り返ったり、それに関する意見交換もしていきたいと思います。</p> <p>また、自分のドイツ語力をどのようにして高めるかを真剣に考えるのであれば、どのような具体的な練習（たとえば翻訳者や通訳者がプロになるための過程で行う練習法など）を、実際に教室で行ってみて、それぞれの練習法がどのような目的に役立つかを体験してもらいます。</p> <p>積極的に練習をする気のある学生の参加を期待しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. これまで経験してきた外国語の学び方</li> <li>3. 外国語教育で何が求められているのか</li> <li>4. ドイツ語の「特殊性」</li> <li>5. ドイツ語の学習法</li> <li>6. 聞き取りの練習（1）</li> <li>7. 聞き取りの練習（2）</li> <li>8. テキストの展開に関する実際練習（1）</li> <li>9. テキストの展開に関する実際練習（2）</li> <li>10. テキストの展開に関する実際練習（3）</li> <li>11. テキストの展開に関する実際練習（4）</li> <li>12. その他の実際練習（1）</li> <li>13. その他の実際練習（2）</li> <li>14. その他の実際練習（3）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要に応じてコピーを配布する		参加者は多くないと思われるので、ふだんの授業での評価と学期末のレポートに半々の重きを置いて評価する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 a ドイツ語学概論 I	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義はドイツ語を始めて学習する皆さんが、あるいはこれまで学習してきた皆さんが、文法の授業とは違った視点からドイツ語を観察し、体験してもらおうとするものです。</p> <p>子供は言語を学ぶとき、文字や文法から学ぶものではありません。そうではなく、まず音を聞いて、それを繰り返すことで学んでいきます。もともと言語は、音を通して互いに意思を伝達することからはじまったのです。</p> <p>そこで、春学期は、主としてドイツ語の音（音韻）とその発音（音声）に重点を置いて、日本語や英語、フランス語などと比べながら、その音の違いや特徴、ヨーロッパ言語の言語の歴史的関係などを概観しながら、ドイツ語そのものを改めて見つめてみようとするものです。</p> <p>皆さんには積極的に発音をしてもらい、互いに発音を聞き合いながら、そして意見交換をしながら、講義を進めていこうと考えています。皆さんの積極的に参加をする授業をしたいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語の世界</li> <li>2. ドイツ語の発音（イントネーション）</li> <li>3. ドイツ語の発音（アクセント）</li> <li>4. ドイツ語の音と文字（母音）</li> <li>5. ドイツ語の音と文字（母音）</li> <li>6. ドイツ語の音と文字（子音）</li> <li>7. ドイツ語の音と文字（子音）</li> <li>8. ドイツ語の発音（日本語とドイツ語）</li> <li>9. ドイツ語の発音（英語とドイツ語）</li> <li>10. ヨーロッパ中のドイツ語</li> <li>11. ラテン語、フランス語とドイツ語</li> <li>12. 英語、オランダ語とドイツ語</li> <li>13. ルターのドイツ語</li> <li>14. ドイツ語の歴史概観</li> <li>15. 復習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. I.Albrecht, U. Hirschfeld, Y.Kakinuma: Einführung ind die deutsche Phonetik 獨協大学外国語教育研究所 2007年</li> <li>2. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004年</li> </ol>		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 b ドイツ語学概論 II	担当者	柿沼 義孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は少し専門的にドイツ語を見ていくことにしましょう。ドイツ語という言語の歴史的流れ、ドイツ語を勉強していて、わからない事柄に出会ったとき、疑問がわいたときに、これを自分で解決するにはどうしたらよいか。</p> <p>その手段には何があるのか。ドイツには方言がたくさんあるというが、それはなぜか、またどのように分布しているのか。ドイツ語を言語学的に研究する方法は、また何が研究対象となりうるのか。また、日本語との違いはどんな点に見られるのか。</p> <p>このように、ドイツ語をめぐる疑問、不思議はいろいろな分野に及んでいます。この学期では皆さんから積極的に疑問や質問を提示していただいて、皆でこれを考えながら、ドイツ語にもっと近づいていきたいと考えています。</p> <p>どうぞ積極的な参加をお願いします。楽しい講義にしましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ語とはどういう言語か。</li> <li>2. ドイツ語の文字の成立と発展</li> <li>3. 疑問に答える（1）辞書について</li> <li>4. 疑問に答える（2）文法について</li> <li>5. 標準ドイツ語の成立と正書法</li> <li>6. ドイツ語の標準発音と方言</li> <li>7. ドイツ語の標準発音と方言</li> <li>8. 外国語とドイツ語</li> <li>9. ドイツ語の地名</li> <li>10. ドイツ語の人名</li> <li>11. 探求するところ（1）ドイツ語の調査・研究</li> <li>12. 探求するところ（2）ドイツ語の調査・研究</li> <li>13. 日本語とドイツ語の言語表現</li> <li>14. 日本語とドイツ語の言語表現</li> <li>15. 復習とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004年</li> <li>2. 風間喜代蔵『言語学の誕生』岩波書店</li> </ol>		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	



09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 a ドイツ文学概論 I	担当者	矢羽々 崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期では、「文学」って何？という問題から授業を始めます。</p> <p>「読書感想文」を書かされて辟易（へキエキ）しませんでしたか？ 「国語」の入試で小説などの解釈の問題に正解が1つしかないことに疑問を感じませんでしたか？ 「文学」はなぜ「ブン学」で、「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょうか？</p> <p>こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら、最初に「文学」（そして文学研究）という問題を考えます。</p> <p>また、メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」を出発点にして、文学のさまざまな面白さ、問題点を考えていきます。また、詩・劇・散文という主要なジャンルについても、考えてみましょう。</p> <p>また、文学と思想（哲学・宗教など）のつながりも、必要に応じて考えていきます。</p>		<p>詳しくは第1回授業で説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 文学はじめの一步（グリム・メルヒェン）1</li> <li>3. 同2</li> <li>4. 同3</li> <li>5. 「文学」とは何か？</li> <li>6. 文学の基本ジャンル</li> <li>7. 文学研究の意味 読めばわかるのになぜ？</li> <li>8. 文学と思想</li> <li>9. 作者とは？ 作者の死？</li> <li>10. 読者とは？ 「読む」だけ？</li> <li>11. 本とは？ 本はなくなる？</li> <li>12. 翻訳の諸問題</li> <li>13. 明治期の翻訳</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献例：手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで、文献は授業でその都度紹介します。</p>		<p>平常点 20%（4回以上の欠席は評価の対象としません）、6月中旬に提出する小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。</p>	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 b ドイツ文学概論 II	担当者	矢羽々 崇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期では、主にドイツ文学と思想のアウトライン（歴史）を知ること为目标とします。</p> <p>皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか？ 18世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして、現代のシュリンク『朗読者』までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また、文学と思想（哲学・宗教など）が、それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。</p> <p>授業では、扱う作品を知らなくてもわかるように話しますが、作品を読んでから聞くと、作品および講義内容をよりよく理解でき、より興味を持つことができます。扱う予定の作品をできるかぎり読むようにしてください。</p>		<p>詳しくは第1回の授業で説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 近代的な恋愛のはじまり（ゲーテ『ウェルテル』）</li> <li>3. 感情の実験詩、シラー「歓喜に寄せて」</li> <li>4. 苦悩する近代人 ゲーテ『ファウスト』</li> <li>5. 1770年 ベートーベン、ヘーゲル、ヘルダーリン</li> <li>6. ロマン派というアヴァンギャルド（前衛派）</li> <li>7. シャミッソー『影をなくした男』を読む</li> <li>8. 文学が文学だった頃（19世紀リアリズムの時代）（ビュヒナー『ヴォイツェク』）</li> <li>9. 19世紀後半からの児童少年文学（『もじゃもじゃペーター』『ハイディ』など）</li> <li>10. イタリアへのあこがれ（T・マン『ヴェニスに死す』）</li> <li>11. 新しい世界との遭遇（20世紀前半）（カフカ『変身』）</li> <li>12. 明るく楽しくナチス批判?!（ケストナー『エーミールと探偵たち』）</li> <li>13. 過去の克服？ 現代ドイツ文学（シュリンク『朗読者』）</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献例：H・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』和泉、安川訳、同学社、2008年 テキストはコピーを配布し、文献はその都度紹介します。</p>		<p>平常点 20%（4回以上の欠席は評価の対象としません）、12月はじめに提出の小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。</p>	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の言語 a ドイツ語学各論 I	担当者	木内 基実
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日常的なドイツ語基礎単語を使用頻度の高いもの順に例に取り、例文を挙げて語句・慣用的表現などの練習を行います。言葉は理解しただけでは足りません。十分な練習を行い、記憶の定着を図ることが重要です。その際もっとも大切なのは、ドイツ語のものの考え方を身につけることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 文例 1 とその練習</li> <li>3. 文例 1 の小テスト。文例 2 とその練習</li> <li>4. 文例 2 の小テスト。文例 3 とその練習</li> <li>5. 文例 3 の小テスト。文例 4 とその練習</li> <li>6. 文例 4 の小テスト。文例 5 とその練習</li> <li>7. 文例 5 の小テスト。文例 6 とその練習</li> <li>8. 文例 6 の小テスト。文例 7 とその練習</li> <li>9. 文例 7 の小テスト。文例 8 とその練習</li> <li>10. 文例 8 の小テスト。文例 9 とその練習</li> <li>11. 文例 9 の小テスト。文例 10 とその練習</li> <li>12. 文例 10 の小テスト。文例 11 とその練習</li> <li>13. 文例 11 の小テスト。文例 12 とその練習</li> <li>14. 文例 12 の小テスト。文例 13 とその練習</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料をコピーし、配布します。		毎週小テストをし、全ての小テストの結果を集計し学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の言語 b ドイツ語学各論 II	担当者	木内 基実
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日常的なドイツ語基礎単語を使用頻度の高いもの順に例に取り、例文を挙げて語句・慣用的表現などの練習を行います。言葉は理解しただけでは足りません。十分な練習を行い、記憶の定着を図ることが重要です。その際もっとも大切なのは、ドイツ語のものの考え方を身につけることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 文例 1 とその練習</li> <li>3. 文例 1 の小テスト。文例 2 とその練習</li> <li>4. 文例 2 の小テスト。文例 3 とその練習</li> <li>5. 文例 3 の小テスト。文例 4 とその練習</li> <li>6. 文例 4 の小テスト。文例 5 とその練習</li> <li>7. 文例 5 の小テスト。文例 6 とその練習</li> <li>8. 文例 6 の小テスト。文例 7 とその練習</li> <li>9. 文例 7 の小テスト。文例 8 とその練習</li> <li>10. 文例 8 の小テスト。文例 9 とその練習</li> <li>11. 文例 9 の小テスト。文例 10 とその練習</li> <li>12. 文例 10 の小テスト。文例 11 とその練習</li> <li>13. 文例 11 の小テスト。文例 12 とその練習</li> <li>14. 文例 12 の小テスト。文例 13 とその練習</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料をコピーし、配布します。		毎週小テストをし、全ての小テストの結果を集計し学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の文学 a ドイツ文学各論 I	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>ドイツ語圏の文学と日本の文学とを比較対照する</b></p> <p>ドイツ語圏の文学を日本の文学と比較対照することで、ドイツ語圏の文学が日本文化とは異なる文化圏で成立した文化現象であることを自覚的に捉えられるようになる。ドイツ語圏が異文化の世界であり、その文学を理解することは、異文化との対話にほかならない。そのとき、私たちは異文化としてのドイツ語圏の世界観、価値観、生活様式とどこが異なり、またどこを共有しているかを確認し、異なる点を理解する努力が必要になる。それは、とりわけ両者の文学を比較対照することで可能となる。</p> <p>20世紀後半のドイツ思想界を牽引してきたハーバーマスのコミュニケーション論を日本文化に根強い「以心伝心」の伝統と、18世紀の思想家ハーマンや劇作家レッシングを聖徳太子と比較対照してみよう。井原西鶴や石田梅岩の作品に見られる商人倫理を、20世紀初頭ドイツのマックス・ヴェーバーの資本主義論で読み解くことも、比較対照だ。ゲーテのファウストは「はじめに言葉ありき」という聖書の言葉に悩んだが、その意味は『万葉集』にみられる言霊(ことだま)思想と比較対照すれば理解できるだろう。</p>		01. はじめに 02. 比較対照文化学としての文学研究の構想 03. ハーバーマスと『平家物語』および『勸進帳』 I 04. ハーバーマスと『平家物語』および『勸進帳』 II 05. ハーバーマスと『平家物語』および『勸進帳』 III 06. ハーマンおよびレッシングと聖徳太子 I 07. ハーマンおよびレッシングと聖徳太子 II 08. ハーマンおよびレッシングと聖徳太子 III 09. マックス・ヴェーバーと井原西鶴および石田梅岩 I 10. マックス・ヴェーバーと井原西鶴および石田梅岩 II 11. マックス・ヴェーバーと井原西鶴および石田梅岩 III 12. ルター、ゲーテおよびハイデガーと『万葉集』 I 13. ルター、ゲーテおよびハイデガーと『万葉集』 II 14. ルター、ゲーテおよびハイデガーと『万葉集』 III 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】プリントを配付する。 【参考文献】授業中に指示する。		講義への参加状況(30%)と毎回提出のリアクションペーパー(30%)および随時の小テスト(40%)の総合評価。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の文学 b ドイツ文学各論 II	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>ドイツ語圏の文学と日本</b></p> <p>ヨーロッパで日本について初めて記したのは、イタリアの商人マルコ・ポーロ(Marco Polo, 1254-1324)の『東方見聞録』だといわれている。ドイツ語ではいつ頃から日本が登場するのだろうか?そして日本についてどのように語られて来たのだろうか?</p> <p>ドイツ人が来日した記録は1615にさかのぼり、その後の鎖国時代にも、ドイツ人は少なからず来日していた。オランダ人と称して長崎のオランダ商館に来ていたのだ。なかでも1790年来日したケンペル(Engelbert Kaempfer, 1651-1716)は、日本に関する大量の資料を残した。そのドイツ語原稿は、のちに『日本誌』(<i>Geschichte und Beschreibung von Japan, 1777/1779</i>)として編纂され、これに基づいているいろいろな作品がドイツ語で日本を語っている。</p> <p>ケンペル自身の作品を中心に、その前後の作品について、とりわけ17世紀から19世紀初頭にかけて、日本がドイツ語でどのように語られているかを解明しよう。</p>		01. はじめに 02. ケンペル以前 I 03. ケンペル以前 II 04. ケンペル I 05. ケンペル II 06. ケンペル III 07. ケンペル IV 08. クラウディウス I 09. クラウディウス II 10. カントとヘルダー 11. ゲーテ I 12. ゲーテ II 13. ゲーテ III 14. ヴィルヘルム・フォン・フンボルト 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】プリントを配付する。 【参考文献】授業中に指示する。		講義への参加状況(30%)と毎回提出のリアクションペーパー(30%)および随時の小テスト(40%)の総合評価。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の思想 a ドイツの思想 I	担当者	工藤 達也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。</p> <p>具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。</p> <p>またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。</p> <p>時代を追っていくのにじっくり急がない、できればカタツムリみたいにゆっくりとするつもりですが、しかし今学期はせめてカントまでは触れます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 古典について</li> <li>3. 古典について</li> <li>4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント</li> <li>5. ルネッサンス</li> <li>6. デカルトの思想</li> <li>7. カントの思想(1)</li> <li>8. カントの思想(2)</li> <li>9. カントの思想(3)</li> <li>10. カントの思想(4)</li> <li>11. ドイツ観念論(1)</li> <li>12. ドイツ観念論(2)</li> <li>13. ドイツ観念論(3)</li> <li>14. ドイツ観念論の問題点</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		試験と平常点	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の思想 b ドイツの思想 II	担当者	工藤 達也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもり、という春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもいいです。</p> <p>具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれるはずですが（といますか、それくらい大学生なら「読め」という意味）。</p> <p>↑を繰り返すと、話はドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及します。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。</p> <p>時代を追っていくのに急がないですが、今学期こそはハイデガーの思想にまで触れられたら満足です。</p> <p>秋の方が春より過激に展開しますが、怖がらないでください。</p> <p>お待ちしております。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. ロマン派</li> <li>3. ヘーゲルとマルクス</li> <li>4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス</li> <li>5. 『資本論』と宗教批判</li> <li>6. マルクス主義と現代思想(1)</li> <li>7. マルクス主義と現代思想 (2)</li> <li>8. ニーチェ(1)</li> <li>9. ニーチェ(2)</li> <li>10. ニーチェ(3)</li> <li>11. ハイデガー(1)</li> <li>12. ハイデガー(2)</li> <li>13. ハイデガー(3)</li> <li>14. 現代の思想</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		試験と平常点	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	能登 慶和
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、子どもの初期の言語習得について、対話・ヒアリング・音形成・模倣・語彙習得や諸々の文法項目の習得といった様々な観点から考察し、子どもが言葉を身につけていく過程を概観します。</p> <p>講義では、春・秋を通じて上記項目に関するオンラインのテキストを読み、さらに発表やテストを通じてその解釈を深めたいと思います。</p> <p>初回のオリエンテーションも含め、コンスタントに出席してください。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2～14. 順次テキストを読み進めます</p> <p>15. テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
随時コピーを配布します。		出席、発表、テスト	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	能登 慶和
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、子どもの初期の言語習得について、対話・ヒアリング・音形成・模倣・語彙習得や諸々の文法項目の習得といった様々な観点から考察し、子どもが言葉を身につけていく過程を概観します。</p> <p>講義では、春・秋を通じて上記項目に関するオンラインのテキストを読み、さらに発表やテストを通じてその解釈を深めたいと思います。</p> <p>初回のオリエンテーションも含め、コンスタントに出席してください。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2～14. 順次テキストを読み進めます</p> <p>15. テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
随時コピーを配布します。		出席、発表、テスト	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;"><b>ゲーテの詩を読もう！</b></p> <p>「ドイツ詩を読まずして、ドイツ語を習ったというべからず」とは、あるドイツ文学者の名言だ。というも、ドイツ語の詩には、ドイツ語の特徴が凝集しているからだ。その独特のリズムや母音と子音の響きから、具象的なイメージに抽象的な概念、比喩的表現や修辞などに、文法的構造が合わさって、すばらしい言語の世界を構成している。</p> <p>ゲーテの珠玉の作品には歌曲になった詩も多く、ドイツ語の面では平易な作品も少なくない。そのテーマは多岐におよび、恋愛詩、物語詩、自然や季節を詠んだ歌、集いの歌のほか、宗教詩から、箴言詩や思想詩などの堅い作品もある。教養小説『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』にも詩がちりばめられている。</p> <p>これらの多様な作品の中から、なるべく歌曲になった詩を選んで、ドイツ語の文法構造を厳密に把握したうえで、リズムや響きにも注意して、歌曲として聴いてみよう。文法的理解を助け、和訳することに終始しないように、文法書とともに、文法的注と和訳の付いたテキストを用いる。</p>		01. はじめに 02. ドイツ文法総復習 03. 愛の歌 I 04. 愛の歌 II 05. 愛の歌 III 06. 自然の形象 I 07. 自然の形象 II 08. 物語詩 I 09. 物語詩 II 10. 物語詩 III 11. 『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』から I 12. 『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』から II 13. 雑歌 I 14. 雑歌 II 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】1. 三浦鞆郎訳注『ゲーテ詩集』（郁文堂独和对訳叢書 37）2010（1680 円）2. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003（1680 円）		授業での発言を含む参加状況（30%）と毎回提出のリアクションペーパー（30%）および随時の小テスト（40%）の総合評価。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;"><b>シューベルトの『冬の旅』を読もう！</b></p> <p>シューベルト（Franz Schubert, 1797-1828）の歌曲集『冬の旅』（Winterreise, 1827）は24曲から成り、その第5曲『菩提樹』はとて有名だ。歌詞はヴィルヘルム・ミュラー（Wilhelm Müller, 1794-1827）の作品で、この詩人が今日でも広く知られているのは、シューベルトの作曲に負う。人生と恋に幻滅して旅に出る若者が、あるいは歓びに高揚し、あるいは絶望の淵に突き落とされ、死をも思う心の動きを、雪に覆われた寒いドイツの冬の風景に投影した『冬の旅』は、ドイツ芸術歌曲の真髄だと言われる。</p> <p>近年は、そうしたロマン主義的歌詞と楽曲の背後に隠された暗号を解説する試みもある。そこに、ウィーン会議を主導したメッテルニヒの王政復古体制への政治的幻滅と批判を読み取り、既成社会からはじき出された若者の心情にもとづく抗議の歌を聴くことも可能なようだ。</p> <p>ドイツ語の文法構造を厳密に把握することはもとより、言葉の比喩やリズムをも分析して、今日的な新しい理解の地平を切り拓いてゆこう。和訳することに終始しないためにも、和訳付のテキストを用い、文法書を併用する。</p>		01. はじめに 02. ドイツ文法総復習 03. 1. Gute Nacht / 2. Die Wetterfahne 04. 3. Gefror'ne Tränen / 4. Erstarrung 05. 5. Der Lindenbaum / 6. Wasserflut 06. 7. Auf dem Flusse / 8. Rückblick 07. 9. Irrlicht / 10. Rast 08. 11. Frühlingstraum / 12. Einsamkeit 09. 13. Die Post / 14. Der greise Kopf 10. 15. Die Krähe / 16. Letzte Hoffnung 11. 17. Im Dorfe / 18. Der stürmische Morgen 12. 19. Täuschung / 20. Der Wegweiser 13. 21. Das Wirtshaus / 22. Mut 14. 23. Die Nebensonnen / 24. Der Leiermann 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】1. 三浦鞆郎訳注『ゲーテ詩集』（郁文堂独和对訳叢書 37）2010（1680 円）2. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003（1680 円）		授業での発言を含む参加状況（30%）と毎回提出のリアクションペーパー（30%）および随時の小テスト（40%）の総合評価。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	P. ハイน์リッヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In dieser Veranstaltung lesen und besprechen wir Texte zum Thema aus aktuellen Zeitungen und Zeitschriften. Dabei geht es nicht darum, fest vorgelegte Themen zu studieren, sondern sich zu aktuellen Debatten in Deutschland zu informieren. Es wird in der Veranstaltung nicht nur thematisiert, worüber man gerade in Deutschland spricht, sondern auch wie man darüber spricht.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Aktueller Text April I</li> <li>2. Aktueller Text April II</li> <li>3. Aktueller Text April III</li> <li>4. Aktueller Text April IV</li> <li>5. Aktueller Text Mai I</li> <li>6. Aktueller Text Mai II</li> <li>7. Aktueller Text Mai III</li> <li>8. Aktueller Text Mai IV</li> <li>9. Aktueller Text Juni I</li> <li>10. Aktueller Text Juni II</li> <li>11. Aktueller Text Juni III</li> <li>12. Aktueller Text Juni IV</li> <li>13. Aktueller Text Juli I</li> <li>14. Aktueller Text Juli II</li> <li>15. Wiederholung</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden in der Veranstaltung verteilt.		Mitarbeit in der Veranstaltung & Test	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	P. ハイน์リッヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In dieser Veranstaltung lesen und besprechen wir Texte zum Thema aus aktuellen Zeitungen und Zeitschriften. Dabei geht es nicht darum, fest vorgelegte Themen zu studieren, sondern sich zu aktuellen Debatten in Deutschland zu informieren. Es wird in der Veranstaltung nicht nur thematisiert, worüber man gerade in Deutschland spricht, sondern auch wie man darüber spricht.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Aktueller Text September I</li> <li>2. Aktueller Text September II</li> <li>3. Aktueller Text Oktober I</li> <li>4. Aktueller Text Oktober II</li> <li>5. Aktueller Text Oktober III</li> <li>6. Aktueller Text Oktober IV</li> <li>7. Aktueller Text November I</li> <li>8. Aktueller Text November II</li> <li>9. Aktueller Text November III</li> <li>10. Aktueller Text November IV</li> <li>11. Aktueller Text Dezember I</li> <li>12. Aktueller Text Dezember II</li> <li>13. Aktueller Text Dezember III</li> <li>14. Aktueller Text Januar I</li> <li>15. Wiederholung</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden in der Veranstaltungen verteilt.		Mitarbeit in der Veranstaltung & Test	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（思想）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>西洋哲学史をドイツ語の韻文で読む（第1部）</b></p> <p>「哲学」（Philosophie）は古代ギリシアで生まれて西洋におけるものの考え方や世界、人間、そして絶対者たる神などについてのとらえ方を形成し、規定してきた。18世紀から19世紀にかけてはカント（1724-1804）を母体として、ドイツ観念論哲学が開花する。以来、哲学的思考はドイツ文化を支える支柱となり、今日に至る。</p> <p>20世紀半ばの哲学者ヴァイシェーデル（1905-1975）は、その詩才を活かして西洋哲学史のエッセンスをキーワードを織り込みながらドイツ語の韻文で語った希有な哲学史を残した。古代ギリシア以来の西洋の哲学的伝統をドイツ語で記述するこうした哲学史をドイツ語で読むことは、ドイツ語圏文化の中核に分け入ることを意味する。</p> <p>この韻文哲学史をひもとき、ドイツ語文化の一部としての哲学的思考を担うドイツ語が理解できるように、哲学的に思考するドイツ語を学ぼう。哲学的概念とともに、ドイツ語の文法構造の把握にも力を入れるために、文法書も併用する。</p>		<p>01. はじめに</p> <p>02. ソクラテス以前の哲学者たち I</p> <p>03. ソクラテス以前の哲学者たち II</p> <p>04. ソクラテス、プラトン、アリストテレス I</p> <p>05. ソクラテス、プラトン、アリストテレス II</p> <p>06. ソクラテス、プラトン、アリストテレス III</p> <p>07. ヘレニズムとその後の古代哲学 I</p> <p>08. ヘレニズムとその後の古代哲学 II</p> <p>09. キリスト教と教父哲学 I</p> <p>10. キリスト教と教父哲学 II</p> <p>11. スコラ哲学と神秘主義 I</p> <p>12. スコラ哲学と神秘主義 II</p> <p>13. スコラ哲学と神秘主義 III</p> <p>14. 近代への曙 I</p> <p>15. 近代への曙 II</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】1. Wilhelm Weischedel: <i>Auch eine Philosophiegeschichte</i> , Darmstadt 1975 (プリント) 2. 中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003		授業での発言を含む参加状況（30%）と毎回提出のリアクションペーパー（30%）および随時の小テスト（40%）の総合評価。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（思想）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>西洋哲学史をドイツ語の韻文で読む（第2部）</b></p> <p>中世後期から近代初期にかけて、ドイツ神秘主義が哲学のドイツ語を準備した。ラテン語とフランス語によらざるをえなかったライブニッツ哲学をドイツ語化したヴォルフ（1679-1754）を受けて、カント（1724-1804）をはじめ、18世紀後半には、フィヒテ（1762-1814）、シェリング（1775-1854）、ヘーゲル（1770-1831）らによるドイツ観念論をもって、ドイツ語の哲学が隆盛期を迎え、哲学を除いてはドイツ語圏文化を語れないほどになった。</p> <p>20世紀半ばの哲学史家ヴァイシェーデル（1905-1975）の手になる韻文の哲学史をひもとくことで、哲学的思考を担うドイツ語に親しみ、ドイツ語による哲学的思考を理解できるようになろう。あわせて、韻文にも着目して、ドイツ語のリズムや、「思索」（denken）と「詩作」（dichten）の関係についても考えてみれば、ドイツ哲学の核心に達するはずだ。</p> <p>前期の第1部に引き続き、第2部では近代から20世紀までの思想について、哲学するドイツ語を学ぼう。文法書を併用して、ドイツ語の文法構造の把握も重視する。</p>		<p>01. はじめに</p> <p>02. デカルト、パスカル、スピノザ I</p> <p>03. デカルト、パスカル、スピノザ II</p> <p>04. ライブニッツとイギリス経験論 I</p> <p>05. ライブニッツとイギリス経験論 II</p> <p>06. カント I</p> <p>07. カント II</p> <p>08. ドイツ観念論 I</p> <p>09. ドイツ観念論 II</p> <p>10. ドイツ観念論 III</p> <p>11. ニーチェ I</p> <p>12. ニーチェ II</p> <p>13. ハイデガーとその先駆者たち I</p> <p>14. ハイデガーとその先駆者たち II</p> <p>15. おわりに</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】1. Wilhelm Weischedel: <i>Auch eine Philosophiegeschichte</i> , Darmstadt 1975 (プリント) 2. 中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003		授業での発言を含む参加状況（30%）と毎回提出のリアクションペーパー（30%）および随時の小テスト（40%）の総合評価。	



09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、戦後の西ドイツを代表する作家の短編小説を取り上げます。なるべく傾向の違う作品を読んで、ドイツ語の表現法や文体に慣れることを目的とします。このため、必ずしも作品を始めから終わりまで読むのではなく、さまざまな作品にふれようと思います。また文学作品だけでなく、その作品を紹介したり論評したテキストも読みます。</p> <p>なお、最近は課題として配ったテキストを持ってこなかったり、前もって読まずに授業に出て当てられてから辞書を引いたりする学生が増えてきましたが、これは他の学生の時間をムダにすることになるので、出席を断ります。必ず前もって読んできてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業の進め方</li> <li>2. 小説というテキストの特徴</li> <li>3～5. 短編小説の例（1）</li> <li>6～8. 短編小説の例（2）.</li> <li>9～11. 短編小説の例（3）</li> <li>12～14. 短編小説の例（4）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布		学期末に短い指定箇所の訳とレポートを提出してもらい、それを評価する。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同じ要領で、最近の短編小説を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業の進め方</li> <li>2. 小説というテキストの特徴</li> <li>3～5. 短編小説の例（1）</li> <li>6～8. 短編小説の例（2）.</li> <li>9～11. 短編小説の例（3）</li> <li>12～14. 短編小説の例（4）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布		学期末に短い指定箇所の訳とレポートを提出してもらい、それを評価する。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 読解力の涵養を目指します。また、ドイツ語力を磨く機会にできればと思います。</p> <p>概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm “を様々な版で比較対照します。これにより、編纂過程で被った変化の跡をたどります。 まずは短い作品で、古い正書法および方法に慣れましょう。</p>		<p>1. ガイダンス 2.～15. 授業 16.定期試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>Kurt Schmidt: Die Entwicklung der Grimmschen Kinder- und Hausmärchen</b> テキストは随時コピーで配布します。</p>		定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 読解力の涵養を目指します。また、ドイツ語力を磨く機会にできればと思います。</p> <p>概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm “を様々な版で比較対照します。これにより、編纂過程で被った変化の跡をたどります。 この学期では、モチーフを軸に、作品間の比較にも重点を置きます。</p>		<p>1. ガイダンス 2.～15. 授業 16.定期試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>Kurt Schmidt: Die Entwicklung der Grimmschen Kinder- und Hausmärchen</b> テキストは随時コピーで配布します。</p>		定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部 重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>下記テキストに収録された短編物語を読みながら、</p> <p>(1) 2年次までに習得した文法の知識を確認し、より完全なものにすること、</p> <p>(2) 「あたりまえの事・物」を別の角度から批判的に見るクセを身につけること、</p> <p>を目的として授業を進めて行きます。</p> <p>講義概要としては、テキストの訳読が中心となります。</p> <p>使用するテキストは極めて平易なドイツ語で書かれています。教科書版として編集し注をつけたものではありません。それなりの準備が必要になりますので、注意してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Die Erde ist rund</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. Ein Tisch ist ein Tisch</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. Amerika gibt es nicht</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. Der Erfinder</li> <li>12. 同上</li> <li>13. Der Mann, der nichts mehr wissen wollte</li> <li>14. 同上</li> <li>15. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Peter Bichsel: Kindergeschichten. Frankfurt a. M. (Luchterhand Literaturverlag) 1974.		学期末の筆記試験（70%）と、授業への参加度等を考慮した平常点（30%）で評価します。なお、欠席が5回以上になると、その時点で単位は認めません。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部 重美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>I. Kant の有名なエッセイ „Beantwortung der Frage: Was ist Aufklärung?“ を読みながら、</p> <p>(1) これまでに習得したドイツ語に関する知識を総動員して難解なテキストを精読する力を身につけること、</p> <p>(2) 「自分の頭で考える」クセを身につけること、</p> <p>を目的として授業を進めて行きます。</p> <p>講義概要としては、テキストの訳読が中心となりますが、必要に応じて私の方で補足的な講義をしたり、あるいは受講生のみなさんに課題を出して発表してもらうことも考えています。</p> <p>中山元訳「啓蒙とは何か—『啓蒙とは何か』という問いに答える（一七八四年）」（同『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他3編』光文社（古典新訳文庫）、2006年、9～29ページ）などの日本語訳を参考にして結構ですので、丹念に辞書を引きながら、根気強く読んで行きましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 下記テキストの講読</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
I. Kant: Beantwortung der Frage: Was ist Aufklärung? In: Was ist Aufklärung? Thesen und Definitionen. Hrsg. von Ehrhard Bahr. Stuttgart (Philipp Reclam jun.) 1974 (Universal-Bibliothek Nr. 9714), S. 9-17.		学期末の筆記試験（70%）と、授業への参加度等を考慮した平常点（30%）で評価します。なお、欠席が6回以上になると、その時点で単位は認めません。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	中山 純
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語の初級文法あるいは学校文法と呼ばれるものは主に語形変化の規則や定動詞の主文や副文における位置の規則を中心とする統語論の初歩を扱っています。これらの規則の習得は通常、演繹的に行われていきます。</p> <p>ドイツ語を実際に使うようになると、これらの基本的な変化規則だけでは目の前の言語現象を十分に理解できないことがあります。習得した基礎的な文法知識と実際のドイツ語運用で必要となる文法知識のギャップを埋めるために、<b>authentisch</b>なテキストから集めた用例を参照しながら、<b>praktische Grammatik</b> - 実践的なドイツ語文法を考えていきます。</p> <p>春学期は主に<b>Wortlehre</b>を中心に、動詞句や名詞句の構造と規則性などを分析していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践的なドイツ語文法について</li> <li>2. <b>Text</b> と <b>Textsorten</b></li> <li>3. 文と文のタイプ</li> <li>4. 文成分(1) 述語と結合価</li> <li>5. 文成分(2) 主語と目的語</li> <li>6. 文成分(3) 添加成文</li> <li>7. 文成分(4) 文型</li> <li>8. 動詞句(1) 動詞句の種類</li> <li>9. 動詞句(2) 伸長形式</li> <li>10. 名詞句(1) 形態と機能</li> <li>11. 名詞句(2) 名詞句内の一致</li> <li>12. 名詞句(3) 名詞句内の付加語</li> <li>13. 名詞句(4) 前置詞句</li> <li>14. 形容詞句 形態と機能</li> <li>15. 文と句について</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で使用する教材はプリントで配布します。参考文献は初回に文献リストを配布します。		授業への参加度と、授業で指示する課題の成果をもとに総合的に判断します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	中山 純
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の授業を踏まえて、秋学期では主に統語論的な問題を扱っていきます。主文と副文から構成される複合文の接続規則や接続をする成分の種類や運用規則を考えていきます。</p> <p>授業の進め方は春学期と同じく、<b>authentisch</b>なテキストから集めた用例や短いテキストを参照しながら、主眼となる項目について分析していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践的な文法とは - イントロダクション 主語文と目的語文(1) 形態について</li> <li>2. 主語文と目的語文(2) 機能について</li> <li>3. 副詞文の形態と機能について</li> <li>4. 付加語文</li> <li>5. 文構成の基本的規則</li> <li>6. <b>Text</b> 中の参照構造</li> <li>7. 参照手段</li> <li>8. 接続手段</li> <li>9. 思考の展開と接続(1)</li> <li>10. 思考の展開と接続(2)</li> <li>11. 造語法(1) 造語の基本</li> <li>12. 造語法(2) 新たな動詞の造語</li> <li>13. 造語法(3) 新たな名詞の造語</li> <li>14. 造語法(4) 新たな形容詞の造語</li> <li>15. 実践的なドイツ語文法のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で使用する教材はプリントで配布します。参考文献は必要に応じて参考文献リストを配布します。		授業への参加度と、授業で指示する課題の成果をもとに総合的に判断します。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 a ドイツ文化史概論 I	担当者	山本 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン主義時代までを扱う。春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について</li> <li>2 ルネサンス・宗教改革期</li> <li>3 同上</li> <li>4 同上</li> <li>5 三十年戦争・バロック期</li> <li>6 同上</li> <li>7 同上</li> <li>8 啓蒙主義時代</li> <li>9 同上</li> <li>10 同上</li> <li>11 ロマン主義時代</li> <li>12 同上</li> <li>13 同上</li> <li>14 グリムのメルヒェン</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび授業への参加度により評価。詳細は授業中に指示する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 b ドイツ文化史概論 II	担当者	山本 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について</li> <li>2 19世紀後半</li> <li>3 同上</li> <li>4 世紀転換期</li> <li>5 同上</li> <li>6 モダニズム</li> <li>7 同上</li> <li>8 ヴァイマル文化</li> <li>9 同上</li> <li>10 同上</li> <li>11 ナチズムと芸術</li> <li>12 同上</li> <li>13 現代へ：新たな芸術の展開</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび授業への参加度により評価。詳細は授業中に指示する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の音楽 a ドイツの音楽 I	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。</p> <p>春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品も多いと思いますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p> <p>楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入、概観</li> <li>2. 中世の音楽</li> <li>3. 15～16 世紀の声楽作品</li> <li>4. シュッツとブクステフーデの声楽作品</li> <li>5. 15～17 世紀のオルガン音楽</li> <li>6. 南ドイツのバロック音楽</li> <li>7. J. S. バッハの生涯と器楽作品</li> <li>8. J. S. バッハの声楽作品</li> <li>9. ヘンデルの音楽</li> <li>10. テレマンとベルリン楽派</li> <li>11. 前古典派の音楽</li> <li>12. J. ハイドンの音楽</li> <li>13. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品</li> <li>14. W. A. モーツァルトの声楽作品</li> <li>15. まとめ（授業内試験）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		平常点（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の音楽 b ドイツの音楽 II	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。</p> <p>秋学期には、18 世紀終わり頃から現在までに書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等についても理解を深めていただきたいと思います。</p> <p>秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p> <p>楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品をとりあげることが予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベートーヴェン（1）</li> <li>2. ベートーヴェン（2）</li> <li>3. シューベルト</li> <li>4. メンデルスゾーン</li> <li>5. シューマン</li> <li>6. リスト</li> <li>7. ヴァーグナー（2013 年が生誕 200 周年）</li> <li>8. ブラームス</li> <li>9. J. シュトラウス II 世と R. シュトラウス</li> <li>10. ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派</li> <li>11. 20 世紀中葉以降のドイツ語圏の音楽</li> <li>12. ドイツ語圏の国歌</li> <li>13. ドイツ語圏のクリスマスの音楽</li> <li>14. ドイツ語圏の民謡、ポップス</li> <li>15. まとめ（授業内試験）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		平常点（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の演劇 a ドイツの演劇 I	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏の音楽劇を代表する「魔笛」を取り上げます。18世紀のウィーンでは、ふんだんに歌を用いた民衆劇が発達し、モーツァルトはこの伝統の上に立って「魔笛」を作曲し、これが今でも全世界で上演される音楽劇の首位を占めています。そのおかげで実際の上演の映像も手に入りやすく、どのように演じられるかが視覚的にも理解できます。授業では、テキストを読み進んで、それに対応する映像を見ていきます。こうして音楽劇とは何かを理解してほしいと思います。</p> <p>このドイツ語台本は、古いウィーンの言葉なので少し分かりにくいかもしれませんが、必ず前もって読んでください（理解のために日本語訳を参照にしても構いません）。とりわけ、歌われる歌詞は耳から聴いただけでは理解できないでしょうから、前もって読んでおく必要があります。積極的に自分の感想や意見を言ってくれる学生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽劇とはどんなものか。</li> <li>2. 音楽劇の展開と「魔笛」</li> <li>3. 「魔笛」</li> <li>4. 第1幕 (1)</li> <li>5. 第1幕 (2)</li> <li>6. 第1幕 (3)</li> <li>7. 第1幕 (4)</li> <li>8. 第1幕 (5)</li> <li>9. 第1幕のまとめ</li> <li>10. 第2幕 (1)</li> <li>11. 第2幕 (2)</li> <li>12. 第2幕 (3)</li> <li>13. 第2幕 (4)</li> <li>14. 第2幕 (5)</li> <li>15. 総まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストのコピーを配布		学期の途中で、数回レポートを提出してもらい、その総合点で評価する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の音楽劇 b ドイツの演劇 II	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この学期には、ドイツ語圏の音楽劇のうち、19世紀のオペレッタを取り上げます。19世紀後半のウィーンは、近代化の進む中で大きな変貌を遂げ、ワルツなどの大衆的な音楽が発展し、こうした傾向の中でオペレッタが出てきます。そのためにオペレッタは内容もメロディーも親しみやすいジャンルです。</p> <p>なかでも、大晦日の夜にドイツ語圏各地で上演される「こうもり」はその代表的な作品です。授業では、テキストをきちんと読み、それに対応した場面をDVD等で見ていきます。上演によっては、(歌の部分以外の)場面や言葉がかなり変えられるのがオペレッタの特徴です。こうした性格が、多様な解釈を許すので、それも一緒に考えていきます。</p> <p>この授業では、配布されたドイツ語テキストを前もって読んでくるのが前提です。自分の感想や意見を言って、積極的に授業に参加する学生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音楽劇の中のオペレッタの位置</li> <li>2. オペレッタの時代</li> <li>3. 「こうもり」の特徴</li> <li>4. 「こうもり」第1幕 (1)</li> <li>5. 「こうもり」第1幕 (2)</li> <li>6. 「こうもり」第1幕 (3)</li> <li>7. 「こうもり」第1幕 (4)</li> <li>8. 「こうもり」第1幕 (5)</li> <li>9. 「こうもり」第2幕 (1)</li> <li>10. 「こうもり」第2幕 (2)</li> <li>11. 「こうもり」第2幕 (3)</li> <li>12. 「こうもり」第3幕 (1)</li> <li>13. 「こうもり」第3幕 (2)</li> <li>14. 「こうもり」第3幕 (3)</li> <li>15. 「こうもり」のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストをコピーして配布する。		学期の途中で、数回レポートを提出してもらい、その総合点で評価する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 a ドイツ思想・芸術各論 I	担当者	秋野 有紀
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、＜想像力×歴史・社会×制度＞をテーマとします。映画、演劇を通して、ドイツ社会の歴史的事象がどのように描き出されているのかを分析するのが目的です。たとえば歴史を扱った映画作品は、＜歴史＞そのものではないし、芸術家の＜想像力＞のみの賜物でもありません。制作された時代の＜制度＞=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知るとは、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。講義でとりあげる作品には、比較的よく知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画や演劇作品をメインとしつつも、文献資料などでも情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を“疑って”みてください。そして作者が歴史や社会をそう描いた「意図」を理解し、受けとってあげてください。作品には必ず、制作者の意図・社会の影響・制度や技術の限界からくる制約があります。作品を楽しみつつも、メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と評価、参考文献について</li> <li>2. 現代ドイツの映画・コンテンツ産業の仕組み</li> <li>3. 「ブラックブック」(蘭・2006)</li> <li>4. 「ベルリン、僕らの革命」(2004)</li> <li>5. 「チェックポイント・チャーリーの女」(TV映画2007)</li> <li>6. 「善き人のためのソナタ」(2006)</li> <li>7. 「グッバイ、レーニン！」(2003)</li> <li>8. 「善き人のためのソナタ」の成功と映画政策の転換</li> <li>9. 政策転換後の作品①「白いリボン」(2009)</li> <li>10. 政策転換後の作品②「東ベルリンから来た女」(2012)</li> <li>11. 現代ドイツの演劇制度—演劇と社会</li> <li>12. 学生運動、「新しい文化政策」から多文化共生政策へ</li> <li>13. シュリンゲンジーフ、アキン、エアプラート</li> <li>14. 現代ドイツ若者版「リア王」「群盗」「たくらみと恋」</li> <li>15. ドイツのメディア文化と対外文化政策の課題</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリントを配布します。 参考文献：山口裕之(2012)『映画に学ぶドイツ語』東洋書店、他。</p>		<p>授業への参加度ならびに、学期末のレポートにより判断します。</p>	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 b ドイツ思想・芸術各論 II	担当者	秋野 有紀
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今学期は＜想像力×政治・社会×制度＞をテーマに、引き続き、現代ドイツ社会を「読む」ことを試みます。 この講義では、主にドイツのマス・メディアと政治文化をとりあげます。メディアに映し出されるドイツの代表的な政治家たちをとりあげ、政治とメディアの関係から、現代ドイツ社会を読み解くことが目的です。 マス・メディアを通じて広く有権者に訴えかける「劇場型政治」ということばを最近よく聞きますね。現代の政治は、多かれ少なかれ、メディアを通じたイメージ戦略という側面も持っています。 しかしドイツでは、政治家たちが「かっこよく」イメージを演出しようとするほど、マス・メディアによって嘲笑されてしまいます。それは、権力にメディアが踊らされないための「批判」的精神の表れかもしれません。あるいは、有権者たちをコントロールしようとするマス・メディアと政治家との権力をめぐる攻防戦なのかもしれません。 「媒介されたイメージ」であることを意識しながら、新聞、TVのトークショー、カリカチュア、選挙広告、演劇などを観察し、現在進行形の「ドイツ社会」を浮かび上がらせる方法を考えていきましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と評価、参考文献について</li> <li>2. ドイツ連邦議会総選挙を例に—新聞報道(日独英)</li> <li>3. ドイツ連邦議会総選挙を例に—政治とイメージ</li> <li>4. メディアと政治(理論と歴史 第一回)</li> <li>5. メディアと政治(理論と歴史 第二回)</li> <li>6. ジャマイカ、信号、ティーガーエンテとは?</li> <li>7. 被写体としてのメルケル</li> <li>8. 若者向けTVドラマとシュレーダー</li> <li>9. メディア・コンテンツとしてのフィッシャー</li> <li>10. トークショー</li> <li>11. テレビ討論会</li> <li>12. カリカチュア</li> <li>13. シュリンゲンジーフ「チャンス 2000」</li> <li>14. プロパガンダ・公共性・政治文化</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol> <p>※ 受講者は、開講前に、ドイツ連邦議会総選挙(9月下旬予定)の報道(日本の)について、少しでも注目して見ておいてください(可能であれば)。政治にはいまいち興味がないなあと思う人こそ、受講してみてください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリントを配布します。 参考文献：A. Dörner(2001): „<i>Politainment</i>“, Suhrkamp 他。</p>		<p>授業への参加度ならびに、学期末のレポートにより判断します。</p>	



09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究 (芸術・文化) a ドイツ語講読 (芸術)	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) ドイツ人の「笑い」の一面に触れてみる。</p> <p>2) authentisch なテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。</p> <p>3) まとまったドイツ語テキストを読む楽しみと達成感を味わう。</p> <p>講義概要</p> <p>ロリオー (Loriot) のアニメ台本 (抜粋) を読みます。ロリオーは、ドイツ人なら誰でも知っているユーモア作家。彼が手がけたアニメ台本を読みながら、「ドイツ人の笑い」の一面に触れてみます (笑えないかも)。スキットごとにアニメ映像も鑑賞します。</p> <p>テキストの訳読は、分担を決めなくてアットランダムにあてていきます。必ず全員が当事者意識を持って予習しておくこと。</p>		<p>1. テキストおよび作家についての概略解説 授業方針、評価方法等についての説明</p> <p>2. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (1)</p> <p>3. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (2)</p> <p>4. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (3)</p> <p>5. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (4)</p> <p>6. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (5)</p> <p>7. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (6)</p> <p>8. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (7)</p> <p>9. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (8)</p> <p>10. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (9)</p> <p>11. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (10)</p> <p>12. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (11)</p> <p>13. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (12)</p> <p>14. 台本の講読+アニメ映像鑑賞+解説 (13)</p> <p>15. まとめ+討論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Loriot: Herren im Bad.(Diogenes) 1997 (プリントを配布)		学期末に行う筆記試験、および授業への参加度に基づいて評価を決定する。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究 (芸術・文化) a ドイツ語講読 (芸術)	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) ドイツ人の「笑い」の一面に触れてみる。</p> <p>2) authentisch なテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。</p> <p>3) まとまったドイツ語テキストを読む楽しみと達成感を味わう。</p> <p>講義概要</p> <p>アクセル・ハッケ (Axel Hacke) のエッセーを読みます。彼は 2001 年まで『南ドイツ新聞』の記者を務めていましたが、現在はフリーの作家として活躍しています。今やドイツでもっとも人気のある作家・コラムニストのひとりと言ってよいでしょう。出典は『南ドイツ新聞マガジン』に連載中のコラムを本にしたもので、タイトルは『Das Beste aus meinem Leben - Mein Alltag als Mann』。日常の何気ないエピソードを、ユーモアたっぷりに、またときに深い洞察をもって描写した軽妙なエッセー集です。この中から、おもしろそうなものをいくつか拾って読んでみます。</p> <p>テキストの訳読は、分担を決めなくてアットランダムにあてていきます。必ず全員が当事者意識を持って予習しておくこと。</p>		<p>1. テキストおよび作家についての概略解説 授業方針、評価方法等についての説明</p> <p>2. テキストの講読+解説 (1)</p> <p>3. テキストの講読+解説 (2)</p> <p>4. テキストの講読+解説 (3)</p> <p>5. テキストの講読+解説 (4)</p> <p>6. テキストの講読+解説 (5)</p> <p>7. テキストの講読+解説 (6)</p> <p>8. テキストの講読+解説 (7)</p> <p>9. テキストの講読+解説 (8)</p> <p>10. テキストの講読+解説 (9)</p> <p>11. テキストの講読+解説 (10)</p> <p>12. テキストの講読+解説 (11)</p> <p>13. テキストの講読+解説 (12)</p> <p>14. テキストの講読+解説 (13)</p> <p>15. まとめ+討論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hacke, Axel: Das Beste aus meinem Leben - Mein Alltag als Mann. (Verlag Antje Kunstmann) 2006 (プリントを配布)		学期末に行う筆記試験、および授業への参加度に基づいて評価を決定する。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fragen und Texte zur Musik</p> <p>Ist Deutschland das Land der`Musik? Wieso darf man im Konzert nicht klatschen wann man will? Solche Fragen an die Musik und verschiedene Text zur Musik sind die Grundlage der Lektüre in diesem Kurs. Anhand von unterschiedlichen Textformen wie Anekdoten, Werkbeschreibungen, Komponisten- und Komponistinnenporträts, Musikmärchen sollen verschiedene Facetten der deutschen, aber auch europäischen Musik und Musikgeschichte beleuchtet werden. Außerdem sollen von den Komponisten und Komponistinnen, die in den Texten behandelt werden, wichtige Werke (CD oder DVD) vorgestellt werden.</p> <p>Die angegebenen Texte verstehen sich als Beispiele. Änderungen sind auf Wunsch der Teilnehmer möglich.</p>		<p>1-2: Frage an die Musik: Ist Deutschland das Land der Musik?</p> <p>3: Anekdote: Chopin</p> <p>4-5: Komponistenporträt: Franz Schubert, Die Schubertiade</p> <p>6-7: Frage an die Musik: Wieso darf man im Konzert nicht klatschen wann man will?</p> <p>8-9: Werkbeschreibung: J. S. Bach, die vier Ouvertüren</p> <p>10-11: Märchen: Die Erschaffung der Geige</p> <p>12-13: Komponistinnenporträt: Clara Wieck-Schumann, Parisreisen</p> <p>14-15: Frage an die Musik: Wurde Mozart in einem Armengrab verscharrt, und wo liegt eigentlich Bach?</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fragen und Texte zur Musik</p> <p>Warum ist die Sprache der Musik Italienisch? Warum sitzen im Orchester die Geigen immer vorne? Solche Fragen an die Musik und verschiedene Text zur Musik sind die Grundlage der Lektüre in diesem Kurs. Anhand von unterschiedlichen Textformen wie Anekdoten, Werkbeschreibungen, Komponisten- und Komponistinnenporträts, Musikmärchen sollen verschiedene Facetten der deutschen, aber auch europäischen Musik und Musikgeschichte beleuchtet werden. Außerdem sollen von den Komponisten und Komponistinnen, die in den Texten behandelt werden, wichtige Werke (CD oder DVD) vorgestellt werden.</p> <p>Die angegebenen Texte verstehen sich als Beispiele. Änderungen sind auf Wunsch der Teilnehmer möglich.</p>		<p>1-2: Frage an die Musik: Warum ist die Sprache der Musik Italienisch?</p> <p>3: Anekdoten: Bach-Tschaikowsky</p> <p>4-5: Werkbeschreibung: L. van Beethoven, Die Mondscheinsonate</p> <p>6-7: Frage an die Musik: Warum sitzen im Orchester die Geigen immer vorne?</p> <p>8-9: Komponistenporträt: Franz Schubert, Schuberts Ausbildung</p> <p>10-11: Musikmärchen: Der Prinz mit der Flöte</p> <p>12-13: Komponistinnenporträt: Fanny Mendelssohn-Hensel, Ein fiktives Interview</p> <p>14-15: Frage an die Musik: Warum sind alle Söhne Bachs Musiker geworden?</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p align="center"><b>日本文化を説明するドイツ語 A</b></p> <p>私たちが、ドイツ語で日本について発信し、私たち自身について語るとき、ドイツ語母語者の語る内容には含まれないことを語らざるをえない。「味噌汁」はドイツ語で Misosuppe といわれる。「みそスープ」というわけだが、「味噌汁」はスープだろうか？ たしかに両者は「食事のときに摂取する液体状のもの」という共通点はあるが、「味噌汁」は食事の最後の頃に「飲む」のに、「スープ」は最初に「食べる」(essen)。はたして「味噌汁」は Misosuppe か？</p> <p>日本には、ドイツ語圏の文化には見られない様々な文化現象や文化遺産がある。それらをドイツ語ではどのように説明できるのだろうか？ 日本文化を語るとき、ドイツ語ではどうするのか？</p> <p>日本文化をドイツ語で説明した先例は少なくない。1993年にベルリンで開催された展覧会カタログ『日本とヨーロッパ』はドイツ語による日本文化記述の優れた記録だ。展示品の説明を中心に読んでみよう。文法書を併用して、ドイツ語の文法構造の把握にも力を入れる。</p>		01. はじめに 02. 日本発見 I 03. 日本発見 II 04. 日本発見 III 05. 南蛮屏風と風俗画 I 06. 南蛮屏風と風俗画 II 07. 蘭画と浮絵 I 08. 蘭画と浮絵 II 09. 江戸時代の肖像画 I 10. 江戸時代の肖像画 II 11. 江戸時代の輸出工芸品 I 12. 江戸時代の輸出工芸品 II 13. 江戸時代の輸出工芸品 III 14. 江戸時代の輸出工芸品 IV 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 1. <i>Japan und Europa</i> , Berlin 1993 (プリント) 2. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社) 2003 (1680円)		授業での発言を含む参加状況 (30%) と毎回提出のリアクションペーパー (30%) および随時の小テスト (40%) の総合評価。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p align="center"><b>日本文化を説明するドイツ語 B</b></p> <p>日本には、ドイツ語圏の文化には見られない様々な文化現象や文化遺産がある。それらをドイツ語ではどのように説明できるのだろうか？ 日本文化を語るとき、ドイツ語ではどうするのか？</p> <p>この春学期の問題提起を受け継いで、日本の伝統文化を説明するドイツ語のテキストを読む。そのなかでも、ドイツの日本美術史家 Irmtraud Schaarschmidt-Richter の『日本の庭園芸術』(<i>Gartenkunst in Japan</i>) は、平易なドイツ語による説明の具体性において優れている。多用された写真図版は、われわれがドイツ語を理解するためにも大いに助けになる。</p> <p>池や滝や石組み、敷石、飛び石、枯山水、石橋、木橋、灯籠、借景、植木、平安時代の庭園がこの世に実現した西方浄土など、ドイツ語でどのように言い表し、どのように説明するのだろうか。</p> <p>そこでこの本から日本庭園の基本事項を説明した箇所を抜粋して読んでみよう。文法書を併用して、ドイツ語の文法構造の把握にも力を入れる。</p>		01. はじめに 02. 日本庭園の思想 I 03. 日本庭園の思想 II 04. 日本庭園の思想 III 05. 風景としての日本庭園 06. 日本庭園の種類 07. 日本庭園のアイテム I 08. 日本庭園のアイテム II 09. 日本庭園のアイテム III 10. 日本庭園のアイテム IV 11. 日本庭園のアイテム V 12. 日本庭園と自然 13. 日本庭園と宗教 I 14. 日本庭園と宗教 II 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】 Irmtraud Schaarschmidt-Richter: <i>Gartenkunst in Japan</i> , München 1999 (プリント) 2. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社) 2003 (1680円)		授業での発言を含む参加状況 (30%) と毎回提出のリアクションペーパー (30%) および随時の小テスト (40%) の総合評価。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツの戦後映画を取り上げて、その流れと社会背景を見ていきます。映画は、日常生活の基本情報から登場人物の価値観にいたるまで、一つの社会の文化をさまざまな角度から教えてくれます。しかも活字情報と異なり、映像とストーリー展開によって、説明抜きで直接に伝えてくれるジャンルです。それだけに、歴史背景と不可分ですし、逆に歴史によって制約されたりもします。</p> <p>春学期には、主として70年代頃までの映画を対象に取り上げ、実際の映像を見る一方で、その映画に関する論評や解説あるいは時代背景を論じたテキストを読みます。</p> <p>この授業に出る学生は、配布されたテキストのコピーを、必ず前もって読んできてください。また映画を見た後では自分の意見や感想を述べたり書いたりしてもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ映画の歴史</li> <li>2. 戦後ドイツ映画の流れ</li> <li>3. 戦後の代表作の例（1）</li> <li>4. 戦後の代表作の例（2）</li> <li>5. 戦後の代表作の例（3）</li> <li>6. ニュージャーマン・シネマの成立</li> <li>7. ニュージャーマン・シネマの例（1）</li> <li>8. ニュージャーマン・シネマの例（2）</li> <li>9. 近年のドイツ映画の特徴</li> <li>10. 近年のドイツ映画の例（1）</li> <li>11. 近年のドイツ映画の例（2）</li> <li>12. 近年のドイツ映画の例（3）</li> <li>13. 近年のドイツ映画の例（4）</li> <li>14. 近年のドイツ映画の例</li> <li>15. 総まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布		学期中に数回はレポートのようなものを提出してもらるので、それで評価します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	上田 浩二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今学期は、東ドイツの映画の中から西ドイツや欧米で評価の高かった作品2点（「嘘つきヤコブ」と「パウルとパウラ」）を取り上げます。これらは、社会主義を標榜した東ドイツの「現実」を意図的に反映したものではありませんが、そこで製作されたという事実が何らかの影響を与えています。西ドイツでも評価の高かったこの2作の脚本は、現在も書店にならんでいます。</p> <p>授業では、この2作に関するさまざまな解説や論評を読み、また脚本の一部を読んでそれに対応する場面を見たりします。この授業に参加する学生は、前もって必ず配布したコピーを読んできてください。映画を見た後は、自分の感想や意見を述べたり書いたりしてもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東ドイツの映画の歴史</li> <li>2. 東ドイツの映画の流れ</li> <li>3. 「嘘つきヤコブ」（1）</li> <li>4. 「嘘つきヤコブ」（2）</li> <li>5. 「嘘つきヤコブ」（3）</li> <li>6. 「嘘つきヤコブ」（4）</li> <li>7. 「嘘つきヤコブ」（5）</li> <li>8. 東ドイツらしさはどこにあるか（1）</li> <li>9. 「パウルとパウラ」（1）</li> <li>10. 「パウルとパウラ」（2）</li> <li>11. 「パウルとパウラ」（3）</li> <li>12. 「パウルとパウラ」（4）</li> <li>13. 「パウルとパウラ」（5）</li> <li>14. 東ドイツらしさはどこにあるか（2）</li> <li>15. 総まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを配布		学期中に数回は課題を出したりレポートのようなものを書いてもらうので、それによって評価します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	前田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>1) 作曲家エメーリヒ・カールマーン（1882-1953）の代表的な主要作品を鑑賞する。</p> <p>2) 作品と台本を通して芸術的・文化的背景を探る。</p> <p>3) 生きたドイツ語及び構文解析を習得する。</p> <p>講義概要</p> <p>「白銀時代」を代表するハンガリー生まれの作曲家カールマーンはオペレッタの名曲を多数作曲した。彼の作品とドイツ語の歌詞は初演以来今日まで根強い人気を誇っている。テキスト研究に入る前に彼の人と作品についての講義を行う。</p> <p>授業では、色彩感あふれる、華麗で、むせび泣くようなチャールダーシュの音楽とウィнна・ワルツの魅力が凝縮された音楽と台本を比較しながら、また時代背景を意識しながら「時代の鏡」と云われるオペレッタの映像を通してカールマーンの魅力を探求していく。</p>		<p>1. ガイダンス（講義の概要、評価方法等について）</p> <p>2. エメーリヒ・カールマーンの人と作品についての講義</p> <p>3. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（1）</p> <p>4. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（2）</p> <p>5. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（3）</p> <p>6. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（4）</p> <p>7. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（5）</p> <p>8. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（6）</p> <p>9. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（7）</p> <p>10. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（8）</p> <p>11. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（9）</p> <p>12. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（10）</p> <p>13. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（11）</p> <p>14. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（12）</p> <p>15. 講義のまとめと討論</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献：増補版『オペラ・オペレッタ名曲選』音楽の友社編 1997年等。その他は講義時に紹介の予定。</p> <p>尚、テキスト教材は担当者の方で用意する。</p>		<p>担当者の発表、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。</p>	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	前田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>1) 作曲家フランツ・レハール（1870-1948）の代表的な主要作品の鑑賞をする。</p> <p>2) 作品と台本を通して芸術的・文化的背景を探る。</p> <p>3) 生きたドイツ語及び構文解析を習得する。</p> <p>講義概要</p> <p>「銀の時代」を代表するハンガリー生まれの作曲家レハールもカールマーン同様オペレッタの名曲を多数作曲した。彼の作品とドイツ語の歌詞も初演以来今日まで根強い人気を誇っている。テキスト研究に入る前に彼の人と作品についての講義を行う。</p> <p>彼の音楽の特色は甘美な旋律美を多用し、心の琴線に訴えるものが多い。カールマーンほどのハンガリー色はないが、ウィーン情緒を持つ優美な曲が多い。授業では、レハールの音楽と台本を比較しながら、また時代背景を意識しながら「時代の鏡」と云われるオペレッタの映像を通してレハールの魅力を探求していく。</p>		<p>1. ガイダンス（講義の概要、評価方法等について）</p> <p>2. フランツ・レハールの人と作品についての講義</p> <p>3. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（1）</p> <p>4. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（2）</p> <p>5. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（3）</p> <p>6. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（4）</p> <p>7. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（5）</p> <p>8. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（6）</p> <p>9. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（7）</p> <p>10. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（8）</p> <p>11. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（9）</p> <p>12. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（10）</p> <p>13. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（11）</p> <p>14. 作品鑑賞及び台本の講読と解説（12）</p> <p>15. 講義のまとめと討論</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>参考文献：増補版『オペラ・オペレッタ名曲選』音楽の友社編 1997年等。その他は講義時に紹介の予定。</p> <p>尚、テキスト教材は担当者の方で用意する。</p>		<p>担当者の発表、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。</p>	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼 隆一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メルヘン（昔話）はいつとは起源をたどれぬ昔から口承で語りつがれたもので、これを記録・編纂したのがグリム兄弟などの人達です。分かりやすい展開や短さから「子供のための（Kinder- und Hausmärchen）」と言われますが、その特性やスタイル（魔法昔話、動物昔話など）は多くの一般の「大人のための」文学にも用いられている。メルヘンが肯定的な新しい意味を飛躍的に得たのは18世紀末にドイツに起こったロマン主義運動とされている。それを代表する作家のノヴァーリスは「メルヘンはいわば文学（ポエジー）の規範である — すべての詩的なものはメルヘン的でなければならない。」とまで言っています。</p> <p>この時間はノヴァーリスの作品の中に挿入された短いメルヘンから始め、ドイツの文学に現れたメルヘンをさまざまな作品の中で断片的にもたどって、現代につながるドイツ語によるメルヘン指向を探ってみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション。概説、ドイツロマン派とメルヘンについて。</li> <li>2.～4. ノヴァーリスの小説『青い花』にある小話「楽師」。</li> <li>5.～8. 同じく『ザイスの弟子』の中の有名な「ヒアシンスとバラの花」</li> <li>9.～15. 『青い花』中の「王女と詩人」</li> </ol> <p>毎回テキスト部2ページをめどに講読。常に文法上の復習も織り交ぜます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリント配布。 参考文献：宮下啓三『メルヘン案内』 野村ひろし（さんずいに玄）『昔話と文学』他。</p>		<p>平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。</p>	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼 隆一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前期に引き続きドイツロマン派以降の小説などにあらわれたメルヘン読み継いでいきたい。ロマン派ではテイク、ブレンターノ。現代につながるころではビューヒナー、カフカ、ブレヒト、リルケなどを考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション。概説、ドイツロマン派とメルヘンについて。前期でやったこと等。</li> <li>2.～14. 毎回テキスト部2ページをめどに講読。常に文法上の復習も織り交ぜます。</li> <li>15. まとめ。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリント配布。 参考文献：宮下啓三『メルヘン案内』 野村ひろし（さんずいに玄）『昔話と文学』他。</p>		<p>平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。</p>	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ニーチェ（1844-1900）の処女作『悲劇の誕生』（Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik 1872）のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体（Periode）に慣れ読解力を飛躍的に向上させるのと同時に、古代ギリシアにおける「アポロ的なもの」と「ディオニュソス的なもの」という同書の中心概念を把握しつつ、この両極性の協同作業の果実ともいべきギリシア悲劇について考察して行きたい。</p> <p>（筆記試験は辞書持込可とするが、平素から辞書をこまめに引いて予習しておかないとそれに対処できなくなるので要注意。その際、自分なりの言葉で訳読する前段階として、岩波文庫などの各種翻訳書を大いに参考し役立てて欲しい。）</p>		<p>1回目 ガイダンス 2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況（3分2以上の出席が必要）と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味しつつ（最高で10%）、筆記試験（90%）の成績で評価する。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	辻本 勝好
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続いて、『悲劇の誕生』のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体（Periode）に慣れ読解力を飛躍的に向上させるのと同時に、春学期に得られた内容の理解に基づいて「美的現象としてなら我々は依然として生存に耐えることができる」という彼の「芸術家の形而上学」について、要するに実人生にとっての芸術・文化の意義について考察して行きたい。</p> <p>（筆記試験は辞書持込可とするが、平素から辞書をこまめに引いて予習しておかないとそれに対処できなくなるので要注意。その際、自分なりの言葉で訳読する前段階として、岩波文庫などの各種翻訳書を大いに参考し役立てて欲しい。）</p>		<p>1回目 ガイダンス及び春学期の内容の概要説明 2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況（3分2以上の出席が必要）と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味しつつ（最高で10%）、筆記試験（90%）の成績で評価する。	

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	岡村 りら
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>現代のドイツ語圏における現代社会の実情と文化に関する基礎的な知識を養い、この地域に対する関心を深めることを目的としています。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>政治・経済だけではなく、様々な角度からドイツ、そしてオーストリア、スイスを概観し、時事問題、現代事情への理解を深めていきます。</p> <p>また現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。</p> <p>講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2 ドイツの地形と自然</p> <p>3 オーストリア、スイスの地形と自然</p> <p>4 ドイツの政党/政治体制</p> <p>5 オーストリア、スイスの政党/政治体制</p> <p>6 ドイツとEUの関係</p> <p>7 オーストリア、スイスのEUとの関係</p> <p>8 ドイツの産業構造</p> <p>9 オーストリア、スイスの産業構造</p> <p>10 マスメディア</p> <p>11 人と文化 ①</p> <p>12 人と文化 ②</p> <p>13 人と文化 ③</p> <p>14 人と文化 ④</p> <p>15 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料は適宜プリントを配布します。参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	岡村 りら
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>春学期に学んだことをベースに、ドイツにおける現代事情に関する知識をさらに深めることを目的としています。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>春学期とは異なった角度から現代事情を考察し、理解を深めます。</p> <p>また春学期に引き続き、現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。</p> <p>講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2 ドイツ戦後の歴史① 壁崩壊まで</p> <p>3 ドイツ戦後の歴史② 統一までと統一後</p> <p>4 若者① 教育制度全般</p> <p>5 若者② 教育/学術/研究</p> <p>6 若者③ 若者文化</p> <p>7 家族① 家族形態</p> <p>8 家族② 余暇/ライフスタイル</p> <p>9 福祉</p> <p>10 医療</p> <p>11 宗教</p> <p>12 移民・外国人①</p> <p>13 移民・外国人②</p> <p>14 まとめ</p> <p>15 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料は適宜プリントを配布します。参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	



09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏歴史概論 a ドイツ史概論 I	担当者	古田 善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦までを主要な対象時期に設定し、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、DVDやビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回 &lt;はじめに&gt;ドイツ語圏の歴史理解にむけて 第2回 「記憶」をめぐる論争(1)ドイツ 第3回 「記憶」をめぐる論争(2)オーストリア/日本 第4回 ビデオ上映と解説、映画『ショア』関連 第5回 ハプスブルク帝国史(1)マリア・テレジア以前 第6回 ハプスブルク帝国史(2)マリア・テレジアの時代 第7回 19世紀史(1)ナポレオンとドイツ・オーストリア 第8回 19世紀史(2)1848年革命 第9回 19世紀史(3)若きヒトラーと世紀末ウィーン 第10回 現代の開幕(1)ドイツ統一と世界帝国への夢 第11回 現代の開幕(2)第一次世界大戦（原因） 第12回 映像で見る第一次世界大戦 第13回 現代の開幕(3)第一次世界大戦（経過と帰結） 第14回 &lt;補論&gt;戦時下の民衆生活（ドイツ、オーストリア） 第15回 春学期のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011		学期末に実施する筆記試験および平常点に基づいて決定する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏歴史概論 b ドイツ史概論 II	担当者	古田 善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の現代史（第一次世界大戦以降）を受講生にわかりやすく解説することである。受講生は20世紀および21世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識と歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 秋学期は、(1)ドイツ革命とワイマール共和国、(2)ヒトラーの独裁体制、(3)第二次世界大戦、(4)戦後ドイツの歩み、を主要なテーマとして、ドイツ語圏の激動の現代史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回 革命の時代、ドイツ革命とオーストリア革命 第2回 ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第3回 ファシズムの誕生(1)イタリアを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第4回 ファシズムの誕生(2)ナチス運動の誕生 第5回 &lt;補論&gt;ファシズム論の変遷(全体主義論、権威主義体制論、近代化論) 第6回 危機の30年代 (1)民主政治システムの崩壊 第7回 危機の30年代(2)戦間期の国際政治 第8回 ビデオ上映と解説、「ナチズム」関連 第9回 受容と抵抗(1)ナチスによる民衆統轄 第10回 受容と抵抗(2)反ナチス抵抗運動の諸相 第11回 第二次世界大戦(1)大戦の経過と帰結 第12回 第二次世界大戦(2)ホロコーストと戦後補償 第13回 占領改革と戦後復興、ドイツ占領から東西ドイツの成立まで 第14回 ドイツ統一とEU新時代 第15回 秋学期のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011		学期末に実施する筆記試験および平常点に基づいて決定する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 a ドイツの経済 I	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要</p> <p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、<b>Sozialstaat</b> (社会国家) という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>春学期は、EU最大の経済大国であるドイツを対象を絞り、その政治や経済の仕組みを概観します。その上で、現代ドイツの政治・経済が抱えている問題と課題を考えます。</p> <p>授業では、ドイツの政治・経済・社会の基本的仕組みを押さえます。最後に東ドイツ問題、EU との関係にも触れます。日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス——講義の概要</li> <li>2. 憲法</li> <li>3. 政治システム (1) 立法機関、行政機関</li> <li>4. 統治システム (2) 司法機関、中央銀行</li> <li>5. 政党</li> <li>6. 選挙制度</li> <li>7. 経済システム (1) 社会的市場経済</li> <li>8. 経済システム (2) 労使関係</li> <li>9. 経済システム (3) 産業組織</li> <li>10. 社会保障 (1) 特徴</li> <li>11. 社会保障 (2) 歴史と現状</li> <li>12. マスメディア</li> <li>13. 東ドイツ問題</li> <li>14. EU とドイツ</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回授業レジュメ (プリント) を配布します。		学期末試験の結果によって評価するが (80%)、平常点も評価対象とする (20%)。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 b ドイツの経済 II	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要</p> <p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、<b>Sozialstaat</b> (社会国家) という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>秋学期は、社会国家の根幹をなしている社会政策・労働政策に目を向け、これを個別領域ごとに具体的に上げて検討していきます。日本を含めた国際比較を意識しながら問題の背景や展望について考えていきます。</p> <p>授業の内容</p> <p>(職業) 教育分野、雇用分野、失業や貧困、ワークライフバランスなどを取り上げます。日本でも大きな問題になっているテーマですので、参加者には時事問題にアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス——講義の概要</li> <li>2. 教育制度 (1) 教育制度全般</li> <li>3. 教育制度 (2) 職業教育</li> <li>4. 教育制度 (3) 高等教育</li> <li>5. 教育制度 (4) 教育予算と機会均等</li> <li>6. 雇用システムと労使関係 (1) 導入 日本の状況</li> <li>7. 雇用システムと労使関係 (2) 労働協約自治</li> <li>8. 雇用システムと労使関係 (3) 共同決定</li> <li>9. 教育制度と雇用制度の関係 日独比較</li> <li>10. 労働市場 (1) 労働市場の特徴</li> <li>11. 労働市場 (2) 近年の変化——ハルツ改革</li> <li>12. ワークライフバランス (1)</li> <li>13. ワークライフバランス (2)</li> <li>14. 社会国家の歴史と現状</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回授業レジュメ (プリント) を配布します。		学期末試験の結果によって評価するが (80%)、平常点も評価対象とする (20%)。	

08年度以前	ドイツの法律 I	担当者	市川 須美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ法 a では、ドイツ法の基礎知識として、ドイツ法資料へのアクセスのしかたを学びながら、基本法の構成・特徴を学びます。その後、ドイツと日本で共通の問題点を抱えている各法領域を、それぞれの解決方向の共通性と相違点を比較しながら、分析してみたいと考えています。基本的には公法領域が中心となりますが、教育法や社会保障法・福祉法など社会法領域も視野に入れていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の進め方とスケジュール</li> <li>2 ドイツ法文献へのアクセス</li> <li>3 ドイツ基本法の特徴</li> <li>4 ドイツ基本法の構造（1）</li> <li>5 ドイツ基本法の構造（2）</li> <li>6 ドイツの地方自治（1）3層構造と4類型</li> <li>7 ドイツの地方自治（2）直接請求</li> <li>8 ドイツの裁判制度</li> <li>9 ドイツ教育制度と教育改革</li> <li>10 ドイツ教育裁判</li> <li>11 ドイツ親子法</li> <li>12 ドイツの児童福祉法</li> <li>13 ドイツと日本の児童虐待</li> <li>14 ドイツと日本の子ども手当</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
指定しませんが、ドイツ語辞書は必要です。		試験またはレポート	

08年度以前	ドイツの法律 II	担当者	宗田 貴行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ法は、日本の法制度が範としたものである。英米法の影響が今日において強まっているとはいえ、現在でもなお、ドイツ法を学ぶ意義は大いにあると見てよい。</p> <p>そこで、本講義では、ドイツの法律のうち、消費者法について、基本的事項を理解することを目的とする。</p> <p>上記目的の達成のために、ドイツにおける消費者法の基本的事項をできるかぎり、図、表、グラフなどを用いて分かり易く解説する。</p> <p>ドイツの裁判制度についての理解も必要となるので、ドイツの裁判についてのビデオ教材も使用して解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロ ドイツ法を学ぶわけ 大陸法と英米法</li> <li>2 小売店の営業時間の制限：閉店法①</li> <li>3 小売店の営業時間の制限：閉店法②</li> <li>4 景品規制①景品令の制定から廃止まで</li> <li>5 景品規制②景品令の制定から廃止まで</li> <li>6 割引規制～割引法の制定から廃止まで～</li> <li>7 書籍再販制度①定価販売の根拠</li> <li>8 書籍再販制度②ポイント制との関係</li> <li>9 不招請勧誘規制①～電話勧誘・DM～</li> <li>10 不招請勧誘規制②～訪問販売～</li> <li>11 不招請勧誘規制③～FAX 広告・電子メール広告～</li> <li>12 消費者団体訴訟制度①差止請求権制度</li> <li>13 消費者団体訴訟制度②法律相談法関係の制度</li> <li>14 消費者団体訴訟制度③利益剥奪請求権制度</li> <li>15 裁判制度</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
とくになし。		レポート	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の歴史 a ドイツの歴史 I	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「映像の中のドイツ語圏の歴史」</p> <p>ドイツ語圏のれきしに関しては数多くの映画やフィルムがあるが、それらは監督や作者の独自の歴史解釈をおこなっている。実際のフィルムをみることによって、それらの解釈の当否を解説と議論の中で考えていく。</p>		<p>I) 具体的なプログラムの発表</p> <p>2) -4) 「サウンド・オブ・ミュージック」とオーストリアの併合問題</p> <p>5) -7) 「シンドラーのリスト」とシンドラー評価の問題</p> <p>8) -10) 「ぐっばいレーニン」と東ドイツの歴史の意味</p> <p>11) -13) 「ブリキの太鼓」と戦後ドイツの精神構造</p> <p>14) -15) 全体討論</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		各階のレポート提出による	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の歴史 b ドイツの歴史 II	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「映像の中のドイツ語圏の歴史」</p> <p>ドイツ語圏のれきしに関しては数多くの映画やフィルムがあるが、それらは監督や作者の独自の歴史解釈をおこなっている。実際のフィルムをみることによって、それらの解釈の当否を解説と議論の中で考えていく。</p>		<p>具体的なプログラムは春学期の終わりに発表。 進行は春学期と類似するが対照は少し古い時代を含む。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		各階のレポート提出による	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 a ドイツの地誌・民俗 I	担当者	飯嶋 曜子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、ドイツ語圏の地誌を把握することを目的とし、対象地域をライン川流域地域とする。ライン川は、スイス・アルプスに源を発し、リヒテンシュタイン、オーストリア、ドイツ、フランスを経てオランダで北海に注ぐヨーロッパを代表する国際河川である。古くからライン川はヨーロッパの南北交通の大動脈として機能しており、その流域には多くの都市が発展した。本講義では、ドイツ人が「父なるライン」と呼ぶライン川の流れに沿って、流域の各都市の特性を明らかにしながら受講者とともに旅をしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライン川の地理</li> <li>2. Alpenrhein(1)：氷河地形</li> <li>3. Alpenrhein(2)：アルプスの土地利用</li> <li>4. Hochrhein(1)：ボーデン湖</li> <li>5. Hochrhein(2)：原子力発電—スイスのエネルギー政策</li> <li>6. Hochrhein(3)：スイスの政治システム、経済システム</li> <li>7. Oberrhein(1)：バーゼル—国境を越える都市圏</li> <li>8. Oberrhein(2)：アルザスの地政学</li> <li>9. Oberrhein(3)：オーバーライン地溝帯、黒い森</li> <li>10. Mittelrhein：ライン峡谷</li> <li>11. Niederrhein(1)：ボン—ドイツの都市システム</li> <li>12. Niederrhein(2)：ケルン—景観論争</li> <li>13. Niederrhein(3)：エムシャーパーク—産業構造の変化と地域活性化</li> <li>14. Rheindelta：オランダ—ポルダー—モデル</li> <li>15. まとめ：ライン川流域圏</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない</p>		レポートもしくは試験により評価	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 b ドイツの地誌・民俗 II	担当者	岡村 りら
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学ぶこと。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そして、実際ドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 様々な環境問題をテーマとして取り上げ、各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかないので、この授業では環境問題を総合的に捉えることに重きをおきます。 また日本との比較なども織り交ぜながら、環境問題を事象としてだけ捉えるのではなく、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 環境問題・環境政策の概要</li> <li>3. ドイツ環境行政の歴史としくみ</li> <li>4. 各主体（緑の党を始めとする政党・企業・NGO・市民など）の役割</li> <li>5. 廃棄物・リサイクル（1）</li> <li>6. 廃棄物・リサイクル（2）</li> <li>7. 地球環境問題（1）（オゾン層破壊・生物多様性など）</li> <li>8. 地球環境問題（2）（気候変動・温暖化問題）</li> <li>9. エネルギー問題（1）</li> <li>10. エネルギー問題（2）</li> <li>11. 大気汚染・交通政策</li> <li>12. 環境教育</li> <li>13. 地域、自治体の試み</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。</p>		<p>学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。</p>	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏と EU a ドイツの政治・対外関係 I	担当者	飯嶋 曜子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌や EU の制度や歴史に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、特に EU の共通農業政策と、地域政策（構造政策）に焦点を当て、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、EU と各地域との関係について考察していく。</p> <p>*注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヨーロッパとは何か</li> <li>2. EU と地域</li> <li>3. EU の制度</li> <li>4. EU の機能</li> <li>5. EU の政策</li> <li>6. EU の形成・発展過程(1)</li> <li>7. EU の形成・発展過程(2)</li> <li>8. EU の形成・発展過程(3)</li> <li>9. EU の東方拡大(1)</li> <li>10. EU の東方拡大(2)</li> <li>11. EU の農業政策(1)</li> <li>12. EU の農業政策(2)</li> <li>13. EU の構造政策(1)</li> <li>14. EU の構造政策(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏と EU b ドイツの政治・対外関係 II	担当者	飯嶋 曜子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、ドイツの地域や都市の構造とその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて具体的な事例をもとに明らかにしていく。</p> <p>*注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：ドイツの地域・都市</li> <li>2. ドイツ再統一（1）：ベルリンの地政学</li> <li>3. ドイツ再統一（2）：社会主義的都市の構造</li> <li>4. ドイツ再統一（3）：東ドイツの地方都市</li> <li>5. ドイツ再統一（4）：冷戦後の旧東ドイツ都市</li> <li>6. ドイツ再統一（5）：プレントラウアー・ベルク</li> <li>7. ドイツ再統一（6）：ポツダム広場</li> <li>8. ヨーロッパ統合（1）：EU とドイツ</li> <li>9. ヨーロッパ統合（2）：統合と地域間格差</li> <li>10. ヨーロッパ統合（3）：EU の構造政策、都市政策</li> <li>11. ヨーロッパ統合（4）：ユーロリージョン</li> <li>12. 地方分権（1）：多極分散型国家</li> <li>13. 地方分権（2）：空間整備政策</li> <li>14. 地方分権（3）：都市計画</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

09 年度以降 (秋)	ドイツ語圏現代社会・歴史特殊講義	担当者	客員教授 C. デーリヒス (マールブルク大学教授)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Vorlesung „Politik und Gesellschaft in der globalisierten Welt “ (Deutsch, (Englisch Japanisch)) Diese Vorlesung widmet sich politischen und gesellschaftlichen Fragen der Gegenwart in einer globalisierten Welt. Es wird eine kurze Einführung in das internationale Geschehen nach 1945 gegeben, welche die Implikationen der internationalen Beziehungen für die Entwicklung von Gesellschaften im globalen Norden, Sueden, Westen und Osten zeigt. Wir behandeln dann grundlegende Themen aus Politik und Gesellschaft, die ueber die Grenzen hinweg von Relevanz sind - z.B. Migration, Nahrung, Konsum, Bildung, soziale Sicherung („arm und reich “), <i>land grabbing</i>, Entwicklungshilfe, Krieg und Gewalt usw. Es werden zahlreiche konkrete Beispiele vorgestellt und diskutiert.</p>		<p>&lt;2013 年度 秋学期&gt; *詳細については、初回授業時に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basisliteratur auf Deutsch: Je 1 Text für eine Vorlesung (wird noch bekannt gegeben)		初回授業時に説明します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語購読（歴史）	担当者	黒田 多美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、受講者の関心のある項目を選んで読んでいきたいと思えます。</p> <p>ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、ドイツの教科書を解読することで歴史への新しい視点を獲得する機会となるでしょう。</p> <p>この授業の学習目標は、ドイツの歴史の教科書を読むことによってドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者の意図を解析することができるようにすることにあります。</p> <p>授業の進め方などについては、第1回目の授業で詳しく説明しますので、参加希望者は必ず第1回目の授業に出てください。授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。また、学期中に3回程度の課題が課せられます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(授業の進め方・評価方法・テキストについて)</li> <li>2. ドイツの教育制度と歴史教育について</li> <li>3. ドイツの歴史教科書と学習に関する概説</li> <li>4～13 購読と解説、教科書の内容や課題に関する検討</li> <li>14 全体討論</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントで配布。		授業での参加度（発表）と、課題、期末試験の成績による。 5回以上欠席した場合は、F評価になります。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語購読（歴史）	担当者	黒田 多美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、受講者の関心のある項目を選んで読んでいきたいと思えます。</p> <p>ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、ドイツの教科書を解読することで歴史への新しい視点を獲得する機会となるでしょう。</p> <p>この授業の学習目標は、ドイツの歴史の教科書を読むことによってドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者の意図を解析することができるようにすることにあります。</p> <p>授業の進め方などについては、第1回目の授業で詳しく説明しますので、参加希望者は必ず第1回目の授業に出てください。授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。また、学期中に3回程度の課題が課せられます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(授業の進め方・評価方法・テキストについて)</li> <li>2. ドイツの教育制度と歴史教育について</li> <li>3. ドイツの歴史教科書と学習に関する概説</li> <li>4～13 購読と解説、教科書の内容や課題に関する検討</li> <li>14 全体討論</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントで配布。		授業での参加度（発表）と、課題、期末試験の成績による。 5回以上欠席した場合は、F評価になります。	



09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡 敦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は比較的平易な講読教材を媒介にして、</p> <p>1. 文法知識の徹底と強化</p> <p>2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成</p> <p>を図ります。</p> <p>すなわち、学年が上がるうちに「自分はいつの間にか、同級生よりも後れをとってしまった。」とか、「(たとえば)就活で心身ともに疲弊してしまい、そもそもこのところドイツ語に接していない。よって、改めてきちんと頭で納得できる形で文法知識を習得したい。」等の思いを抱いている人に好適かと思えます。</p>		<p>この講義は3・4年生の混在クラスであることから、例年そもそも所属学年に起因する知識量に差異が見られます。加えて個々人のそれまでの学習態度に起因して、その差異がさらに増幅されてスタートラインに立つこととなります。そのような現況のもとでは、事前に機械的な進捗計画を提示しても画餅に帰することになりかねません。</p> <p>大事なことは「(見せかけの)形式を整える。」ことにあるのではなく、「中身を充実させる。」ことにあるはずです。私としては、まずは第1回講義時に「クラスの雰囲気・気配を嗅ぎとって」、講義時間内に方針を立案し、皆さんに口頭で提示します。つまり、「相手を見て最良の戦略を決める。」ということです(↓の秋学期の「授業計画」に続く)。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントにて配布します。第1回の講義時にサンプルを配布するので、実見の上、受講するか否かを決めて下さい(新聞からのコラム記事を予定しています)。</p> <p>また、独和辞典および文法規則に詳しい資料(手持ちの教科書・参考書等で可)を毎回持参して下さい。</p>		<p>講義中に私が発する設問に対する受け答えを観察。また最終講義日(第15回)にペーパーテストを実施。なお、就活従事者は、「黙って欠席を続けていて、連休明け頃にフワ〜っと様子を見にやって来る。」といった仕儀に陥らないよう注意されたし(試験問題は、出席していないと点が取りにくい仕様になっています)。</p>	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	永岡 敦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期では引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は冒頭に提示した「講義目的」の2.に移行させます。</p> <p>というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これをあたかも「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらおうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。本講義ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」から脱却し、自然な日本語への翻訳力の涵養(かんよう)を図ります。</p>		<p>以下、↑の方針を敷衍すべく、中身に具体性を持たせましょう。</p> <p>春学期においては冒頭の「講義目的」の1.に重きを置きます。したがって文法中心の内容となるため、いわゆる速読・多読の形式は採りません。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態、法の変換等を反復的に演習します。これらは、たいいてい直接の指名によって口頭(ないしは板書)での解答を求めることとなります。</p> <p>秋学期では左蘭に述べたように、「講義目的」の2.に重きを置くつもりですが、新規履修者と継続履修者の比率や春学期履修者のペーパーテストの成績を踏まえ、適切な進・深度を設定します。(早い話が、やはり顔ぶれとそのレベルに応じて柔軟に対応するということです。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（歴史）	担当者	上村 敏郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、18世紀のハプスブルク君主国の歴史に関するドイツ語の専門的な論文を精読し、ドイツ語の読解能力を修練するとともに、啓蒙の時代におけるハプスブルクの歴史に関する知識と問題意識を深めることを目的とする。</p> <p>春学期では、主として18世紀のドイツ語圏における禁書の流通をテーマとする。18世紀は出版物の流通量が爆発的に増えた時期であり、それに伴いドイツ語圏でも様々な手段で国家によって禁じられた書物の流通量が増えていった。どのようにして禁書は流通していたのか？一体そのことにどのような意味があったのか？テキスト研究を通じて、理解を深めていきたい。</p> <p>Christine Haug, Franziska Mayer, Winfried Schröder (Hrsg.), <i>Geheimliteratur und Geheimbuchhandel in Europa im 18. Jahrhundert</i> (Wiesbaden 2011)の中から選択した論文を扱う予定である。</p> <p>授業では、アトランダムに指名を行なうので、毎回の予習は必須です。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキスト講読</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、プリントを配布		授業への出席、発言の積極性、課題への取り組み 期末試験の成績	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（歴史）	担当者	上村 敏郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、18世紀のハプスブルク君主国の歴史に関するドイツ語の専門的な論文を精読し、ドイツ語の読解能力を修練するとともに、啓蒙の時代におけるハプスブルクの歴史に関する知識と問題意識を深めることを目的とする。</p> <p>秋学期では、主として18世紀のハプスブルク君主国の歴史を概観する。18世紀においてハプスブルク君主国（オーストリア）はドイツ語圏一の大国であった。ハプスブルク君主国は、ドイツ語圏だけでなく、現在のハンガリーやチェコなどの東中欧にまで至る多民族国家であり、その歴史も複雑なものである。18世紀という時代はハプスブルクの歴史にとっていったいどのような意味を持っていたのか？テキスト研究を通じて理解を深めていきたい。</p> <p>Karl Vocelka, <i>Österreichische Geschichte 1699-1815: Glanz und Untergang der höfischen Welt</i> (Wien 2001)の中から数章を選択して扱う予定である。</p> <p>授業では、アトランダムに指名を行なうので、毎回の予習は必須です。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキスト講読</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、プリントを配布		授業への出席、発言の積極性、課題への取り組み 期末試験の成績	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	下川 浩
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツ語圏の現代社会に大きな影響を与えた社会哲学者2人の文献を分担のうえ、要旨を発表してもらい、内容についての討論を行います。		1. 文献コピー配布・分担 2～14. 以下順番に発表とその内容についての討論 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Jürgen Habermas & Niklas Luhmann: Theorie der Gesellschaft oder Sozialtechnologie. 1971(Suhrkamp)		済んだところまでの内容に関する最終レポートをポータルサイトを通じて定期試験前日までに提出し、自己評価してもらい、それに基づき評価します	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	下川 浩
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツ語圏の現代社会に大きな影響を与えた社会哲学者2人の文献を分担のうえ、要旨を発表してもらい、内容についての討論を行います。		2. 文献コピー配布・分担 2～14. 以下順番に発表とその内容についての討論 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Jürgen Habermas & Niklas Luhmann: Theorie der Gesellschaft oder Sozialtechnologie. 1971(Suhrkamp)		済んだところまでの内容に関する最終レポートをポータルサイトを通じて定期試験前日までに提出し、自己評価してもらい、それに基づき評価します	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	岡村 りら
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、環境問題を中心とした現代社会事情についてのテキストを読みます。</p> <p>テキストを読み解く力を養うとともに、ドイツ語圏の現代事情についての知識を深めることも目的としています。</p> <p>テキストを「読む」だけでは意味がありません。そこで何が問題とされ、読み手に何を伝えようとしているのかを「読み解く」ために、テキスト内容に関しての発表や議論も合わせて行ないます。</p> <p>予習は必ずしてきてください。 発表や議論も行いますので、授業に積極的に参加する学生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（1回目の授業は4月17日です）</li> <li>2. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>3. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>4. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>5. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>6. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>7. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>8. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>9. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>10. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>11. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>12. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>13. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>14. テキスト購読＋解説＋議論</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、テキストは配布します。		授業への参加度、発表そして定期試験で総合的に判断します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	飯嶋 曜子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、ドイツのナショナルアトラスを読み、各地域や各都市の特性とそれが抱える諸問題について把握することを目的とする。</p> <p>ナショナルアトラス（国勢地図）とは、一国の自然、経済、政治、社会、文化などを、主題図によって空間的かつ体系的に把握するものである。</p> <p>ドイツ再統一を契機にして、ドイツ地理学会連合がライプニッツ地誌学研究所に依頼して作成されたナショナルアトラスは、1999年から2007年にわたり全12巻が出版され、600人以上の地理学者がその作成に携わった一大プロジェクトである。同アトラスは、一般的な地図とは異なり、テーマごとに詳細な論説文や統計データが記載されている。本講義では、論説文の読解に加えて、ドイツ語で作成された地図や統計を読みとく力をつけることも求められる。</p> <p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必ず予習をしてくること。</li> <li>2. 出席と発表を重視する授業形式をとるので、積極的な参加を求めます。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gesellschaft und Staat</li> <li>2. Natur und Umwelt: Relief, Boden und Wasser</li> <li>3. Bevölkerung</li> <li>4. Dörfer und Städte(1)</li> <li>5. Dörfer und Städte(2)</li> <li>6. Bildung und Kultur</li> <li>7. Arbeit und Lebensstandard</li> <li>8. Unternehmen und Märkte(1)</li> <li>9. Unternehmen und Märkte(2)</li> <li>10. Verkehr und Kommunikation(1)</li> <li>11. Verkehr und Kommunikation(2)</li> <li>12. Freizeit und Erholung(1)</li> <li>13. Freizeit und Erholung(2)</li> <li>14. Deutschland in der Welt</li> <li>15. Leben in Deutschland</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Leibniz-Instituts für Länderkunde (Hrsg.) <i>Nationalatlas Bundesrepublik Deutschland</i> , Spektrum Akademischer Verlag, Heidelberg を扱う。該当個所のコピーを配布するので毎回必ず出席すること。		定期試験の他に、毎回小テストを実施する。平常点および発表を重視する。第一回目の授業に必ず参加すること。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツ語圏権の歴史に関するドイツ語のテキストを読むことによって、ドイツ語によりドイツ語圏のれきしを学び理解していく訓練をおこなう。		1) テキスト研究の意味とテキストの内容の紹介 2) -7) 学生によるテキストの講読発表と解説 8) 中間テスト 9) -14) テキスト講読発表と解説 15) 最終テスト	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントにより配布		テストによる評価	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
ドイツ語圏権の歴史に関するドイツ語のテキストを読むことによって、ドイツ語によりドイツ語圏のれきしを学び理解していく訓練をおこなう。		1) テキスト研究の意味とテキストの内容の紹介 2) -7) 学生によるテキストの講読発表と解説 8) 中間テスト 9) -14) テキスト講読発表と解説 15) 最終テスト （テキストの内容は春とは異なる）	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントにより配布		テストによる評価	

09 年度以降	テキスト特殊研究（現代社会・歴史）b	担当者	客員教授 C. デーリヒス (マールブルク大学教授)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Textlektuere zur Vorlesung „Politik und Gesellschaft in einer globalisierten Welt “ (Deutsch, aber mit langsamer Progression)</p> <p>In dieser Lehrveranstaltung lesen wir den Basistext aus der Vorlesung noch einmal mit einem kritischen Blick. Wir arbeiten die zentralen Thesen der Autoren heraus, diskutieren die Perspektive, aus welcher der Text verfasst wurde, und beurteilen seine Systematik und seine Analyse.</p>		<p>&lt;2013 年度 秋学期&gt;</p> <p>*詳細については、初回授業時に説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
初回授業時に説明します。		初回授業時に説明します。	

# 交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。</p> <p>近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えしていきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. マスツーリズムとサステイナブル・ツーリズム</li> <li>3. 開発と持続可能性概念</li> <li>4. 地球環境問題</li> <li>5. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産）</li> <li>6. エコツーリズム（歴史と概説）</li> <li>7. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例）</li> <li>8. エコミュージアム（歴史と概説）</li> <li>9. LOHAS（ロハス）と観光</li> <li>10. 欧米のグリーンツーリズム</li> <li>11. ビデオ（水俣病）（予定）</li> <li>12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開）</li> <li>13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾</li> <li>14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流）</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験（90%）、学期中課題（10%）、出席点（+α）。</p>	



09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p>講義概要 国際会議、博覧会やイベントとは何か、その歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、国際会議、博覧会、イベントを中心に観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. イベント・コンベンションの発生と発展</li> <li>3. イベント・コンベンションとは①</li> <li>4. イベント・コンベンションとは②</li> <li>5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向</li> <li>6. イベント・コンベンションの仕組みと実務①</li> <li>7. イベント・コンベンションの仕組みと実務②</li> <li>8. イベント・コンベンション産業①</li> <li>9. イベント・コンベンション産業②</li> <li>10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備</li> <li>11. コンベンション・ビューローの役割と機能</li> <li>12. イベント・コンベンションの推進機関</li> <li>13. イベント・コンベンションの課題と展望①</li> <li>14. イベント・コンベンションの課題と展望②</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『イベント&amp;コンベンション概論』（JTB総合研究所）その他は適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>我が国は人口減少社会に突入しているが、世界の人口は今後も増加を続けると想定されている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で、他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まることになる。このような環境下で近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空事業は成長と同時に大きな変化の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>我が国における航空産業は、航空輸送産業と航空機製造産業に分かれ行政区分も異なる。しかしながら、世界の実態は、航空輸送と航空機製造が一体となって、国家を支える構造にあることから、航空の各領域の解説に加え、航空輸送と航空機製造の極めて強い連携の構造についての解説も行う。</p> <p>尚、時間に余裕があれば、航空産業におけるキャリア形成についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など）</li> <li>2. 最近の航空産業の動きなど</li> <li>3. 航空産業とキャリア形成</li> <li>4. 航空における世界の歴史</li> <li>5. JALとANAの登場と成長</li> <li>6. LCC（低コスト航空会社）</li> <li>7. アライアンス</li> <li>8. 航空産業の課題について（ディスカッション）</li> <li>9. 航空政策とJALの破綻と復活</li> <li>10. オープンスカイと規制緩和</li> <li>11. 航空安全</li> <li>12. 航空機製造ビジネス</li> <li>13. 航空産業の特性と航空運賃</li> <li>14. 空港、および国際航空法</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト（教科書）：『最新 航空事業論』（2013年2月 日本評論社）</p> <p>（注）受講生は、事前に予習しておくことを薦める。</p>		<p>ディスカッションなど講義参画：30%</p> <p>最終試験：70%</p>	

09年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村 出
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。</p> <p>文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げれば上達するものではないということだ。記事を書くことの根底には、個人として、ジャーナリストとしての確たる「ものの見方」が不可欠である。</p> <p>ものの見方には、書き手の全人格が投影されると言っている。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。この3つの心構えを理解し、記事を書くための基礎的な知識を習得してもらおう。</p> <p>新聞業界の現状についても言及する。今後、新聞紙から電子ペーパーへ媒体が変貌しても、文字情報の重要性は変わらない。日々発信される記事の功罪を具体例を交えて検証し、情報を正しく理解するための力も養ってほしい。</p> <p>講義では、文章力を高めるために実践的に参加してもらおう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。受講者は新聞必読、英語力も必要。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 新聞記事の読み方</li> <li>3. ジャーナリズムと新聞の役割</li> <li>4. ルポルタージュとは何か</li> <li>5. ルポルタージュの方法①ー取材</li> <li>6. ルポルタージュの方法②ーインタビュー</li> <li>7. ルポルタージュの方法③ー確認</li> <li>8. 課題ルポルタージュのテーマ選定</li> <li>9. どのように書くかー心構え</li> <li>10. どのように表現するかー表現の工夫</li> <li>11. どのように伝えるかー構成の仕方</li> <li>12. ルポルタージュの影響力ー国内編</li> <li>13. ルポルタージュの影響力ー国際編</li> <li>14. 課題ルポルタージュの中間発表</li> <li>15. デジタル時代の表現手法について</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		授業における課題ルポルタージュの成果（70%）と出席・質疑応答などの実績（30%）で評価する。	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p>講義概要</p> <p>旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、商品形態等について重点的に触れ、又、IT時代における旅行ビジネスの今日的課題及び将来像についても考察する。</p> <p>宿泊産業では、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にした。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要・旅行市場の現状</li> <li>2. 旅行業の機能・役割</li> <li>3. 旅行業の歩み①</li> <li>4. 旅行業の歩み②</li> <li>5. 旅行業の商品と形態</li> <li>6. 旅行業法と消費者保護</li> <li>7. 旅行業界の現状と課題</li> <li>8. 旅行業の今後</li> <li>9. ホテル業とは・ホテル業の分類</li> <li>10. 欧米におけるホテル業の歴史</li> <li>11. 日本におけるホテル業の歴史</li> <li>12. ホテル業の動向</li> <li>13. ホテルの組織と経営特性</li> <li>14. ホテル業界のホスピタリティー</li> <li>15. ホテル業の今後・講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 食の文化を見る眼：文化とは何か</li> <li>3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定）</li> <li>4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに</li> <li>5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ）</li> <li>6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間</li> <li>7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み</li> <li>8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える</li> <li>9. コーヒーのグローバルヒストリー</li> <li>10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費</li> <li>11. シビック・アグリカルチャー①</li> <li>12. シビック・アグリカルチャー②</li> <li>13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消</li> <li>14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定）</li> <li>15. 講義のまとめと試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）、出席点は+α。	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>（参考文献）  W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か</li> <li>3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』）</li> <li>4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話</li> <li>5. 教育・学び・文化</li> <li>6. ジェンダーとフェミニズム</li> <li>7. 宗教と社会開発 NGO</li> <li>8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略</li> <li>9. 開発ワーカーと異文化適応※教室ワークショップ</li> <li>10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定）</li> <li>11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛</li> <li>12. 巨大開発計画と地域住民・NGO</li> <li>13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定）</li> <li>14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から</li> <li>15. まとめ、試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO等で各自購入してください</p> <p>（参考文献）上欄を参照。</p>		<p>期末試験（60%）、学期中課題（40%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムを作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. グローバリゼーションの民族誌 1</li> <li>3. グローバリゼーションの民族誌 2</li> <li>4. 観光の誕生</li> <li>5. ビデオ上映</li> <li>6. 表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史</li> <li>8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>9. 文化装置としてのホテル</li> <li>10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>11. セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>12. 少数民族と観光—タイの事例</li> <li>13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」</li> <li>14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在</li> <li>15. まとめ・予備日</li> </ol> <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、ツーリズム産業の現状や課題を理解することを目的とする。特に、ツーリズム産業のけん引役である旅行産業におけるビジネスの実態を理解することも主要目的の一つである。</p> <p>我が国は、高度成長期以降、製造業が我が国経済のけん引役であったが、新興国の台頭により、その役割が低下している。一方、ツーリズム産業に代表されるサービス産業（第三次産業）の重要性が高まりつつある。しかし、このような方向性にはあるものの、我が国の少子高齢化・人口減少、また国際競争の激化、インターネットの普及拡大などで、ツーリズム関連産業も従来型のビジネスから脱し、新たな成功モデルの構築が求められている。</p> <p>本講義においては激しく変動する我が国及び世界のツーリズム市場を理解し、その動きの中におけるツーリズム産業の現状の理解、特にマネジメントに関わる知識の習得を目指している。より深く理解するために、「ツーリズム産業発展のための新たな処方箋は何か？」とのテーマで、ディスカッションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など）</li> <li>2. 世界の動きとツーリズム、観光産業の課題</li> <li>3. ツーリズムと企業マネジメントの基本</li> <li>4. ツーリズムと企業会計</li> <li>5. ツーリズムとマーケティング</li> <li>6. ツーリズムと価格政策（プライシング）</li> <li>7. 旅行会社の構造について</li> <li>8. ツーリズムにおける商品企画</li> <li>9. ツアーの手配とツアーの流れ、およびコンダクターの役割など（タイムマネジメントの考察も行う）</li> <li>10. ツーリズムと旅行業法</li> <li>11. ツーリズムと世界各地の文化、宗教、その他魅力</li> <li>12. ツーリズム産業発展のための新たな処方箋は何か？（ディスカッション）</li> <li>13. 新しいツーリズム商品の企画（1）（プレゼンテーション）</li> <li>14. 新しいツーリズム商品の企画（2）（プレゼンテーション）</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜個別資料を配布する。		出席、発表、受講姿勢など講義参画：70% レポートとプレゼンテーション：30%	



09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、ツーリズムにおける政策、及び課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策の一つで世界各国、各地域において推進されてきたが、世界がグローバル化する今日、その重要性がさらに高まっている。我が国では戦後の高度成長期を主にモノづくり産業が牽引してきたことから、これまでのツーリズム政策が必ずしも充分ではなかったとの評価もあるが、このような評価も踏まえながら、出来るだけ多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>ツーリズム政策は単に、レジャーの領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策の構築に挑戦するなどの試みを通して、より深く理解することを求めていく。</p> <p>尚、時間に余裕があれば、ツーリズムの領域におけるキャリア形成についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（講義概要、進め方、評価など）</li> <li>2. ツーリズム政策の目的（観光立国など）</li> <li>3. ツーリズム政策の歴史（景観法、リゾート法など）</li> <li>4. 世界におけるツーリズム政策</li> <li>5. ツーリズム政策と観光資源、クールジャパン政策</li> <li>6. 我が国の魅力について（ディスカッション）</li> <li>7. 地域振興政策（着地型観光、観光特使制度、フィルムコミッション、ニセコ、旭山動物園の成功など）</li> <li>8. ツーリズム政策の基礎と制度</li> <li>9. ツーリズム政策と情報制度</li> <li>10. 世界遺産、グリーンツーリズム、メディカルツーリズム、ソーシャルツーリズムなど</li> <li>11. ツーリズムと多様性、異文化交流、男女共同参画</li> <li>12. ツーリズム産業とキャリア形成、就職活動</li> <li>13. 新しい地域振興策（1） （プレゼンテーション）</li> <li>14. 新しい地域振興策（2） （プレゼンテーション）</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜個別資料を配布する。		出席、発表、受講姿勢など講義参画：70% レポートとプレゼンテーション：30%	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を考察し、観光の多様性を理解する。</p> <p>講義概要 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点から考察し、観光現象を多面的に理解する。</p> <p>併せて、貧困ツーリズム、戦場ツーリズムに見る観光形態の多様性や、バリ島の観光開発の光と影に触れ、文化の変容についても考える。又、ディズニーランドを模型文化としての視点より考察し観光現象の多様性を学ぶ。</p> <p>近年若者の海外旅行離れが懸念されているが、その現象を観光メディアの視点から考えてみたい。</p> <p>又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 文化への新しいアプローチとしての観光</li> <li>3. 観光の誕生・擬似イベントとしての観光</li> <li>4. メディアと観光・イメージの形成とメディア</li> <li>5. バリ島観光開発の植民地政策と文化の流れ</li> <li>6. 楽園バリ島誕生の形成と文化の流れ</li> <li>7. 観光文化のグローカル化と商品化</li> <li>8. 文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行）</li> <li>9. 疑似体験としての貧困・戦場ツーリズム</li> <li>10. 文化の商品化と観光文化・観光芸術</li> <li>11. 模型文化とディズニーランド</li> <li>12. ディズニー化とマクドナルド化</li> <li>13. 観光メディアと旅行市場形成</li> <li>14. 観光メディアと海外旅行</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『観光文化学』（山下晋司編）新曜社 その他は適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>パフォーマンス研究（Performance Studies）は、定義や体系化を拒否する反・学問だという人もいます。だから説明するのはちょっと難しいのですが、簡単にいえばパフォーマンスという概念を、演劇の上演や音楽の演奏といった芸能の分野に限定せず、文化、社会、歴史など、より広い領域に応用しようとする研究の姿勢を指します。</p> <p>例えばアイデンティティについて考えてみましょう。アイデンティティって生まれた時から各自が持っているものではないですよね？アイデンティティは、家庭から学校、職場などで、個人の外部からのさまざまな働きかけによって形成されます。こうした働きかけをパフォーマンスとして捉え、アイデンティティ構築の過程を分析することは、パフォーマンス研究の課題の一つです。もう少し拡大して考えれば社会は無数のパフォーマンスから構成されているといえます。</p> <p>2回目の授業で簡単なレポートを提出してもらいます。課題の内容は講義支援システムに掲載しておくので、1回目の授業に出ていない人も、教員名「高橋雄一郎」で検索して、必ず2回目の授業で提出してください。提出がない場合は、登録がなされていても、評価はFになります。</p>		<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第3回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第4回：パフォーマンス研究の系譜</p> <p>第5回：演劇と文化人類学</p> <p>第6回：演劇と文化人類学</p> <p>第7回：演劇と文化人類学</p> <p>第8回：記憶と表象のパフォーマンス</p> <p>第9回：記憶と表象のパフォーマンス</p> <p>第10回：ジェンダーとパフォーマンス</p> <p>第11回：ジェンダーとパフォーマンス</p> <p>第12回：パフォーマンスとコミュニティ、民族、国家</p> <p>第13回：パフォーマンスとコミュニティ、民族、国家</p> <p>第14回：パフォーマンスと現代思想</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
高橋雄一郎・鈴木健編『パフォーマンス研究』（世界思想社）、参考文献（英語文献も含む）は別途指示する。		学期中の小レポートと学期末レポートの合計。但し、2回目の授業で提出するレポートが未提出の者には単位を認定しない。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	倉澤 治雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義の目的</u>  「国際社会」は冷戦の終結後も政治、経済、宗教、領土、人権などをめぐって軋轢が絶えず、「波乱の時代」となっています。  一方、移動やコミュニケーションの手段は革新的な発展を遂げており、世界はますます狭くなりつつあります。  講義では、まず「メディア」の特性や社会での役割などを整理したうえで、「ツーリズム」との連携について考察します。  また「ツーリズム」と「メディア」のコラボレーションによって、国際社会での相互理解、平和と安定の維持、人間の創造力の開拓にどのように貢献できるか考えます。</p> <p><u>講義概要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「メディア・コンテンツ」産業の現状と制度の枠組みについて、論文を中心に紹介します。</li> <li>「ツーリズム」と「メディア」の連携によって、政治、経済、文化、芸術などに与えた影響を、映像メディアを駆使して位置づけます。</li> <li>常に国際社会の動向に敏感であるため、時事問題について、新聞記事を中心に解き明かします。</li> <li>「メディア」を利用した新しいツーリズムについて構想します。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と方法論。取り上げるテーマなどについて。</li> <li>2. 日本のメディア・コンテンツ産業の現状と課題 13兆円といわれるメディア産業の実態</li> <li>3. ジャーナリズムについて 「構成の原則」などジャーナリズム論入門</li> <li>4. ツーリズムとメディアの歴史的関係 「エジプト」「ギリシア」から「アンコール」まで</li> <li>5. ネットメディアの現状と課題 ネットメディアのリテラシーについて考察</li> <li>6. マスメディアの現状と課題</li> <li>7. ソーシャルメディアとツーリズム</li> <li>8. キュレーションの時代 「情報」から「目利き」へ</li> <li>9. メディア論の立場からツーリズムを考える</li> <li>10. 国際社会とツーリズム・メディア メディアに現れる国際情勢とツーリズムの関係</li> <li>11. 環境問題をツーリズムとメディアの立場から考える</li> <li>12. コンテンツ・ツーリズムと地域活性化 地域活性化とコンテンツについて実証的に検証</li> <li>13. アートとしてのツーリズム</li> <li>14. 「見えない国」と「行けない国」を見る 国際情勢と新しい観光資源</li> <li>15. 新しいツーリズムとメディアのコラボレーション</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しません。授業に使う記事、論文、映像などは用意します。必要なときに文献を紹介します。</p>		<p>期末定期試験 50%  毎回行う演習への参加 50%</p>	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 社会学とは</li> <li>3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは</li> <li>4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア</li> <li>5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路</li> <li>6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム</li> <li>7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容</li> <li>8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰</li> <li>9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史</li> <li>10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達</li> <li>11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定）</li> <li>12. アイデンティティについて</li> <li>13. 民際協力としての自治体国際協力</li> <li>14. 講義全体のまとめ</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（90%）、学期中宿題（10%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 地域とは何か、発展とは何か</li> <li>3. 住民参加の意義と多義性</li> <li>4. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ</li> <li>5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例</li> <li>6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例</li> <li>7. 内発的発展と外来型開発</li> <li>8. 共益から公益の創出へ：NYと東京の事例</li> <li>9. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』</li> <li>10. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例</li> <li>11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例</li> <li>12. ソーシャル・キャピタル</li> <li>13. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』（予定）</li> <li>14. まとめ：まちづくりは人づくり</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（80%）、学期中課題（20%）、出席点（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. オルタナティブ・ツーリズムの背景</li> <li>3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発）</li> <li>4. 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略</li> <li>5. 環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>6. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例</li> <li>7. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例</li> <li>8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状）</li> <li>9. 先住民と観光—北米イヌイットの事例</li> <li>10. 先住民と開発—開発的遭遇</li> <li>11. 先住民と環境主義</li> <li>12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例</li> <li>14. 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として</li> <li>15. ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から</li> </ol> <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

# 外国語学部共通科目シラバス



03年度以降	総合講座（人が世界を変える）	担当者	コーディネーター 片山 亜紀
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「一人の人間にできることには限りがある」という言い方があります。しかし歴史を見てみると、一人の人物が大きく世界を変えたり、あるいは小さくても意味のある変化をもたらしたりしている事例はたくさんあります。どんなとき、どんな条件が揃うと、人は大きなパワーを出せるのでしょうか。この総合講座では、こうした問いについて先生方といっしょに答えを探ります。オムニバス方式で、ほぼ毎回、外国語学部の先生方およびゲスト講師の方々をお招きして、一人の人物についてのお話を伺います。ゲスト講師の方には、世界を変えるためのご自身の活動について語ってもらうこともあります。</p> <p>春学期は古い時代から20世紀の人物まで通史的にたどります。個々の人物について学びつつ、世界史の大きな流れをみんなで実感できたらいいと願っています。右側「授業計画」欄に各回の予定を挙げます（敬称略、カッコ内は所属学科や大学）。順番とタイトルは変更することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 片山亜紀（英語）：ガイドダンス</li> <li>2. 木村佐千子（ドイツ語）：ルターと音楽</li> <li>3. 木村佐千子（ドイツ語）：ベートーヴェンと交響曲</li> <li>4. 江花輝昭（フランス語）：ルイ14世—イメージとしての権力</li> <li>5. 矢羽々崇（ドイツ語）：グリム兄弟とメルヘンの「発明」</li> <li>6. 片山：メアリ・ウルストンクラフトが生まれていなかったら</li> <li>7. 田村斉敏（本学非常勤講師）：ワーズワスとフランス革命</li> <li>8. Jack Wendel（英語）：Darwin and Revolution in Science</li> <li>9. 日野克美（交流文化）：鶴見祐輔と日米関係</li> <li>10. 福田美雪（フランス語）：ブシコー夫妻とデパートの誕生</li> <li>11. 崔炳美（韓国文化院）： 近代国家を目指した金玉均（キムオッキョン）の三日天下</li> <li>12. 工藤和宏（英語）： もうひとつの日米関係—W・J・フルブライトが遺したもの</li> <li>13. 本橋エレン（英語）：Beate Sirota Gordon: A Champion for Both Japanese Women &amp; Japanese Arts</li> <li>14. 上野直子（英語）：帝国の裏庭からミレニアムのロンドンへ（仮）</li> <li>15. 片山：まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に適宜紹介する		レポート点（約30%）、学期末試験（約70%） *ただし4回を越える欠席は評価対象としない	

03年度以降	総合講座（人が世界を変える）	担当者	コーディネーター 佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「一人の人間にできることには限りがある」という言い方があります。しかし歴史を見渡してみると、一人の人物が大きく世界を変えたり、あるいは小さくても意味のある変化をもたらしたりしている事例はたくさんあります。どういとき、どんな条件が揃うと、人は大きなパワーを出せるのでしょうか。また、ある人がなしたことは、どのように他の人たちに伝わっていくのでしょうか。</p> <p>この総合講座では、こうした問いについて先生方といっしょに答えを探ります。オムニバス方式で、ほぼ毎回、外国語学部の先生方およびゲスト講師の方々をお招きして、一人の人物についてのお話を伺います。秋学期のゲスト講師の方には、世界を変えるためのご自身の活動について語ってもらいます。</p> <p>春学期が歴史を扱うのに対し、秋学期は現代を扱います。秋学期からの受講も歓迎しますが、全体の趣旨を理解した上で臨んでほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 佐野康子（英語）：ガイドダンス</li> <li>2. 小池真美（JICA）：絵本を通じてトキの生息環境を変える</li> <li>3. 北野収（交流文化）：フランツ・ヴェンデルホフとフェアトレード</li> <li>4. 工藤和宏（英語）：偏見と闘う「図書館」 —Human Library 創始者 Ronni Abergel の挑戦</li> <li>5. 大重光太郎（ドイツ語）： ヴィリー・ブランと戦後ドイツの政治と社会</li> <li>6. 黒田多美子（ドイツ語）： 「戦後ドイツの歴史認識と教育：アードルフ・ヒトラーをめぐる」</li> <li>7. 古田義文（ドイツ語）：ヘルムート・コールと欧州新秩序 —ドイツ統一から欧州統合</li> <li>8. 天花寺宏美（NPO コペルニク日本支部）： BOP ビジネスで途上国の人々の暮らしを変える</li> <li>9. 橋本直子（国際移住機：IOM）： 世界における人の移動の現状と IOM の活動</li> <li>10. 原成吉（英語）：アメリカを変えた詩—Allen Ginsberg の“Howl”</li> <li>11. 鈴木英一（英語）：ノーム・チョムスキーと人文科学の革命</li> <li>12. 金子芳樹（英語）：鄧小平が変えた中国 —高度経済成長仕掛け人の功と罪</li> <li>13. 谷口亜沙子（フランス語）： ココ・シャネル—服飾界における「皆殺しの天使」</li> <li>14. 鈴木隆（フランス語）：近代的都市像を求めて —オスマン、ル・コルビュジェ、ハワード</li> <li>15. 佐野：まとめ (カッコ内は所属。順番は変更することがあります)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に適宜紹介する		レポート点（約30%）、学期末試験（約70%） *ただし4回を越える欠席は評価対象としない	

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までのヨーロッパ統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。地域統合の歴史的な前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(1)</li> <li>3. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(2)</li> <li>4. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動(3)</li> <li>5. 第2次大戦と欧州統合</li> <li>6. 戦後復興と欧州統合(1)</li> <li>7. 戦後復興と欧州統合(2)</li> <li>8. ECSCの成立(1)</li> <li>9. ECSCの成立(2)</li> <li>10. EECの成立(1)</li> <li>11. EECの成立(2)</li> <li>12. EECの定着期(1)</li> <li>13. EECの定着期(2)</li> <li>14. EECの定着期(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年		平常授業における小テスト（複数回実施、70%）と期末レポート（30%）	

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EUの歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 通貨統合(1)</li> <li>3. 通貨統合(2)</li> <li>4. 通貨統合(3)</li> <li>5. マーストリヒト条約以降のEU(1)</li> <li>6. マーストリヒト条約以降のEU(2)</li> <li>7. EUの制度</li> <li>8. EUの政策(1)</li> <li>9. EUの政策(2)</li> <li>10. EUの政策(3)</li> <li>11. 加盟国とEU(1)</li> <li>12. 加盟国とEU(2)</li> <li>13. 加盟国とEU(3)</li> <li>14. EUの課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		平常授業における小テスト（複数回実施、70%）と期末レポート（30%）	

03年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2. データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3. コンピュータの構成要素</li> <li>4. ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5. オペレーティングシステム (OS)</li> <li>6. プログラム言語</li> <li>7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11. 機械翻訳システムの演習</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要</b>：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要</b>：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	



08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1): 成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2): 成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1): 成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2): 成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 1)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【目的と概要】</b> この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行います。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」(learner language)であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なります。また、同じ学習者でも英語力が高い人と低い人の発話は多面的に異なります。しかし、一般的にそれらの違いは「何となく違う」という印象にとどまってしまう。そこでコンピューターを用いて数量的・質的に言語を分析することにより、たとえば語彙的観点、文法的観点、誤りの観点、流暢さの観点から学習者言語の特徴を見つけ出すことが可能になります。</p> <p>この授業は、コンピューターによる言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とします。それにより、言語に対する洞察力を深め、また自分自身の英語力を振り返ることも可能になるでしょう。</p> <p>各人がコンピューターを使い、演習を中心に授業を進めます。自分で学習者言語データを分析し結果をプレゼンテーションする、レポートにまとめることも課題となります。春学期は書き言葉(英文エッセイ)を分析します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 大学生による英語エッセイデータの紹介</li> <li>3. 語彙・コロケーション分析</li> <li>4. 品詞タグ付与の方法</li> <li>5. 品詞分析</li> <li>6. 品詞連鎖分析</li> <li>7. 文法分析 (1)</li> <li>8. 文法分析 (2)</li> <li>9. 誤り分析 (1)</li> <li>10. 誤り分析 (2)</li> <li>11. 流暢さ分析</li> <li>12. プレゼンテーション準備 (1)</li> <li>13. プレゼンテーション準備 (2)</li> <li>14. プレゼンテーション (1)</li> <li>15. プレゼンテーション (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席、授業活動への参加度、プレゼンテーション、レポートによる	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 2)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【概要と注意点】</b> 目的は春学期と同様です。</p> <p>秋学期は話し言葉(英語によるインタビューにおける学習者の発話)の分析を行います。受講生の皆さんに実際にデータ収集と集めたデータのコンピューターデータベース化(コーパス化)を行っていただきます。そのため、授業外活動も大いに含まれますのでその点を了承して下さい。</p> <p>また、データ分析の方法を授業内で説明はしますが、春学期の「復習程度」に留めますので、春学期の言語情報処理 Ia を履修した上での登録が望ましいです。春学期を履修せずに受講を希望する場合は；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コンピューターの操作が得意であること</li> <li>■ 言語学の基本的な知識が身につけていることを前提とします。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 日本人学習者による英語発話データの紹介</li> <li>3. 英語インタビューテストの紹介</li> <li>4. 英語インタビューの練習 【データ収集】</li> <li>5. データの書き起こし (1)</li> <li>6. データの書き起こし (2)</li> <li>7. データの加工</li> <li>8. 語彙分析</li> <li>9. 文法分析</li> <li>10. 誤り分析</li> <li>11. 流暢さ分析</li> <li>12. プレゼンテーション準備 (1)</li> <li>13. プレゼンテーション準備 (2)</li> <li>14. プレゼンテーション (1)</li> <li>15. プレゼンテーション (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席、授業活動への参加度、プレゼンテーション、レポートによる	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 1)	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的, 講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ていたとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト(1)</p> <p>8 Excel 関数のネスト(2)</p> <p>9 Excel 関数のネスト(3)</p> <p>10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>12 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>14 データベースの活用</p> <p>15 まとめと演習</p>	
<b>テキスト, 参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03 年度以降	[応用] 情報科学各論(言語情報処理 2)	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的, 講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましよう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</p> <p>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>9 品詞の使われ方と英文の特徴</p> <p>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー</p> <p>11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1)</p> <p>12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2)</p> <p>13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3)</p> <p>14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>15 まとめと演習</p>	
<b>テキスト, 参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML</u>を用いたホームページ作成技術を習得した人（<u>FTP</u>の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTMLとFTPの復習（1）</li> <li>3 HTMLとFTPの復習（2）</li> <li>4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI）</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript（1）</li> <li>7 JavaScript（2）</li> <li>8 JavaScript（3）</li> <li>9 JavaScript（4）</li> <li>10 JavaScript（5）</li> <li>11 CGIの利用</li> <li>12 総合課題（1）</li> <li>13 総合課題（2）</li> <li>14 総合課題（2）</li> <li>15 鑑賞・報告会</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。</p>	

03年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。春学期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、秋学期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 市場価格の決定</li> <li>9. 不完全競争市場</li> <li>10. 厚生経済学の基本定理</li> <li>11. 市場の失敗</li> <li>12. 所得の分配</li> <li>13. 政府による市場介入①</li> <li>14. 政府による市場介入②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。春学期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、秋学期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. 財政・金融政策の有効性①</li> <li>9. 財政・金融政策の有効性②</li> <li>10. 財政赤字と政府債務</li> <li>11. 国際金融システム</li> <li>12. 開放マクロ経済下の経済政策</li> <li>13. 景気の循環</li> <li>14. 経済成長の決定要因</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

シラバス ドイツ語学科

---

2013年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656





DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	